Social Community Nursing 機能の 定着要件の探求

報告書

2020年6月



目次

I.	研究体制		1
II.	委員会開催一覧		3
III.	研究の背景		5
IV.	目的・方法		6
V.	結果の概要		8
VI.	各事例紹介		21
	【ID1】フリーランス看護師として糖尿病患者の疾病管理を行う	22	
	【ID2】診療所が行うプロジェクト「みんなの保健室」	32	
	【ID3】診療所で活躍するスーパーナース	44	
	【ID4】医療機関の経営を通して地域の「つなぎ役」になる地域看護師	54	
	【ID5】下町から社会を見つめるかかりつけナース	64	
	【ID 6】看護系大学教員によって設立されたホームホスピスK	74	
	【ID 7】地域のニーズを形にする保健師	83	
	【ID8】地域に飛び出す感染管理認定看護師	92	
	【ID9】社会課題から事業を生み出す新時代看護師	102	
VII.	3 ヵ年のプロジェクト総括	1	106
	1.「Social Community Nursing 機能」の研究の経緯	106	
	2. 得られた主な知見	107	
	3. まとめ	107	
VIII	[. 資料	1	l 13
	資料1 計画書	114	
	資料 2 インタビューガイド 1	117	
	資料3 インタビューガイド2	119	

1. 研究体制

· Social Community Nursing 機能に関する研究委員会

田中 滋 埼玉県立大学 理事長

慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 名誉教授

 山本 則子
 東京大学大学院
 医学系研究科
 教授

 大森 純子
 東北大学大学院
 医学系研究科
 教授

堀川 尚子 日本看護協会 医療政策部 在宅看護課

社会保険·調査研究担当専門職

西山 千秋 一般財団法人オレンジクロス 事務局長

・ Social Community Nursing 機能に関する研究 Working Group

山本 則子 東京大学大学院 医学系研究科 教授

大森 純子 東北大学大学院 医学系研究科 教授

五十嵐 歩 東京大学大学院 医学系研究科 准教授

津野 陽子 埼玉県立大学 健康開発学科 准教授

野口 麻衣子 東京大学大学院 医学系研究科 助教

目 麻里子 東京大学大学院 医学系研究科 助教

稲垣 安沙 東京大学大学院 大学院生 姉崎 沙緒里 東京大学大学院 大学院生

研究協力者

增田 有葉 東京大学大学院 大学院生

岩田 友里 東京大学大学院 大学院生

鈴木 はるの 東京大学大学院 大学院生

丸山 美幸 東京大学大学院 大学院生

山田 享介 東京大学大学院 大学院生

||. 委員会開催一覧

日付		概要	詳細
2019年	7月12日	研究委員会・ 第1回 Working Group	H30 年度研究統括、2019 年度研究計画 について
	10月16日	定例ミーティング	2019 年度研究進捗確認、倫理審査委員会への変更申請箇所確認、シンポジウム
	10月23日~27日	学会発表	第 11 回アジア・オセアニア国際老年学 会議(The 11 th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019)
	11月18日	第2回Working Group	学会発表報告、2019 年度研究計画、シン ポジウム
	11月26日	定例ミーティング	2019年度研究進捗確認、学会発表準備
	11月30日 ~12月1日	学会発表	第 39 回看護科学学会学術集会
2020年	2月18日	定例ミーティング	2019 年度研究進捗、シンポジウム
	3月5日	定例ミーティング	2019 年度研究進捗、シンポジウム、 報告書構成
	3月24日	定例ミーティング	2019 年研究進捗状況確認、インタビューガイド推敲、シンポジウム、報告書構成
	4月7日	定例ミーティング	2019 年度研究進捗状況確認、シンポジウム、次回 Working Group 準備
	4月20日	第 3 回 Working Group	2019 年度研究進捗状況確認、シンポジウム、報告書の構成
	4月28日	定例ミーティング	2019 年度研究進捗状況確認、分析結果についてディスカッション、シンポジウム、報告書の構成
	5月18日	定例ミーティング	2019 年度研究進捗状況確認、分析結果に ついてディスカッション、シンポジウ ム、報告書の構成、次回 Working Group 準備
	5月25日	第4回 Working Group	2019 年度研究分析結果についてディス カッション、報告書の構成、3年間の総 括
	6月2日	定例ミーティング	2019 年度研究進捗状況確認、分析結果についてディスカッション、シンポジウム、報告書の構成、研究費執行状況、3年間の総括
	6月16日	定例ミーティング	2019 年度研究進捗状況確認、分析結果についてディスカッション、シンポジウム、報告書の構成、研究費執行状況、3年間の総括



|||. 研究の背景

地域において保健・医療・介護・福祉に関わる様々な地域課題がある中で、既存の制度や 枠組みに囚われずに地域のニーズを拾い出し、そのニーズに対応して地域住民全般の健康を 支える Social Community Nursing 機能が注目されている。

2017 度から 3 か年のプロジェクトとして Social Community Nursing 機能に関する研究に取り組んできた。1 年目の研究では、Social Community Nursing 機能を発揮して活動している看護職(Social Community Nurses(以下、SCNs)を対象とし、患者・住民・地域に貢献するために、自身のキャリアや強みを最大限に発揮する形で戦略的に活動を展開している活動を明らかにした。またこの活動について、SCNs が支援を行うアプローチの焦点と、活動の主軸を置く地域範囲に着目して探索的に類型化を行なった。

2年目は、地域住民の視点を踏まえて Social Community Nursing 機能が与える影響を検討するために、SCNs が地域組織や行政と協働して地域活動に取り組んでいる地域において研究を行なった。その結果、SCNs が現在のように地域で活動できるようになったプロセスとして、まず自治会の地域活動に住民として積極的に参加し、地域のために貢献する意思を積極的に自治会役員に伝えていたことがわかった。そして、SCNs と自治会役員の関係性が住民へと繋がり、相互的な関係性が醸成されていることが示唆された。さらに、SCNs による地域活動に参加経験のある高齢者は、医療や介護に関する安心感(必要な時に適切な医療や介護サービスを受けられ住み慣れた生活を続けられると感じること)が高いことが明らかとなった。これらの結果から、SCNs の活動によって、SCNs が地域に住む高齢者にとって頼れる存在になり、彼らの「医療や介護に関する安心感」に寄与する可能性が示唆された。

そこで、今後 Social Community Nursing 機能の拡大・普及・社会実装を目指す上で、SCNs による活動が継続し定着することが重要だと考え、2019 年度は Social Community Nursing 機能が地域に定着するための要件を明らかにすることを目的に調査を実施した。

Ⅳ. 目的・方法

1. 目的

Social Community Nurses (SCNs) による活動が定着する要件を明らかにする。

2. 方法

1) デザイン

参与観察・半構造化面接を用いた質的調査。

2) 対象者

合計 9 名の Social Community Nurses を対象とした。そのうち、7 名は 2017 年度に 調査対象となった SCNs で、2 名は今年度新たに調査協力を依頼した。いずれの対象者 も、機縁法でリクルートした。

3) データ収集方法

半構造化面接と参与観察によりデータ収集を行なった。

• 半構造化面接

インタビューガイドを用いた半構造化面接を、対象者 1 人につき 1 時間程度実施した。インタビューでは、実施している活動の変遷と、活動を定着させるための要件について中心に語ってもらった。複数の研究者がインタビューに参加したが、インタビューは主担当の一人の研究者が中心になり実施した。インタビューは、SCNs が活動する地域を訪問して実施した。なお、新型コロナウィルス感染症の感染が拡大した2020年3月以降は、オンラインでのインタビューを実施した。インタビュー内容の録音と記録は、対象者から書面にて同意を得て行なった。

参与観察

対象者一人に対して、数名の研究者が参与観察を実施した。SCNs が地域活動を実施する際に同行し、数時間観察しフィールドノートに記録した。新型コロナウィルス感染症の影響により、2020年3月以降の調査においては、参与観察は実施しなかった。

4) データ収集期間:2019年10月~2020年5月

5) 分析方法

インタビューデータから逐語録を作成し、SCNs による活動の変遷と定着させるため

の要件に着目して、繰り返し逐語録を精読し全体を把握した。その後、活動の定着要件を示す箇所を逐語録から抽出し、事例ごとに定着要件のカテゴリ・サブカテゴリを作成した。全ての事例のカテゴリ・サブカテゴリの類似性・相違性に着目して、全体の定着要件のカテゴリ・サブカテゴリを作成し、カテゴリ・サブカテゴリ名をつけた。全体のカテゴリ・サブカテゴリの検討の度に、事例ごとのカテゴリ・サブカテゴリ及びデータの見直しを行い、修正を繰り返した。研究メンバーで話し合い、データから得られた内容を全体のカテゴリ・サブカテゴリが網羅し説明出来ていることを確認し、分析を終了した。

3. 倫理的配慮

対象者へ、説明文書にて調査への協力は任意であること、無回答による不利益は生じないことを説明した。また、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、東京大学大学院 医学系研究科・医学部長の許可を受けて、研究を実施した。

Ⅴ. 結果の概要

本件研究では、Social Community Nurses(SCNs)による活動が定着する要件を明らかに することを目的に、参与観察およびインタビューを実施した。

A. 対象者概要

対象となった9名のSCNsのうち、 $ID1\sim7$ は2年前の調査における対象者であり、ID8及び9は今年度新たに対象とした者であった。表1に示すように、9名の勤務先の種類は、フリーランスや、診療所、訪問看護ステーション、株式会社等、多様であった。また、活動の概要に示すように、様々な活動が行われていた。

表 1. 対象者の概要

ID	勤務先の種類	活動の概要	
1	フリーランス	フリーランス看護師として糖尿病患者の疾病管理を行う	
2	みんなの保健室	診療所が行うプロジェクト「みんなの保健室」	
3	診療所	診療所で活躍するスーパーナース	
4	社会医療・医療法人	医療機関の経営を通して地域の「つなぎ役」になる 地域看護師	
5	訪問看護ステーション	下町から社会を見つめるかかりつけナース	
6	大学	看護系大学教員によって設立されたホームホスピス K	
7	地域包括支援センター	地域のニーズを形にする保健師	
8	病院	地域に飛び出す感染管理認定看護師	
9	株式会社	社会課題から事業を生み出す新時代看護師	

B. 活動の定着状況

 $ID1\sim7$ の SCNs が 2 年前の調査時に実施していた活動は、概ね継続していた。この 2 年間の間に終了した活動も見られたが、他の団体へ活動を委譲したものが多く、当該活動自体は継続されていたものがほとんどであった。

C. 活動の定着要件

Social Community Nurses の活動が継続し定着するための要件として、6つのカテゴリが見いだされた(図 1)。本研究の対象者らは、「1.自分たちが地域を良くしたいという信念」を持ち、「2.地域(活動)に溶け込み」、「3.持続可能な体制をつくる」ことで活動を徐々に軌道に乗せていた。そして、活動内容や仕組みなどを「4.変化するニーズに合わせて変えていく」ことで、「5.社会(地域)の中で役割を果たす」存在として、SCNsの活動を地域に根付かせていった。それにより、「6.財源を確保する」ことが容易となり、活動が定着していっていた。次ページ以降で、各カテゴリについて説明する。

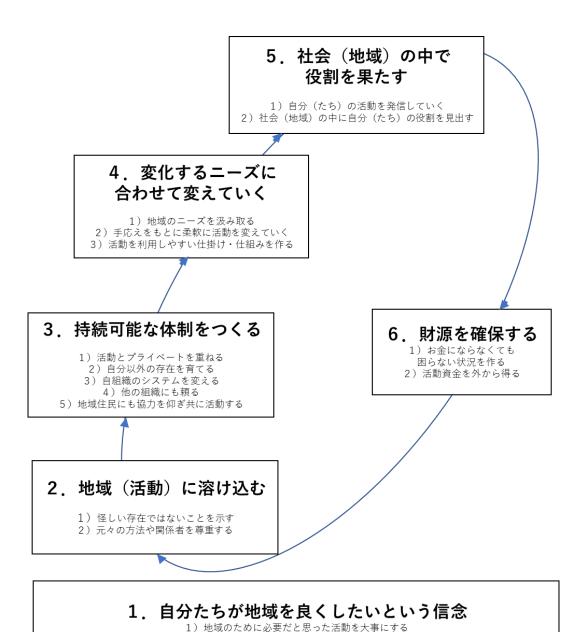


図 1. SCN の活動の定着要件

2) 自分(たち) がやるんだ、という気概

1. 自分たちが地域を良くしたいという信念

1) 地域のために必要だと思った活動を大事にする

本研究の対象者たちは、地域をより良くしたいという強い気持ちを持ち、地域のために必要だと考えた活動を実行することを大事にしていた。例えば、困っている地域住民に寄り添うために、診療所に留まらず、寺院など様々な活動な形態、場所で活動を行なっていた対象者がいた。また、ある対象者は、現状の公的なサービスでは支えられない、がん患者やホームレスの支援のために NPO 法人を設立し、地域に必要な活動を進めていた。

<実際に行っていた活動・行動>

- ・ クリニックや、お寺など様々な事業に関わることで、地域に大切だと思う活動を継続していた。(ID3)
- ・ NPO 法人を設立し、現状の公的サービスでは支えられないがん患者さんやホーム レスの人々に対する支援を行う。(ID5)

2) 自分(たち)がやるんだ、という気概

対象者たちは、地域を良くするために自分(たち)が動き出す必要があることを感じ、「私たちがやるんだ」という強い意志を持っていた。例えば、対象者の一人は、活動開始直後に周囲の関係者から理解が得られない状況であっても、糖尿病患者の疾病管理には、看護師外来や病院へのコンサルテーションなどが必要だと考え、覚悟を持って活動していた。また、医療・介護・福祉の課題がある中で、あるべき姿を考え、自分たちの活動が全国の訪問看護ステーションのモデルになるんだという気概を持って日々の活動を行っていた対象者もいた。

<実際に行っていた活動・行動>

- ・ 以前勤務していた病院の院長や、知り合いの美容室の店長に糖尿病患者さんの疾病 管理の大切さを伝え、看護師外来の開設や、美容室を間借りしてフットケアを行なっ ていた。(ID1)
- ・ 自分たちが全国の訪問看護ステーションのモデルとなるように活動する。(ID5)

2. 地域(活動)に溶け込む

1) 怪しい存在ではないことを示す

元々の活動基盤がない地域での活動は、地域の人々から警戒されたり怪しまれたりすることが多い。そこで、まずは関係者に、地域資源の一員として受け入れてもらい、地域に溶け込むことが必要であった。そのために、最初からストレートに自分のやりたいことを伝えるのではなく、相手の困りごとを確認したり、まずは既存の仕組みに取り込

まれたりする姿勢を示すなどの行動がとられていた。

<実際に行っていた活動・行動>

- ・ 離島の巡回診療では、すでに活動をしていた看護職の誇りを尊重し、まずは関係 性を築くことを重視し、既存の活動に対するアドバイスを行うタイミングを見計 らっていた。 (ID1)
- ・ 近隣商店街の新年会に参加したり、地域の班長を務めたりするなど、地域で役割を 率先して担い、地域に馴染む努力をした。(ID2)

2) 元々の方法や関係者を尊重する

本研究の対象者たちは、既存の関係者の活動や役割を尊重していた。決して、否定をしたり、強い姿勢を見せたりはせず、ケアの対象者・家族・関係者に最大限の敬意を払っていた。例えば、ある対象者は、活動を通じて得た患者さんの情報の中で、多職種と共有した方が望ましいと考えた内容に関しては、丁寧な報告を心がけ、患者さんに元から関わっていたケアマネなどの多職種が支援の際に生かせるようにしていた。また、地域活動は様々な組織と協働した活動であることを意識して、可能な限り自分の仕事の都合では断ったり、キャンセルしたりしないように慎重に優先順位をつけていた対象者もいた。

<実際に行っていた活動・行動>

- ・ 一緒に患者さんを守るという一体感を大切にし、関係多職種へ報告する際には敬意 を払っていた。(ID1)
- ・ 地域での活動が外部との対人的な活動であることを意識し、キャンセルはしないようにしている。院内の業務等が発生した場合でも慎重に優先順位を検討する。(ID10)

3. 持続可能な体制をつくる

1) 活動とプライベートを重ねる

対象者たちは、活動とプライベートの時間を明確には区別しておらず、むしろ重ね合わせていた。対象者の中には、休日に買い物をしながら、気になる地域住民を訪問して状況を確認するなど、プライベートの時間に得た情報を活動に生かしている者がいた。また、仕事の合間に気になっている高齢者の様子を見に行くなど、隙間時間を見つけて活動に充てるということも行われていた。対象者の住まいと活動圏域が重なっていることも特徴的であり、活動とプライベートを重ねるのは、住まいと活動圏域が同一または近接している状況で可能になるようだった。

<実際に行っていた活動・行動>

・ 仕事の合間や休日の買い物の途中などで、商店街の店員とこまめに話をして、地域

活動のための情報を得ていた。(ID2)

・ メールや電話など、非対面形式で支援をするようになってから、空き時間を利用して活動をしている。(ID3)

2) 自分以外の存在を育てる

自分一人での活動はいずれ無理が生じて破綻し得ることを、対象者たちは意識していた。そのため、対象者らは、自分が居なくても患者や地域住民に適切な対応ができるよう、スタッフ教育を行なったり、若い世代で地域活動に興味を持つスタッフには、実際に地域住民向けの健康講座を担当してもらったりするなど、多くの人が地域活動に関われる機会を作り、仲間を増やすことを心がけていた。

<実際に行っていた活動・行動>

- ・ 自分の勤務外の日でも、他のスタッフが患者さんへ適切な対応ができるようなスタッフ教育をしていた。(ID1)
- ・ 若い世代の職員の中で地域活動に関心を持っている人に、実際に地域住民向けの講座を担当してもらい、若い時から地域活動に関われる機会を作っていた。(ID4)

3) 自組織のシステムを変える

対象者らは、自組織内で働くスタッフが、仕事以外のプラスアルファの活動をやりたいと思えるように支援していた。例えば、ある対象者は、コミュニケーションの機会を増やし、何か問題が生じた時には相談しやすい環境を作っていた。また、組織のミッションに貢献した職員を表彰するシステムを作り、その人の知識や技術を組織全体で共有し、スタッフのモチベーションの維持・向上のための取り組みを行っていた対象者もいた。

<実際に行っていた活動・行動>

- ・ 定期的なミーティングや SNS を用いてコミュニケーションを図っていた。何か問題が生じた時には SNS などですぐに相談できる環境を作っていた。(ID2)
- ・ 組織のミッションに貢献した職員を表彰するシステムを作った。(ID9)
- ・ 組織内でのコミュニケーションを円滑にするために SNS を導入した。(ID9)

4) 他の組織にも頼る

一つの組織では活動の発展や継続に限界がある。そのため、対象者たちは自分(たち) の活動の方針を積極的に周囲に伝え、同じ理念を持って活動している組織と繋がっていた。また、自分(たち)の組織で無理して抱え込まず、他職種と連携をするなど、活動を多くの組織で行えるようにしていた。

<実際に行っていた活動・行動>

・ 同じ地域で同じ理念を持って活動している NPO 団体と出会い、同業者とのネット

ワークを構築していた。(ID2)

・ 無理をしないように心掛け、他の訪問看護ステーションにも仕事を割り振っている。 (ID5)

5) 地域住民にも協力を仰ぎ共に活動する

地域の他組織だけでなく、地域住民までも活動に巻き込み、地域住民が活動を一緒にする仲間となっていた。例えば、ある対象者は、地域活動の際に、近隣に住む女性に軽食を用意する手伝いをしてもらい、参加者でもあり、もてなす側でもある両方の立場になってもらうことで、地域活動へ主体的に関わってもらえる機会を提供していた。また、地域住民に地域活動を自分ごとと捉えてもらえるよう伝え続けることで、地域住民と共に活動することが可能となった対象者もいた。

<実際に行っていた活動・行動>

- ・ 住民を対象とした地域活動を実施する際には、近隣に住む女性に軽食を作ってもらった。女性が参加者であり、もてなす側にもなることで、地域活動へ主体的に関わってもらえる機会を提供している。(ID4)
- ・ 地域課題を自分ごととしてみてもらいたいと住民に伝え続ける。(ID7)

4. 変化するニーズに合わせて変えていく

1) 地域のニーズを汲み取る

本研究の対象者は、常に変化する地域のニーズを汲み取ることを意識していた。実際に住民の住まいに足を運んで状況を把握し、そこから地域に潜む様々なニーズを肌で感じ取っていた対象者がいた。また、ある対象者は、自治体の会議などにも積極的に参加し、そこで医療・介護だけではない地域にある様々な情報を見聞きして、地域のニーズを汲み取っていた。

<実際に行っていた活動・行動>

- ・ 既知の間柄の独居高齢者が老衰していく状況を周囲の状況から察知し、定期的に高齢者のご自宅に顔を出していた。(ID2)
- ・ S区の各委員会や部会に出席し、S区に必要なニーズを得る。(ID5)

2) 手応えをもとに柔軟に活動を変えていく

本研究の対象者らは、地域のニーズや活動の手応えから、活動の内容や方法を変える必要を感じた時には、柔軟な対応を行っていた。例えば、活動の参加者(利用者)アンケートや手紙などを見聞きし、それらを踏まえて、その後の講座や勉強会の内容を検討していた対象者がいた。また、ある対象者は、地域住民から要望を伺い、開催する勉強会の内容を変更するなど、柔軟な対応を行っていた。

<実際に行っていた活動・行動>

- ・ 地域住民向けの健康講座を行う際のアンケートや、後から受け取った手紙の内容から、ACP について問題だと思っているが話す機会がないニーズを汲み取り、健康 講座で ACP を重点的に扱うようになった。(ID4)
- ・ 住民の特性や要望を把握し、それによって、都度勉強会の内容を検討していた。 (ID8)

3) 活動を利用しやすい仕掛け・仕組みを作る

ニーズに合わせた活動であっても、利用しにくいものでは、利用者が集まらず、活動 そのものの継続が危ぶまれる。そのため、本研究の対象者たちは、参加(利用)しやす い活動となるように、参加費を無料にしたり、予約なしですぐに利用できる体制を整え たりしていた。また、気軽に相談しやすい相手となるよう心がけていた。

<実際に行っていた活動・行動>

- ・ 相談は、原則無料で、予約なしですぐに利用できる体制を整えた。(ID3)
- ・ 保健所や産業医など本来相談すべきところに相談しにくい対象者もいる。そういった人々が気楽に相談しやすい相手としての窓口のような役割を持っている。(ID8)

5. 社会(地域)の中で役割を果たす

1) 自分(たち)の活動を発信していく

本研究の対象者らは、活動の内容や成果を積極的に発信していた。例えば、地域の新聞/広報誌や行政への報告書、書籍、SNSを通しての発信等が挙げられた。また、自治会役員などの地域で重要な役割を担っている人に、活動内容や成果を伝えていた対象者もいた。

<実際に行っていた活動・行動>

- ・ 自分たちの行っていることについての本の出版や講演会を開催した。(ID3)
- ・ 地域活動に関することは、まずは自治会役員などの地域で重要な役割を担っている 人に伝えている。(ID4)
- 地方新聞での活動の紹介。(ID6)

2) 社会(地域)の中に自分(たち)の役割を見出す

対象者たちは、自分たちの活動が社会(地域)に徐々に浸透し、自分たちの活動の役割を地域社会の中に見出していっていた。例えば、口コミや実績を基に、新たな依頼が舞い込むなど、活動の蓄積及び発信によって、社会(地域)の中で必須な資源として認められ、さらなる役割を果たすようになっていた。

<実際に行っていた活動・行動>

- ・ 開始したフットケアのお店の情報が利用者の口コミで広がり、活動の発展に生かされた。(ID1)
- ・ 書いた本や NPO 法人のホームページを見て、声をかけてくる人が出てくる。(ID3)
- ・ 行政・医師会とのつながりにより、S 区において新型コロナウィルス感染症の PCR 検査の委託を受け行う。(ID5)

6. 財源を確保する

1) お金にならなくても困らない状況を作る

対象者の中には、活動資金の調達に関して、本業による収益によって活動財源が確約 されていたり、本業の給与から安定した生活が可能なため、SCNs としての活動による 持続的な収益獲得が必要ではない状況を作り出している者もいた。

例えば、ある対象者は、子育てがひと段落し、家族を養うための金銭的懸念が無くなってから、収入が不安定になる可能性のあるフリーランスの働き方を開始していた。また、他の対象者では、複数の事業に関わり収入を得ることで、利益が出にくい活動を行なっていても、生活に困らない働き方をしていた。

<実際に行っていた活動・行動>

- ・ フリーランスの看護活動は、子育てが一段落してから開始した。(ID1)
- ・ 主たる仕事や、その他複数の仕事での収入がある。(ID3)

2) 活動資金を外から得る

活動を継続し定着させるためには、財源が必要である。そのため、活動資金を得るために様々な工夫が行われていた。例えば、活動の参加者からの飲食代を新たに徴収することを検討している対象者がいた。また、社会の中で役割を果たしていたことによって、活動資金が外から安定的に得られる対象者もいた。中には、行政から業務委託を受けることで、安定的な活動資金を得て事業を継続していた対象者もいた。

<実際に行っていた活動・行動>

- ・ みんなの保健室の活動を継続する財源確保のため、今後は保健室で提供している飲み物代を参加者から徴収する制度への移行を検討していた。(ID2)
- ・ S区から業務委託を受けることで資金を得て事業を継続していた。(ID5)

表2. 全体カテゴリ・サブカテゴリと各事例のカテゴリ・サブカテゴリの対応表

c	社会課題から	事業を生み出す新時代看護師		(2)自分がやりたいと思う気持ちを大切にする	tX ,	10 m) a 0 U
c	α [地域に飛び出す感染管理認定看護師			(2)教えたことが受診行動 や他の住民に伝わり、波及 する (4)医療を地域住民に伝え、 病院と地域をつなぐ	(3)地域住民に敬意をはらう ①優先順位はその都度見 極め、できるだけ断らない ②地域の参加者の心情や 体調に気を配る ③外部のものとして地域に 入っていく (5)保健所と住民の橋渡し 役になる ①馥を割って話せる専門 家というポジションで病院 にいる
r		地域のニーズを形にする保健師				(4)世代を超えて我ことと して街に関わるよう住民 に働きかけ続ける ②地域の文化として活 動を定着させる
	6 看護系大学教員によって		(1)地域住民のニーズに 応えるための手段を考 える ①ホームホスピスを継 続させるという信念を持 っ ②ニーズに応えるため に事業の拡大を目指す	(2)理念を実現するため に挑戦し続ける (1)ケアを大切にすると いう信念を持つ (2)困難に対して挑戦し 続ける		
各事例のカテゴリ・サブカテゴリ		1	(2)地域をよくするため に、訪問看護利用者以 外の地域住民に対し支 援を通じて専門職のケ アカ向上も目指す (2)フォーマルサービス から漏れた人達を支え る情熱	(3)未来像を示し解決するためにモデルとなって るためにモデルとなって 突き進む ②地域を看護すること を、自分たちが背中で 示していく		(4)経営者として資金を 獲得し事業を運営する ①訪問看護ステーション の管理者としての顔
-	条権関の経営を通して		(7)地域のために真献 し、地域をよくしたいとい う信念を持つ		(3)垣根なく様々な活動 に関わり、人と人をつな ぐ人がいる ①垣根なく柔軟に考え、 行動できる人が活動に 関わる (5)組織と地域住民の顔 の見える関係を大切に する ②組織の職員一人一人 と地域住民と顔の見え	
c	2	診療所で活躍するスーパーナース	(3)新しいことに挑戦する (②ビジョンを語り共鳴す る			
c	2 診療所が行う	プロジェクト 「みんなの保健室」	(3)スタッフの自由な発 想を尊重する①やりたいと思った活動 を自由に行動に移せる		(1)無理のない範囲で、 地道に地域住民との交 流を続ける(義務感を持 たない) (2)地域の中での役割を 果たし、地域住民と顔の 見える関係性を築く	
•	フリーランス看護師	として糖尿病患者の 疾病管理を行う		(1)自分のいる場を生かして活動場所を作る ①自分の行動圏を活動の場にする、やりた してを口に出す	(3)患者さんを支える 人々の存在を尊重しつ つ活動する ③一緒に患者さんを思 う人々を大切にする (4)異物にならない介入 を心掛ける	(3)患者さんを支える 人々の存在を尊重し つつ活動する(3)一緒に患者さんを 思う人々を大切にする
茶	1	サブカテゴリ	地域のために 必要だと思っ た活動を大事 にする	自分(たち)が やるんだ、 という気概	怪しい存在で はないことを 示す	元々の方法や 関係者を尊重 する
	구마	-π <u>-</u>	1.自分たちが地域を良く	くしたいという信念	0. 书读(#	(動)に溶け込む

表2. 全体カテゴリ・サブカテゴリと各事例のカテゴリ・サブカテゴリの対応表

	6	社会課題から 事業を生み出す 新時代看護師			 ③学習し、成長し続けられる組織を作る 〇キャリアラダーを体系化する ②結果だけでなくプロで名を力同し、組織内で共有する ③社員一人一人のビッコンを大切にする
	8	地域に飛び出す 感染管理認定看護師		(1)病院を離れられる環境をつくる ②寿院のスタッフと信頼関係をつくる ③自分がずっといなくても 入工夫なように病院のスタッフを育て、すべきことを伝えておく 会えておく (2)教えたことが受診行動や他の住民に伝わり、波及する (3)講義をうけた住民が家 第に伝える (3)講義をうけた住民が家 第に伝える	
	7	地域のニーズを 形にする保健師		(2)ソージャルコミュニティーナースとしての自 覚を持ち後任にビジョン を伝える。 他自分の地域への役割 を理解する。 ②有機的な地域の専門 職同士のつながりを波 及させる ③ビジョンを後任に伝え る	(2)ソーシャルコミュニ ティーナースとしての自 覚を持ち後任にビジョン を伝える。 ②有機的な地域の専門 職同士のつながりを波 及させる
ات. ایات	9	看護系大学教員によって 設立された ホームホスピスド		(3)職員が働きやすい環境を整える (3)スタッフのモチベーン・コンを維持し、関係性を良くするためにコミュニケーションをとる (2)「利用者のため」という視点でスタッフ間の問題解決にあたる (3)ヘルパーが安心して看取りを行えるシステム看取りを行えるシステムを行う。 (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)	(3)職員が働きやすい環境を整える (1)スタッフのモチベー(1)スタッフのモチベーンコンを維持し、関係性を良くするためにコミュニケーションをとる (3)ヘル・(ーが安心して有取りを行えるシステムの整備と心理的な支援を行う
各事例のカテゴリ・サブカテゴリ	5	下町から社会を見つめる かかりつけナース		(2)地域をよくするため に、訪問看護利用者以 外の地域住民に対し支 接を通じて専門職のケ アカ向上も目指す の患者、地域、地域住 人、医療ケアチームを ケアする。	
	4	医療機関の経営を通して 地域の「つなぎ役」になる 地域看護師		(3)垣根なく様々な活動 に関わり、人と人をつな ぐ人がいる (3)垣根なく活動できる素 質のある人が、地域活 動に関わる機会をつくる	
	3	診療所で活躍する スーパーナース	(3)新しいことに挑戦する ③相互に関係すること をする	(1)適度な負荷がかからない体制を作る (2)利用者の「すぐ!こ」 「誰か!」相談したい ニーズを捉える ③リフレクションする	
	2	診療所が行う プロジェクト 「みんなの保健室」	(1)無理のない範囲で、 地道に地域住民との交 流を続ける(義務應を持 たない) (①仕事の隙間時間や日 常行動のついでに話を する (5)仕事と私生活の境目	(8)実現可能な人員募集 の方法を考える ①人員不足となる背景 を考える ②具体的な募集方法を 検討する	 (2) 一緒に働くスタッフの 状況を把握する ①共有ノートを使用する ②SNS を駆使して情報 共有、相談しやすい体 制を作る (3)スタッフの自由な発 想を尊重する ②スタッフがやりたい活
	-	フリーランス看護師 として糖尿病患者の 疾病管理を行う		(5)自分以外の存在を 育てる ①自分がいない時で も対応できるようにス タッフを育てる ②看護活動の楽しさを 示す	
松本		サブカテゴリ	活動と プライベートを 重ねる	自分以外の存在を育てる	自組織のシス テムを変える (職員の働き やすい環境)
	カテゴリ の、特練可能な体制をつくる(-)				

	6	社会課題から 事業を生み出す 新時代看護師	環境 (4)活動を行う上での手 応えを感じる 頼関 (4) 新たなマーケットが 生み出されたと感じる 度し ② ビジョンを共有する 中間が増える する		1	
c	∞	地域に飛び出す 感染管理認定看護師	 (1)病院を離れられる環境をつくる ②病院のスタッフと信頼関係をつくる (5)保健所と住民の橋渡し役になる ②保健師と情報共有する 		(4)関心の高い対象を把握 し、ニーズに応える (1)医療資源が少ないところ は健康管理意識が高、学 ぶ意欲が高い (2)院内外で患者、住民に 声をかけてニーズをひろう ③地域に出る前に対象 (ニーズ)を把握し準備する	
,	7	地域のニーズを 形にする保健師	(2)ソーシャルコミュニ ティーナースとしての自 覚を持ち後任にビジョン を伝える。 ②有機的な地域の専門 職同士のつながりを波 及させる (3)不測の事態に備え て、近隣住民を巻き込 んだ支援の蜘蛛の巣を 張り巡らす	(3)不測の事態に備え て、近隣住民を巻き込 んだ支援の蜘蛛の巣を 張り巡らす (4)世代を超えて我こと して街に関わるよう住民 に働きかけ続ける ①世代を超えてつながる	(1)「住民のニーズ」に忠 実であり続ける ①地域住民のニーズを オンタイムで汲み取りす ぐに行動に移す	
	9	看護系大学教員によって 設立された ホームホスピス K			(1)地域住民のニーズに 応えるための手段を考 える ②ニーズに応えるため に事業の拡大を目指す	
各事例のカテゴリ・サブカテゴリ	5	下町から社会を見つめる かかりつけナース	(4)地域の専門職を頼る べき仲間と捉え、地域 の医療介護福祉の問題 に対処するために共に 歩み成長しようとする 年前と変わっていない。 ②自己の限界を知り、 人に頼り、無理をしない 入に頼り、無理をしない う地域の訪問看護ス		(2)地域をよくするため に、訪問看護利用者以 外の地域住民に対し支 接を通じて専門職のケ アカ向上も目指す ①地域の看護師として 行政参画する	
	4	医療機関の経営を通して 地域の「つなぎ役」になる 地域看護師	(3)垣根な〈様々な活動 に関わり、人と人をつな ぐ人がいる(2)多聯種同土、参加者 同士のつなぎ役になる	(4)地域の人たちが活躍できる場・きっかけをつくる	(1)地域のニーズに合わ せた活動を行う ②社会の流れを読み、 地域のニーズに合わせ た活動を行う	
c	33	診療所で活躍する スーパーナース	(1)過度な負荷がかから ない体制を作る ②ケアマネさん・地域包 括、いろいろな人にしつ こくいろんな話をする こくいろんな話をする	(1)適度な負荷がかからない体制を作る③地域住民と共に育っていべ		
c	2	診療所が行う プロジェクト 「みんなの保健室」	(4)自分と共通した理念 を持って活動している仲間とネットワークを作る		(6)みんなの保健室の外 にも視野を広げて、潜在 的な看護ニーズのある 人を自分から探しに行く (3)みんなの保健室で普 段出会えない人の所に 自分から顔を出す ②みんなの保健室に来 ることが難しい人に対しても気を配る (1)無理のない範囲で、 地道に地域住民との交 流を続ける(義務感を持 たない) 地域住民との交流を図 り、開係性を深める り、開係性を深める (4)重要な情報を沢山知 る地域住民との交流を図 り、開係性を深める (6)重要な情報を沢山知	
,	_	フリーランス看護師 として糖尿病患者の 疾病管理を行う	(3)患者さんを支える 人々の存在を尊重し つつ活動する(1)患者さんを支える人 に目分の気付きを共 有する(2)かかりつけでは難し いことを補う活動をす る		(2)自分からニーズに 出会うための出会い づくりをする ①抹粉に出向く、人の つながりを大切にして 活用する (3)出会いを生かして 自分の存在や役割を 知らせ、活動に引っ掛 けるきっかけを残す	
松		サブカテゴリ	他の組織にも頼る	格域住民にも 協力を仰ぎ 共に活動する	地域のニーズ 冷汲み取る	
	中でゴコ		g. 特練可能な体制を	PUへゆ(a)	4.変化するニーズに合わせて変えていく(1)	

表2. 全体カテゴリ・サブカテゴリと各事例のカテゴリ・サブカテゴリの対応表

	6	社会課題から 事業を生み出す 新時代看護師				(4)活動を行う上での手 応えを感じる ② ビジョンを共有する 仲間が増える
			秦 神寺る	で	7動 波及 5元、、	及 號 1、
	8	地域に飛び出す 感染管理認定看護師	(4)関心の高い対象を把握 し、ニーズに応える ③地域に出る前に対象 (ニーズ)を把握し準備する	(4)関心の高い対象を把握 し、ニーズに応える し、ニーズに応える (4)自分にできることの引き 出しをたくさんもっておく (5)保健所と住民の橋渡し 役になる (1)腹を割って話せる専門 家というボジションで病院 にいる	(2教えたことが受診行動や他の住民に伝わり、波及や他の住民に伝わり、波及する する (国医療を地域住民に伝え、病院と地域をつなぐ	(2教えたことが受診行動 や他の住民に伝わり、波及 する ③受講者をきっかけに病院 に直接問い合わせるように なる 協医療を地域住民に伝え、 病院と地域をつなぐ
			(4) 関(7) 対(8) 対(8) 対(8) 対(8) 対(8) 対(8) 対(8) 対(8	(4)関ウ (4)国か (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保健 (5)保 (5)保 (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5	(2) か す を (4) (5) (6) (7) (7) (8) (8) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9	数のなす③にな④病数他名受賞を経過を医院
	7	地域のニーズを 形にする保健師				
-⊒'J	9	看護系大学教員によって 設立された ホームホスピスド			(4)安定した活動財源を 持つ ③大学教員の立場や交 友関係を活用したネット ワーク	(1)地域住民のニーズに 応えるための手段を考 える ③活動ともに地域が 変化する
各事例のカテゴリ・サブカテゴリ	5	下町から社会を見つめる かかりつけナース			(3)未来像を示し解決するためにモデルとなって安き進む 団 日本全国に地域医療福祉の未来像を示す	(2)地域をよくするため に、訪問看護利用者以 外の地域住民に対し支 援を通じて専門職のケ アカ向上も目指す ③地域の担い手として の看護師
	4	医療機関の経営を通して 地域の「つなぎ役」になる 地域看護師	(1)地域のニーズに合わせた活動を行う せた活動を行う ①地域活動に対する地域住民の反応をキャッチし、次の活動へと活かす	(2)地域住民が地域活動に参加しやすい仕掛けをつくる	(5組織と地域住民の顔 の見える関係を大切に する ①地域活動に関することはまず地域の要人に 伝える	
	3	診療所で活躍する スーパーナース	(3)新しいことに挑戦する ①声掛けに反応する	(2)利用者の「すぐに」 「誰かに」相談したい ニーズを捉える ①敷居を低くする ②自分の経過をわかっ てくれる人が常にいる	(3)新しいことに搭載する②ビジョンを語り共鳴する	(3)新しいことに掛戦する ②ビジョンを語り共鳴する
	2	診療所が行う プロジェクト 「みんなの保健室」				
	-	フリーランス看護師 として糖尿病患者の 疾病管理を行う				(2)自分からニーズに 出会うための出会い うくいをする ②出会いを生かして 自分の存在や役割を 知らせ、活動に引っ掛 けるきっかけを残す
全体		サブカテゴリ	手応えをもと に柔軟に活動 を変えていく	活動を 利用しやすい 仕掛け・仕組 みを作る	自分たちの 活動を発信 していく	社会(地域) の 中に 自分(たち) の 役割を見出す
	カテゴリ 4・変化するニーズに合わせて変えていく(2)				ro. 牧4(‡	地域)の中で役割を果たす

社会課題から 事業を生み出す

6

新時代看護師

をつくる ①病院の仕事をないがしろ にしない (1)病院を離れられる環境 感染管理認定看護師 地域に飛び出す 地域のニーズを 形にする保健師 看護系大学教員によって 訪問看護の経営基盤を 確立させる ②事業を発展させて経 (4)安定した活動財源を ①収益の見込めない NPO 活動継続のため、 ホームホスピスド 設立された 営を安定させる 各事例のカテゴリ・サブカテゴリ 獲得し事業を運営する ②事業の継続性という 視点で関わる地域医療 開発 下町から社会を見つめる (1)経営者として資金を かかりつけナース 医療機関の経営を通して 地域の「つなぎ役」になる ることで、組織全体とし て地域へ貢献する思い が醸成されている (6)組織の経営にも関わ 地域看護師 (4)安定した活動財源を 診療所で活躍する スーパーナース 表 2. 全体カテゴリ・サブカテゴリと各事例のカテゴリ・サブカテゴリの対応表 (7)活動資金を得る方法 「みんなの保健室」 を継続的に探索する 診療所が行う プロジェクト フリーランス看護師 として糖尿病患者の りを抜けて、ある程度 (6)病院や経済的な縛 自由に糖尿病ケアが できる状況になる 疾病管理を行う お金にならなく ても困らない 状況を作る サブカテゴリ 活動資金を 外から得る カテゴリ g. 財源を確保する

見つける。 ②社会課題解決につな がるビジネスチャンス はないか常にアンテナ

サービスのギャップを

(1)社会課題と既存の

VI. 各事例紹介

【ID1】フリーランス看護師として糖尿病患者の疾病管理を行う

1. 事例の概要

1) 概要

- ・活動拠点:病院、診療所
- ・立場:フリーランスのナース・プラクティショナー(以下 NP)
- ・主たる活動:
 - 月・木 県立病院にて NP 外来、スタッフ教育
 - 火 離島の巡回診療への同行
 - 水 A 市の糖尿病腎症重症化予防事業
 - 金 フットケアのお店
 - 日 訪問フットケア
- ・主たる活動以外の活動:
 - 土・日 任意団体の役員として会議出席、研修参加、出張

2) 地域

中国地方 A 市(市公式 HP より 2019.09 現在)

- ・面積:約190平方キロメートル
- ・人口規模:約10万人
- ・人口密度:616人/平方キロメートル
- ・高齢化率: 29.0% (このデータのみ 2015 年現在)
- ・特徴:市内北部は門前町として商業が発展。南部では、大規模自動車組立工場を頂点とする輸送用機械器具製造業が集積するなど、県内有数の製造品出荷額を誇る産業都市として発展を遂げている。

3次救急として県立総合医療センターがあるが、この他には公的な総合病院はない。2次救急は市内の5病院での輪番体制を採っており、市の中心部に診療所が点在している。

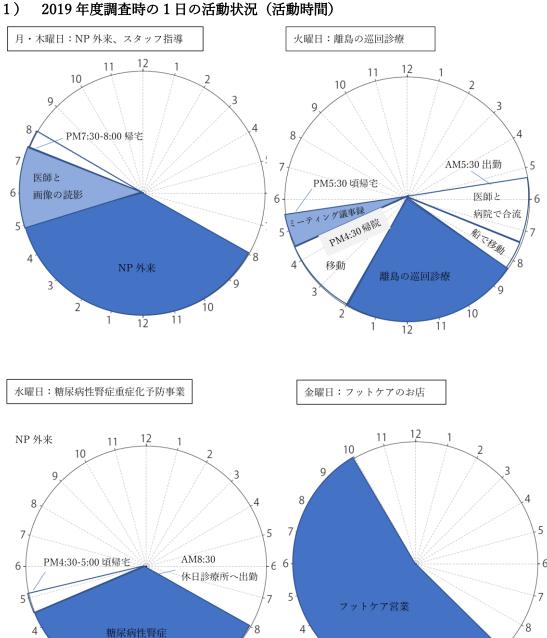
3) 対象となった看護職

- ・年齢:50代
- ·看護師臨床経験:29年
- ・過去に経験した職場:過去に経験した職場 5か所(病院3か所、診療所2か所)
- ·保有資格:看護師、糖尿病看護認定看護師、NP
- ・介護支援専門員資格:なし

2. 前回調査時点からの主な経過

水曜日の NP 外来はなくなり、終日、市の糖尿病腎症重症化予防事業に携わるように なった。来年へき地に新たな医療センターができる予定で、構築に向けた仕事が入って多 忙になっている。

3. 活動内容



10

重症化予防事業

10

11

2) 継続中の活動

- (1) 消化器専門病院での勤務、スタッフ教育(月・木曜日)
 - ・ NP 外来を運営し、糖尿病患者の診療を担当している。
 - ・ 画像の結果説明のほか、入院患者のフットケアやデータ整理も行っている。
 - ・ カルテチェックをして、他のスタッフの困りごとや、不適切な薬剤・対応がない かなどを確認、指導している。(例:シックデイの高血糖は内服ではなくインスリ ンを使用することの再周知)

(2) 糖尿病専門クリニックにてスタッフ教育(月3回)

- ・ スタッフが、糖尿病療養指導士や地域糖尿病療養指導士の資格を取得するための サポート。
- ・複雑な問題を抱える患者の対応、診察。

(3) K病院にてアドバイザーの役割(月1回)

- ・ スタッフが患者の対応で困っていることなど、その時のニーズに合わせて相談に 乗る。
- ・ 心理社会的に困難を抱える患者に関するカンファレンスに参加する。
- 一部の入院患者へ教育を行う。

(4) 糖尿病ケアを行うオフィスの運営

- 市民に向けた健康教室、糖尿病関連行事の開催。
- 全国で講演を実施。
- 大学の講師やコンサルタント業を担う。

(5) 一般社団法人 理事業務

- ・ 看護の専門性の向上を支援する NPO 法人に所属。
- ・ 認定看護師、専門看護師のキャリアアップのための研修を企画、運営する。

(6) 糖尿性腎症重症化予防事業(データヘルス事業)

- ・ 国保・レセプト・特定検診のデータベースから抽出した糖尿病の重症化が懸念される、腎症 2-3 期前半の患者を対象に、看護師、臨床栄養士からの専門的な指導を行う。糖尿病のお話、振り返り、薬剤の調整など、医師の診察では補えない部分をフォローしている。尿検査や持続血糖モニタリングなどを用いたフィジカルアセスメントも実施している。
- ・ 6か月間の専門的指導プログラムで、今年で開始から3年目になる。昨年からは 翌年2回のフォローアップも開始した。
- ・ データヘルス事業で担当した患者情報の報告を通し、かかりつけの医師・看護師 と連携をとっている。

徐々にかかりつけ医療機関の理解が増え、受診促しがされるようになった。

3) 終了した活動

特記なし。

4) 新たに開始した活動

(1) 離島への巡回診療

- ・ NP の資格を生かした新たな活動場所を探していたところ、へき地医療連携部が ある県立病院に関する情報提供を受け、そこの医師が担当する離島への巡回診療 に同行することとなった。
- ・ 診療所がないため、地域の集会所で県立病院の医師・B 市の看護師と共に診療業務を行う。
- ・ まずは、もともと活動している看護師と打ち解けることに注力している。
- 医師から依頼があり、今後フットケアの活動をしようと考えている。

(2) フットケアのお店

- ・ 医療保険の中では対応できない足の状態へ介入をしたいという思いがあった。髪 の毛を切る間隔と、足の爪を切る間隔が同じくらいだと気付き、利用している美 容室の店長に考えを話したところ、安価な賃料で場所の提供が受けられることに なり、営業を開始した。
- ・ 美容室の一角で、利用者自費のフットケアを行う。
- ・ 美容室の顧客や、医療・介助関係者の口コミ・紹介を通じて、利用者が増えている。
- ・ 対象はローリスクの患者が中心だが、下肢切断を提案されていた事例に関わり、 快方に向かったケースもある。

4. 活動の定着、発展の要件

1) カテゴリ・サブカテゴリ一覧

この事例で抽出されたカテゴリ、サブカテゴリを以下に示す。

(1) 自分のいる場を生かして活動場所を作る

① 自分の行動圏を活動の場にする、やりたいことを口に出す

(2) 自分からニーズに出会うための出会いづくりをする

- ① 挨拶に出向く、人のつながりを大切にして活用する
- ② 出会いを生かして自分の存在や役割を知らせ、活動に引っ掛けるきっかけを残す

(3) 患者さんを支える人々の存在を尊重しつつ活動する

- ① 患者さんを支える人に自分の気付きを共有する
- ② かかりつけでは難しいことを補う活動をする
- ③ 一緒に患者さんを思う人々を大切にする

(4) 異物にならない介入を心掛ける

(5) 自分以外の存在を育てる

- ① 自分がいない時でも対応できるようにスタッフを育てる
- ② 看護活動の楽しさを示す
- (6) 病院や経済的な縛りを抜けて、ある程度自由に糖尿病ケアができる状況になる

2) 各カテゴリ・サブカテゴリの内容

各カテゴリ、サブカテゴリの内容を以下に示す。

(1) 自分のいる場を生かして活動場所を作る

通っている美容室の店長や、資格を取得した病院の院長といった、今自分がいる地域の人的資源を生かし、それらの人々に自分がやりたいことを言葉にして伝えて賛同を得て、活動場所を据えている。

① 自分の行動圏を活動の場にする、やりたいことを口に出す

通っている美容室でフットケアのお店を始めたいことを話して、店舗の一角を借りられることになったり、資格を取得した病院の委員長に NP 外来開設の希望を伝えて雇用してもらったりと、以前からの縁を資源として活動場所を作っている。

たまたま私がずっと使ってる美容院の店長に、自分こんなこと考えてるんだみたいなのを、 髪カットしてもらいながら話したときに、○さんそんなこと考えてんの、じゃうちでやったら みたいな感じで言われたので。

ここはもともと私が認定看護師の資格を取らせていただいた病院だったので、そこの院長に、この地域に帰ってきたいんだけど、仕事さしてもらえるかと。あと NP 外来をしたいんだって言ったら、いいよと言ってくれたので、ここは今、時間給で雇用してもらってます。

(2) 自分からニーズに出会うための出会いづくりをする

NPの資格を生かした活動がなかなか始められない時、大きな病院や医師会などに 挨拶をしていた過程で難航している国保事業を知り、市の国保事業の担当につながっ た。また、フットケアのお店では口コミがケアを必要とする患者の発掘につながった り、出会った人に「何かあった際は連絡を」と一度つながったケースと切れないよう な声掛けをしたりしている。

① 挨拶に出向く、人のつながりを大切にして活用する

積極的に行政機関、医療機関・関係者に挨拶に出向いたり、声がかかったところ に顔を出したりすることで、新たな活動のきっかけにつながっている。

いろんなとこにごあいさつに行ってたんですが、A 市の国民健康保険の係の方が、…正直せっかくの事業がうまくいってないから、もし \bigcirc さんにお願いしたらやってもらえますかっていう話がA 市のほうから来たので、…そこからさせていただくようになって、 \bigcirc 大学の \bigcirc 先生が、国保の事業、 \bigcirc さんしたらいいのにっておっしゃってくださってたこと思い出して、ちょっとごあいさつだけ行ってみようと思って行ったのがきっかけです。

誘われたり声掛けられたりしたら、いったん顔を出しにいって、とにかくいろんな人たちとつながっていく。それは、例えばリハさんだったり、介護の人だったり、あるいは診療所の方たちだったり、お声が掛かれば…

② 出会いを生かして自分の存在や役割を知らせ、活動に引っ掛けるきっかけを残す 新しい出会いがあったときに一言残すことを心掛ける、フットケアのお店の情報 が利用者の口コミで広がるといった、一度できたつながりが、次の活動や既に始め ている活動の広がりに生かされている。

とにかくお声が掛かればいろんなとこに顔を出して、そういう人材が市には、いるんだっていうところを、知ってもらうところかなと思っています。

美容室に来られるお客さんが、あら何この人みたいな感じで。金曜日だけフットケア始めた んだみたいな店長が言ってくれて、美容室のお客さんがちょっと気になったお客さんが来られ たり。

あとは、もう今度反対に、医療者介護者関係からの口コミですね。見てほしい人がいるとか。 病院で無料相談に来られた患者さんがお客になるっていうパターンも結構あります。あと、 口コミですね。来てるお客さんがいいよって紹介してくれて、だんだんつながっていくみたい な。

何かをきっかけに、ちょっとごあいさつしなきゃいけないタイミングってあるじゃないですか。…とにかく何かあったときに、お困り事あったらぜひお声掛けくださいと言うようには必ず一言添えて、次のケアにつながるようには意識はしています。それで終わりじゃなくて、自分の役目は終わりましたじゃなくって、次のケアの初期段階に今いるんだっていうことを常に思っています。

(3) 患者さんを支える人々の存在を尊重しつつ活動する

自分から情報を発信するとともに、関係者の意見、経験、活動、患者さんとの間に 築かれた関係を大切にし、関係者の強みに敬意を払って「みんなで一緒に患者さんを 支えている」様子が感じられる。

① 患者さんを支える人に自分の気付きを共有する

患者さん指導で気づいたことは報告書を通して共有し、かかりつけでのより良い 治療や療養指導に、ケアマネージャーの支援に生かせるようにしている。

気付いたことを書いて報告書に上げておくと、先生たちから、じゃこういうことに気を付け とくとか、こういう薬を開始しましただとかいうことがあります。

クリニックの看護師さんたちが、○さんとこ行ってこの前報告書を見て、そんなこと全然知らなかったことが書いてあってびっくりして、今日の診察ではこうでした、先生とこんな話しされてましたって。あと私たちが何か追加で指導しとくことありますかとか言って。その辺りは看護師さんたちとやりとりができるようになったかなと思っています。

取りあえず私は、よく看護師さんって記録だとかを主治医に返すんです。主治医に返すことも大事だけど、ケアマネさんに今どうなってるか、自分が専門領域として見たときに、どういう状況なのかっていうのを、やっぱ私、ケアマネさんに返してくこと大事だなと思ってて。

② かかりつけでは難しいことを補う活動をする

患者さんごとに必要と考える細やかな生活指導を行い、かかりつけ医の診察で見落としがちな問題を拾っている。

先生ところに行って、ちょっと 2~3分話をして薬をもらって帰るっていうことだけでは気が付かなかった、塩分のことも、取り過ぎないように注意してねとは言われてたけど、自分が1日20グラムも塩分取ってたなんて思いもしなかったとか、お酒を飲み過ぎると夜中に低血糖になってたのに全然気が付かなかったとか。ドクターの診察だけでは補えなかったところがフォローされて、患者さんたちはやっぱり参加してよかったっていうのを、ほんと皆さんおっしゃっていただいてます。

③ 一緒に患者さんを思う人々を大切にする

関係職種の人々が患者さんのことを真剣に考え、動いていることを感じとっている。そして、一緒に患者さんを守るという一体感のもと、それぞれの発言や取り組みに敬意を払っている。

ほんとケアマネさんと、訪問看護師さんと、デイサービスの看護師さんと、施設のヘルパー さんと、みんなでその人の足をどうにかアンプタにならないように見ていこうっていう、何だ ろうな、みんなの共通した思いがあって。 みんなであの方の足を守っていくっていうのが、介護保険だけでもなく医療保険だけでもなく、そういう意味では私も利用してもらって、みんなでケアを続けていくっていう醍醐味は感じています。

(4) 異物にならない介入を心掛ける

自分が介入することで、それまで関わっていた職種と患者さんとの関係や、活動に対する誇りが傷つかないように配慮し、すでにある活動基盤や信頼関係を壊さないように心掛けている。

医師と患者さんの関係を悪化させるような、医師とか向こうの看護師さんですね、医療機関の スタッフあるいは医師との関係を悪化させるようなことは、絶対に言わない

患者さんが病院に行ったときにドクターたちに怒られないようなところも、報告書には必ず ちょっと書いて一言お願いをしておきます。ついポロッと私の前で言っちゃったけど、実は先生 に聞かれるとまずかったかなって本人たちは思ってることを、たぶん先生にはほんとは知られた くなかったことかもしれないので、一応先生の胸の内に納めといてくださいって書くこともある し、もしあれだったらちょっと先生から何げに聞いてみてくださいってこともあるし。

一生懸命患者さん、変わるんですよ、関われば。おやつもやめたり、お酒も減らしたり。そう したら薬が今度効き過ぎるので、薬を減らしてもらわないといけなんですね。なので、その辺の 薬の提案までしないと、専門医じゃない先生たちは嫌がられます。

嫌がる先生もいます。まずは一応ちらっと先生この辺りを減らしてもらうっていかがですかね、 みたいなことは言うんですけど、じゃあ〇君はどう思う?って言われたら、もうはっきり言える んですけど。薬のことはこっちに任せてくれっていう先生は、もうそれ以上私は言わないように しています。

中にケアマネさんがいて、…私にいろいろ質問とかあってそこに対応する中で、それを地域住 民の人たちが見られて、ちょっとずつ打ち解けていった感じでしょうか。

(5) 自分以外の存在を育てる

不在の時にもほかのスタッフが患者さんに適切な対応が行えるような教育をしている。楽しんで看護活動していることを示し、他の人の関心を惹いて活動が続いていくように心掛けている。

① 自分がいない時でも対応できるようにスタッフを育てる

自分の勤務外の日でも、他のスタッフが患者さんへ適切な対応ができるようなスタッフ教育をしている。

結局入院させてる患者さんは他のスタッフが見るしかなくって、…カルテチェックして、何かちょっとつじつまが合わなかったり、あるいはスタッフが困ってることないかっていう辺りでは、月木は契約先の病院のスタッフ教育は、何だろ、大々的にってわけじゃないけど、ずっ

と続けてます。

② 看護活動の楽しさを示す

意識的に楽しく活動している様子を示し、始めた看護活動に対するほかの人の興味を惹いたり、やる気につなげたりしている。

広がりを見せるまでって年数がかかるので、私が楽しく看護活動してるっていうことを示し続けることが、まずは大事かなって。あとは、ああいう活動ができたらいいなって思ってもらえるには、いつも眉間にしわを寄せて文句ばっかり言ってて、ないものねだりをしても仕方がないので…

(6)病院や経済的な縛りを抜けて、ある程度自由に糖尿病ケアができる状況になる

診療報酬算定、DPCといった制度的制約がある現状では、医療機関に身を置いて糖尿病看護に時間をかけることは難しい。糖尿病看護に熱意を持つ看護職が、能力やアイディアを発揮して自由に動ける環境が理想的だが、医療機関から離れると経済的不安定さが生じるので家庭を持っていると厳しい。自由度を持った活動には、その人からある程度経済的懸念がなくなりかつ、医療機関の外に身を置くことが条件となりそうである。

今、急性期病院で糖尿病のケアって、なかなか時間取らしてもらえないんです、DPC も少ないし。…たぶん糖尿病に関わってたこれまでのスタッフたちは、だんだん肩身が狭くなってきてるような状況で。じゃ病院を離れる勇気があるかどうかですよね。医療機関を離れて病院じゃないところで、収入も絶対落ちるし、この仕事をじゃあ本当にやるかって言われたら、やっぱ子育て世代には無理なような気がします。…別にリタイアまではいかなくっても、もう子育てが終わって病院で仕事するのはちょっとなって、でもしっかり患者さんに関わりたいなっていうような人たちがおられたら、…私もたぶん子どもを育てて学費がかかるときに、こっちにトライしたかっていったら、たぶんしなかったと思います。

事例概要図 5.

を訪問日に実施。アドバイザーとし スタッフ教育 (スタッフの困りごとや不適切な対 応の把握、指導) ・難しい患者さんの多職種カンファ フリーランス看護師として糖尿病患者の疾病管理を行う 消化器專門病院(120床) 消化器專門病院(120床) ・スタッフ教育・一部患者教育 ・月・木曜日 ·NP外来 て関わる。 - 看護資格取得後:病院勤務 手 (看護師外来の立ち上げ) 理・糖尿病看護認定看護師コース受講 門・大学院ナース・ブラクティショナー 取得コース入学 ・看護師特定行為 業務試行事業へ参加 ・フリーランスへ ・月に3日間 ・スタッフ教育(資格取得へ向けた勉 強の支援) **糖尿病ケアを行うオフィス (個人事務所)** ・難しい患者さんへの対応 糖尿病専門クリニック 認定・専門看護師のキャリアアップ 支援(講座等を開催) 糖尿病ケアに関する一般社団法人 ・病院スタッフのアドバイザー ID1. 大学非常勤講師 その他活動 ・健康教室開催 擂

市町村(H29時点では計画段階) ・ 糖尿病重症化予防事業への参加 糖尿病性腎症重症化予防事業 New:

国保・レセプト・特定検診のデータを使用してスク

かかりつけ医師と連携体制を構築。 主に腎症2-3期前半を対象とする。

受診勧奨・疾病管理。

・保険診療の対象外だが、介入が必要 ・日曜日は訪問ケアを行う 市役所や保健センター等の空きスペースを利用して、

・もともとの看護師との関係づくりに時間をかける ・B市の医師、看護師と共働 離島の巡回診療に同行 ・地域の集会所で実施

New!

・金曜日のAM9-PM10時 ・美容院の一角を利用

フットケアのお店開業

Newi

【ID2】診療所が行うプロジェクト「みんなの保健室」

1. 事例の概要

1) 概要

- ・活動拠点: みんなの保健室 A とする。駅前商店街の中の 1 区画最寄り駅から徒歩 5 分以内
- ・対象の立場:看護師
- ・主たる活動:来訪者との歓談を通じて健康関連または生活全般の相談を受けている
- ・主たる活動以外の活動:出張健康イベントの開催、認知症カフェ、身長や体重、血圧 測定などの健康チェック

2) 地域

F市

- ・面積:約500 km (平方キロメートル) ・人口:市内人口約26万人(2017年)
- ・人口密度:約500 人/km²
- ·高齢化率:F市約28%(2017年11月)
- ・特徴: みんなの保健室 A は県都にあり、駅を中心に商業・行政機能などの中核機能が 集積している。また、都市基盤整備が進み、道路や公園などが機能的に配置さ れた市街地が形成されていることが特徴である。みんなの保健室 A は駅前の 商店街の中のビルに位置している。

3) 対象となった看護職

- · 年齢: 30 歳代
- ·看護師経験:15年
- ・過去に経験した職:3カ所 ・保有資格:看護師、保健師
- · 介護支援専門員資格:無

2. 前回調査時点からの主な経過

- ・ 「みんなの保健室」の運営は大きく変わらず2年間で継続されていた。 駅前の保健室に来る人の層、内容も変わらず運営されている。 保健室の開放・相談業務、出張事業、定例ワークショップの開催など2年前からの活動 が概ね継続されていた。
- ・ 他の事業所の増加やスタッフ人員の確保が難しい面から、認知症カフェの開催や、出張 事業の一部を取りやめている。
- ・ 調査対象者の子供が成長して、保健室の開室時間が 2 時間から 5 時間に長くなり、来 室者の話がゆっくり聞けるなど、活動にゆとりが出る変化があった。

自分が動けるようになったからですね。子どもがだいぶ成長してお迎えが遅くなったのでですね。 私に関して言えば。他のスタッフもそうでしたけど。

自分がゆったりできるので。ゆったりと人の話が聞けるっていうか。変わったかって言われると 明確に変わったなって思う部分って思い当たらないんですけど。

・ 二年前と比べて、保健室とは直接的な関係が薄いと思われる地域活動にも積極的に参加 することで、保健室の存在が地域住民に浸透して、活動内容が理解され始め、自然に地 域に馴染むことができた。

2年前よりかは、自然にその地域に入っている感じは感触としてはあります。何でそうなれたかっていうと、なんか新年会に出たりとかですかね。駅前のほうも商店街内の新年会とか、それに1年間班長っていうのを務めて、回覧板を回したり会費を集めに行くみたいな役割をずっとしてたので、それをきっかけに話したことない店主さんたちともよく話したりとか。B地区のほうも新年会にはスタッフ2人が顔出していて、そこで会長さんだったり育成会の何とかさんとか、結構キーパーソンになりそうな人と顔見知りになったみたいなので。

3. 活動実態

1) 一日の活動状況の変化(活動時間)

- 基本的には2年前と同じ活動を同じような頻度でされている。
- ・ 現在は訪問看護ステーションで週 2-3 日、保健室で週 1-2 日、重症心身障害児の預かり施設で週 1 日勤務している。
- ・ みんなの保健室はスタッフは看護師 1 名、ボランティアスタッフ 2 名で運営している。
- ・ みんなの保健室は駅前と B 地区に 2 カ所あり、調査対象者は主に駅前で活動されている。ボランティアスタッフはそれぞれの保健室に 1 名ずつ配置されている。
- ・ 現在は新型コロナウィルス感染症の影響により、駅前の保健室を閉鎖し、A地区を 主に開室しており、毎日どのスタッフかが常駐するようにしている。
- ・ 前回と今回調査時の 24 時間の変化については、訪問看護でのお仕事を主軸にし、 みんなの保健室で働かれており、内容に大きな変化はなかったが、調査対象者の子 供が成長したことで、保健室の運営時間が 12 時~17 時~と時間帯が拡大された。

2) 活動内容

前回調査時(2017年度)の活動内容は、ほぼ継続されていた。以下に、継続中の活動、終了した活動、新たに開始した活動について、記述する。

(1) 継続中の活動

① 場所の開放・相談業務

住民同士の関係構築の場、住民の生活全般の相談をする場所として存在している。 1日0~6名が来訪する。相談内容は住民自身の疾患、家族の問題、人間関係についてなど多岐にわたり、医療・介護に関することに限定はされていない。

② 出張事業

地域の運動会に救護班として行くことや、アルコールパッチテスト・血圧測定などの簡易検査の実施を行っている。この活動は住民への啓蒙活動や健康問題のスクリーニングだけではなく、地域交流としての目的もある。

(2) 終了した活動

① 出張事業

→スタッフの人数減少があり、大学の医療系サークルとの共同イベント企画は終了。 年々出張活動自体が減って生きている。依頼があれば、できそうな範囲で開催している。

② 認知症カフェの開催

→開始直後は県内3カ所目であったが、現在は市内に7-8カ所になるなど、2年間で認知症カフェを開催する事業所数が増えているため、終了した。

③ 定例ワークショップの開催

住民に対して様々な形で健康を考える機会を提供する目的で、月1回ペースで開催 している。

- ➤ 雪かきをしながら健康作りをしよう
- ➤ インスタントラーメンを健康的に食べよう
- ▶ 走り方・歩き方のレクチャー講座とワークショップ
- →スタッフの人数不足があり、定例ワークショップは現在開催していない。

(3) 新たに開始した活動

- ① 地域住民の訪問
 - →個人的に気になる地域住民の自宅を訪問し、困っていることや健康面での問題点がないかを知るために、様子を見に行っている。

② 新しい種類の定例ワークショップの開催

→地域住民同士の交流を持ち、つながることを目的として、カレーを作るワークショップが新たに追加された。準備、調理はスタッフを中心に、ボランティアも募って行っている。人と人がつながることからの発展を期待して開催している。市から助成金を得て財源を確保して開始された。

他のメンバーがやりたいって言って中心になってやってるんですけど。どんどんつながりを 広げるっていう部分で私も共感できたので、毎回調理とか片付けの手伝いは行って一緒に企画 は考えてやってます。やっぱり困った人の助けができたり、寂しい人の少しでも役に立てばっ ていう思いからこういうことやりたいって言い始めて、たまたま子ども食堂って今全国的に広 まってるじゃないですか。その助成金を少しもらえるかもしれないっていう話もあったので県 に申請して一応もらえることになって、じゃ資金もちょっとゲットできたしやってみようかっ てなって始まりましたね。

- 4. 活動の定着・発展の要件
 - ・・無理をしないで地道に交流を重ねる、保健室の外にも視野を広げる
 - 1) カテゴリ・サブカテゴリ一覧

この事例で抽出されたカテゴリ、サブカテゴリを以下に示す。

- (1)無理のない範囲で、地道に地域住民との交流を続ける(義務感を持たない)
 - ① 仕事の隙間時間や日常行動のついでに話をする
 - ② 地域の中での役割を果たし、地域住民と顔の見える関係性を築く
 - ③ 自分が関わりやすい地域住民との交流を図り、関係性を深める
 - ④ 重要な情報を沢山知る地域住民から情報を得て、看護ニーズのある人の様子を知る
- (2) 一緒に働くスタッフの状況を把握する
 - ① 共有ノートを使用する
 - ② SNS を駆使して情報共有、相談しやすい体制を作る
- (3) 自分と共通した理念を持って活動している仲間とネットワークを作る
- (4) スタッフのやりたい自由な発想を尊重する
 - ① やりたいと思った活動を自由に行動に移せる
 - ② スタッフがやりたい活動を応援する
- (5) 仕事と私生活の境目を作らない
- (6)みんなの保健室の外にも視野を広げて、潜在的な看護ニーズのある人を自分から探 しに行く
 - ① みんなの保健室で普段出会えない人の所に自分から顔を出す
 - ② みんなの保健室に来ることが難しい人に対しても気を配る
- (7)活動資金を得る方法を継続的に探索する
- (8) 実現可能な人員募集の方法を考える
 - ① 人員不足となる背景を考える
 - ② 具体的な募集方法を検討する

2) カテゴリ・サブカテゴリの内容

各カテゴリ、サブカテゴリの内容を以下に示す。

(1)無理のない範囲で、地道に地域住民との交流を続ける(義務感を持たない)

① 仕事の隙間時間や日常行動のついでに話をする

仕事の合間や休日の買い物の途中などで、商店街の店員とこまめに話をして、地域活動のための情報を得ていた。話し相手にも不審に思われないような自然な関わりを大事にしている。日常的な会話を重ねることで地域の重要な情報を得るきっかけを得ている。

自分の用事っていうのを大切にしてます。ランチ買いに行くとか服買うとか、商店街なので 結構自分の用事を満たせたりする場でもあるんですね。それがチャンスっていうか、店主さん と話すいいきっかけになるんですよね。…中略…特別何かやろうと思うと下心が見えちゃうっ ていうか、相手に。自分もしんどくなるし、しんどくない範囲でやるっていうのもコツかなと 思ってます。

② 地域の中での役割を果たし、地域住民と顔の見える関係性を築く 近隣の商店街の催しに参加し、地域で班長を務めるなど、地域での役割を率先して担い、地域住民との繋がりを持ち、地域に馴染む努力をしている。

2年前よりかは、自然にその地域に入っている感じは感触としてはあります。何でそうなれたかっていうと、なんか新年会に出たりとかですかね。駅前のほうも商店街内の新年会とか、それに1年間班長っていうのを務めて、回覧板を回したり会費を集めに行くみたいな役割をずっとしてたので、それをきっかけに話したことない店主さんたちともよく話したりとか。B地区のほうも新年会にはスタッフ2人が顔出していて、そこで会長さんだったり育成会の何とかさんとか、結構キーパーソンになりそうな人と顔見知りになったみたいなので。

③ 自分が関わりやすい地域住民との交流を図り、関係性を深める みんなの保健室のスタッフのそれぞれが、仲が良くて関わりやすい利用者・地域 住民を中心に関わり、深い関係性を築いていた。

やっぱなんかメンバーそれぞれに仲いい人っているんですよね。私は私で付き合いやすい人っていうのが何人かいて。…中略…よく話できる人のところにはやっぱ毎回のように顔出して、あとコーヒー持ってって一緒にコーヒータイムしたりとか、とか、買い物ついでとかですね。

④ 重要な情報を沢山知る地域住民から情報を得て、看護ニーズのある人の様子を知る 重要な情報をたくさん知っているなど、鍵となる住民と頻繁に話をして、地域で 看護ニーズのある人の情報収集を効率的に行う。要介護状態になった独居高齢者に 対して、社会的支援が何も導入されていない時、買い物先の店員から地域住民の情 報を得て、訪問看護・介護の導入を話し合っていた。

お向かいに服屋さんがあるんですけど、その人とはよく話しするんですよ。あそこで服もよく買うので、服買いがてらその人がすごい情報がいっぱい集まる人なので、そういうのはよくやってます。…中略…いつもお弁当買いに行くおっちゃんのところにもよくお年寄りがたまってたりするんですけど、とか、そのおっちゃんもよく情報の集まる人なので、買う拍子にちょっとお話しするとか、そういうの大事にしてますね。

その服屋さんのおばさんがちょっと関わったんですけど、…中略…仲の良かったおばさんで 心配してよくお世話されてたんですけど、その店主さんは。ご高齢になってずっと1人暮らし してたのが、1人暮らしがままならなくなって介護が大変になってきたっていう話を、私だけ じゃなく他のメンバーも含めてみんなでそういう話を相談を受けていて、いよいよやっぱり訪 問介護とか看護が必要な状態なんじゃないっていう状態になったときに、訪問看護として関わ ろうとしたところでそのおばさんはもう亡くなられてしまったってことがあったんですけど。

(2) 一緒に働くスタッフの状況を把握する

① 共有ノートを使う

みんなの保健室の利用者についての簡単な情報や似顔絵などをノートに書き残し、 スタッフ間の情報共有に活用している。似顔絵を書くことで参加者の想像をしやす くする工夫も行っている。

同じ保健室で同じ人に関わる可能性があるメンバー内では、一応共有ノートっていうのを 作っているので、そこにそこまで詳しくは書かないんですけど簡単に書き残してます。最近始 めたのはその人の似顔絵を自分で手書きして書いたものを写真に撮って。クリニックのスタッ フに伝えるにもちょっとイメージがつかないかなと思って、似顔絵でこんな人がいましたって いうのを簡単に描いてはいますけど。

② SNS を駆使して情報共有、相談しやすい体制を作る

定期的なミーティングや SNS での報告で連絡を取り合っている。何か問題が生じた時には SNS などですぐに相談しやすい環境を作っている。

定期的には週1回ミーティングしてます。あとは何かあったときは LINE、保健室メンバー で LINE グループ作ってるので LINE で共有し合ったり、個人的に LINE したりっていうこと で連絡は取り合ってますね。

(3)自分と共通した理念を持って活動している仲間とネットワークを作る

同じ地域で同じ理念を持って活動している NPO 団体と出会い、お互いに頼り合える同業者とのネットワークを構築していた。

ごく最近なんですけど、同じような活動している NPO の方と出会う機会があって、私たちが持ってる理念とすごく共通するものがあったんですね。この人と出会いたかったって思って。そういう仲間が地域にたくさんいるってことを知ってて、何かあったときに頼り合えるっていうそ

ういうネットワークをつくりたいなと思ってたし、その人もつくりたいって言って、なんか励み になったんですけど。

(4) スタッフのやりたい自由な発想を尊重する

① やりたいと思った活動を自由に行動に移せる

みんなの保健室のスタッフがやりたいと思った活動を自由に発想して、具体的な 行動を起こすことができる。例えば、保健室のスタッフが考案した定例ワークショップの案を採用し、共同で企画・運営を行った。

自由に活動できることですかね。保健室の活動っていってもこういった活動って決まり切った何かがあるわけじゃないので、その人がやりたい、やってみたいと思ったことが自由に発想できて、具体的に進めようと思ったら進められるっていうところですかね。

…中略…その企画は私じゃないんです。他のメンバーがやりたいって言って中心になって やってるんですけど。どんどんつながりを広げるっていう部分で私も共感できたので、毎回調 理とか片付けの手伝いは行って一緒に企画は考えてやってます。…中略…とにかくその人がや りたいって、そういう感じなんですけど。…中略…やっぱり困った人の助けができたり、寂し い人の少しでも役に立てばっていう思いからこういうことやりたいって言い始めて。

② スタッフがやりたい活動を応援する

みんなの保健室のスタッフの思いや考えを大切にし、ミーティングの時によく話し合いをして、お互いが何をやりたいのかを理解している。スタッフのやりたい活動を周りのスタッフが手伝い、応援する関係が構築されている。

まず今一緒に活動してるメンバーの思いを大切にするってことですね。その人が何をしたいと思ってこの活動に参加してるのかっていうのを、普段からミーティングもしてるので話し合ってはいるんですけど、お互いに何をしたいっていうのを言い合っておく。で、お互いがやりたいことをサポートし合うっていう関係はできてるのかなと思ってます。…中略…他のメンバーがやりたいって言って中心になってやってるんですけど。どんどんつながりを広げるっていう部分で私も共感できたので、毎回調理とか片付けの手伝いは行って一緒に企画は考えてやってます。

(5) 仕事と私生活の境目を作らない

活動とプライベートを明確に区別せずに、空いた時間に、気になる地域住民を訪問していた。みんなの保健室での活動の際にも自分が話しやすい人と楽しく話しているため、仕事への義務感はない。私生活でも保健室の周辺に行った際に地域住民を訪問している。

保健室に出てるときとは別で、訪問の合間だったり自分の時間を使ってやってます。なんか自分の心配だからっていう気持ちが強い、気に掛かっているからですね。私も曖昧だなと思いますね。保健室に出てるときにCさんのとこに話しに行くときも、なんか個人レベルで仲のいい人のところにしか行ってないので、曖昧です。境界線がない気がしますね。やっぱ普通に遊びに行くので、保健室の周辺には。見に行ったついでにあの人のところ寄って帰ろうとかそういうのはい

つもしてるので、やっぱ仕事と思ってない部分はありますね。

(6) みんなの保健室の外にも視野を広げて、潜在的な看護ニーズのある人を自分から探 しに行く

① みんなの保健室で普段出会えない人の所に自分から顔を出す

みんなの保健室に来室しない人でも、相談できない人や、人とのつながりがない 人などがみんなの保健室の支援を潜在的に必要としている場合がある。その場合に は、自分から地域住民の元に様子を見に行き、体調不良や介護疲れなどの問題を抱 えていないかを確認している。

保健室の場をオープンして来る人だけに対応してても踏み込めないっていうか、なんかもっとどこにも相談できない人とか、つながりがない、きっかけがない、そういうなんか出会えない人に出会いたいなって思いがずっとあって、個人的な活動になるのかもしれないんですけど、気になる人のところにちょっと顔出すっていうことをしてます。…中略…キャッチする方法が分からなくて。でも、今行ってる人は以前奥さんの訪問看護に入っていたその方の旦那さんなんですけど。今1人暮らしで、近くに身寄りがなくってっていう、…中略…最近ここ1年、去年の夏前ぐらいに久しぶりに行ったときに、ちょっと弱っているのが気になって。暑かったからバテてらっしゃったんですけど。とか、庭の草がぼうぼうだったり、いろんなことが管理できなくなってるっていうのが目に見えたので、そんな頻回でもないんですけど、1週間に1回とか2週間に1回くらいのペースでちょっと様子見に行くっていうのをやってました。大したことはしないですね。「何か困ってない?」とか、顔色見るっていうか。そんな程度で30分もかからないような訪問でしたけど

② みんなの保健室に来ることが難しい人に対しても気を配る

事情があってみんなの保健室に来ることが難しい人に対して、体調変化などの問題がないか、情報を見聞きし、遠くから見守っている。例えば、保健室の定例ワークショップに来なくなった利用者の認知症が進行している様子や、家族が保健室の活動を怪しんでいる様子に気づき、家族との関係性が比較的良好なスタッフが電話をかけるなど、認知症の住民の様子を遠くから見守っていた。

そのB地区の保健室のほうだと、2軒隣に住んでいる方が認知症があって、その方もカレー食堂にずっと来られてたんですけど、やっぱ途中から認知症進んでるよねってスタッフ間で話をしていて、なんかご近所散歩されてるときに裸足でつっかけを履いて歩いてるんですけど、そのつっかけが全然足に合ってなくて血豆ができてるようなのを他のスタッフが発見して、「どうしたの」って声掛けたり、そのつっかけを一緒に買いに行ったりとかしていて。…中略…息子さんは保健室に対して怪しまれてるというか不信感が強くて、なんか「何してるところや」みたいな。「保険って保険屋さんか」みたいな。…中略…その息子さんが割と認知症の母が徘徊することをとても気にされる方なので、息子さんに言われておうちにこもっちゃってるんですね。で、最近はカレー食堂にも出てこなくなってて、デイサービス行き始めたのでまだいいかなと思ってるんですけど。なんか近所の人たちも心配するぐらいちょっと虐待までいかないけど、ちょっと閉鎖的な感じになってしまってるのを気にしながら見守ってるって感じの方はいます。

…中略…デイサービスとは連絡取ったりはしてないです。スタッフの中にも息子さんの受け入れがいいスタッフと、ちょっと悪いかなっていうスタッフと、それぞれの役割があるからだと思うんですけど、耳に痛い言葉を言うスタッフと、受容的に関わるスタッフともいるので、だから比較的関わりやすいスタッフがたまに電話したり、そんな感じですかね。すぐ近くなので、ぴんぽんしてすぐ行ける距離なので。積極的に関わってもたぶん受け入れが難しいんですよね、今の段階では。なので、カレー食堂っていうものを使って、次につながるきっかけにつないでいくというか、手探り状態です。…中略…たぶんこちらが気にし続けないとすぐ切れるかなって気はしてますね。でも、今は週2回元気にデイサービス行っている様子っていうのが何となく把握できてるので、それはそれでいいかなと思って見守ってます。

(7)活動資金を得る方法を継続的に探索する

みんなの保健室の財源は、2年前と変わらず、訪問診療から得た利益を事業に割り当てている。みんなの保健室の活動を継続するための財源確保のため、今後はみんなの保健室に来室した住民に提供している飲み物代を支払ってもらう制度への移行を検討している。

利用料とかは今まで取ってはいなかったんですけど、まだはっきりとした話し合いしてないんですけど、ちょっと飲み物代とか若干のお金は今後取っていこうかっていう話を最近していて。今後はちょっと少しお金は取っていくかもです。取るといっても飲み物 1 杯 100 円とかそんな感じだとは思うんですけど。…中略…利用する側からも何度か声を聞いてて、ほんとにお金いらんのかみたいなのも何度が聞いたので。今までお気持ちがある人だけよかったら支払ってくださいみたいな箱を置いてたんで、払いたい人は払ってってくれてたんですけど、…中略…他のコミュニティーサロン的な場の話を幾つか聞いたり、そちらでは利用料取ってるとか飲み物代取ってるとかっていう話も参考にしてそういう話が出ました。

(8) 実現可能な人員募集の方法を考える

① 人員不足となる背景を考える

みんなの保健室のスタッフの人員不足について、事業所全体でみんなの保健室の活動に関心を持つスタッフが少ないことが背景にある。他にも、新人研修にみんなの保健室での実習が含まれていないことや、新人スタッフが活動内容を理解することが難しいことも理由として挙げられていた。

そこに興味を持つスタッフ自体が少ないというか。保健室の活動に。他の事業、訪問診療、訪問看護、重症心身障害児の預かりもいろんな活動まだまだ他にも今展開している中で、やっぱりそっちのほうに人員が取られるっていう現状もあって、保健室の活動に興味があってやりたいと思ってても、なかなかそこにがっつり携われないっていう事業所内の事情もありますね。…中略…具体的に今事業所内のメンバーでスタッフを増やそうという話は出ていないし、難しいかなって感じてます。いろんな事業をやってるこの現状を考えると。

② 具体的な募集方法を検討する

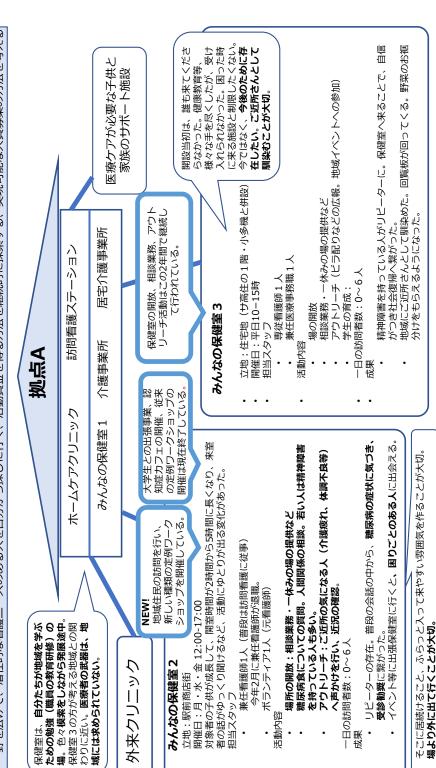
今後は、みんなの保健室の人員確保のため、ボランティアスタッフの増員を検討 している。 もし増やせるとしたら、やっぱりボランティアさんかなと思っていて。今1人来てくださってる退職後の看護師さんっていうのが、…中略…がんサロン月に1回か2回でも開きたいっておっしゃられたので、そういうのを応援しながら一緒に開いていきたいなって思って。

事例概要図 5.

プロジェクト「みんなの保健室 診療所が行うこ

活動の定着・発展の要件:無理のない範囲で、地道に地域住民との交流を続ける、一緒に働くスタッフの状況を把握する、スタッフのやりたい自 田な発想を尊重する、自分と共通した理念を持って活動している仲間とネットワークを作る、仕事と私生活の境目を作らない、保健室の外にも視 野を広げて、潜在的な看護ニーズのある人を自分から探しに行く、活動資金を得る方法を継続的に探索する、実現可能な人員募集の方法を考える 目的:在宅医療を通して「住み慣れた場所で幸せに自分らしく生きていく」ことを支える。 背景と目的:在宅医療を通して「住み慣れた場所で幸せに自分らしく生きていく」ことを支ぎ活動の概要:定期的に「みんなの保健室」を開放し、地域住民のニーズに沿った活動を行う。取り組みの成果:受診勧奨に繋がった。地域にご近所さんとして馴染めた。活動の作者・発展の要件:無理のない範囲で、地道に地域住民との交流を続ける、一緒に働。

保健室(よ)



活動内容

成果

【ID3】診療所で活躍するスーパーナース

1. 事例の概要

1) 概要

- ·活動拠点:医療法人
- ・立場:法人理事、副院長、
- ・主たる活動:クリニックの外来看護師、訪問看護の提供、クリニックの経営
- ・主たる活動以外の活動:医療相談、障がい者雇用、障がい者への住まい提供、医療介護者専用 SNS の開発

2) 地域

東京都K区

- ·面積:約 40km²
- ・人口規模:約50万人
- ・人口密度:約13,000 人/km²
- · 高齢化率: 19.1%
- ・特徴:区内西部は関東大震災および東京大空襲などを経て区画整理がされている。す ぐ近くには、古くからの下町文化が残されている。また、障害福祉サービス、 宿泊型自立訓練所が近くにある。

3) 対象となった看護職

- ・年齢 50 代
- · 看護師経験 32 年
- ・過去に経験した職場 6 か所 (病院 2 か所、診療所 2 か所、その他企業 2 か所)
- ·保有資格:看護師
- ・介護支援専門員資格:なし

2. 前回調査時点からの主な経過

- ・ 前回調査の約半年後に乳がんに罹患し、両側皮下乳腺全摘同時再建の日帰り手術を受けた。術後翌日から電話・メール対応を始め、4日後にはクリニックの仕事にも復帰した。 手術後にはホルモン療法を継続しており、現在も副作用(全身の疼痛や更年期症状)が 生じているが、仕事には没頭している。
- ・ 先述の乳がんの手術を受けたクリニックで、主治医から依頼を受け、2019 年から乳が ん患者のピアカウンセリングのファシリテーターを開始した。
- ・ 乳がんに罹患したことで、今までの仕事でも本当の意味で患者の話を聞く姿勢が大きく変わった。

私も、自分がやっぱりこういう治療を受けて、患者さんの話を聞く姿勢が大きく変わりましたね。 この2年の変化って、それだと思います。もっと深く、何ていうかしら、心底聞く気持ちになりま したね。

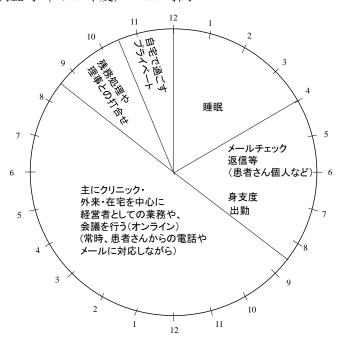
3. 活動実態

1) 一日の活動状況の変化(活動時間)

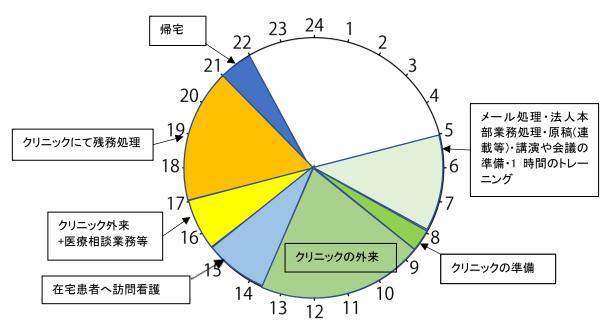
一日の大半、身を置いていたのはクリニック(訪問看護、相談業務含む)であった。 その間、クリニックの仕事だけでなく、隙間時間や前後の時間に、次ページ以降で述べ る他の活動のための電話・メール連絡・Web 打合せなどを行っていた。

前回と今回調査時の24時間の変化については、ベースとなる仕事はクリニックの仕事で顕著な変化はなかった。前回調査時よりも睡眠時間が短くなっていた。

<今回調査時(2019年度)の24時間>



<前回調査時の24時間>



2) 活動内容

前回調査時(2017年度)の活動内容は、ほぼ継続されていた。以下に、継続中の活動、終了した活動、新たに開始した活動について、記述する。

(1) 継続中の活動

- ① 診療所の外来
 - ・ 外来患者は1日200人ほど。土日は検診の乳腺、婦人科外来。

② 在宅医療

- ・ 往診:外来の合間に往診。計画的な定期の訪問診療はほとんどない。地域で精神科往診が少ないため、自傷他害に当たるようなケースが集中する。
- ・ 訪問看護:外来の合間に訪問。大部分が所要時間 30 分以内、5km 圏内への訪問。紹介や希望があれば遠隔地の訪問もする。ほとんどが認知症の BPSD。

③ 医療・介護に関する相談

- ・ 地域での相談場所:高齢者のサポートセンター、保健センター、保健所、児童 相談所の相談を受け、連携。認知症の BPSD、産後うつのケースが多い。
- ・ 一般社団法人医療系コーディネーター協会の講師:平均月1.5回ほど医療安全、 医療の場でのコミュニケーションなどについての講演を行う。
- ・ 特別養護老人ホームの評議員:2か月に1回W県にある特別養護老人ホームに 赴き、現場の監督や、職員の相談を受ける。

④ 障がい者の雇用創出

- ・ アパートの食事の調理:うつ病で治療していた患者がリハビリとしてアパート の食事を調理。ボラバイトとして、給料支給。
- ・ 水耕栽培:統合失調症の方5人で運営。指導者なく、生産、納品、現金回収を その3人が担当。他の労務管理、対外交渉、営業、請求書の作成、給料計算と 支払いなど運用管理を担当している。作っている野菜はできるだけ近所の飲食 店関係に理解してもらった上で購入してもらっている。

⑤ 障がい者の住まいの創出・提供

・ 障がい者用のアパート: クリニックの上階を障がい者用のアパートとして貸出 している。個室、2 食家具付き。障害者年金の範囲内での金額設定にしている。 ボランティアの法律の専門家に協力してもらい、本人契約ができるようにした。 国・地方自治体からの補助金などはなく運営している。

(2) 終了した活動

① 医療系 IT コンサルタント会社 社外取締役

・ 医療系 IT コンサルタント会社 社外取締役 (医療職用 SNS の開発) をしていたが、2019年度に社外取締役を卒業し、現在は一株主としての関わりのみである。

(3) 新たに開始した活動

- ① 新規IT企業の取締役
 - ・ 新たに、ある IT 企業の取締役となった。

② 中国のオンライン医療相談事業

- ・ 中国北京のIT企業とオンライン診療のスタートアップを手がけている。中国では、日本に来て医療を受ける需要が大きいが、来日前に相談を受ける体制を作り、中国の人々のヘルスリテラシー向上と予防医療を目的としている。
- ③ 乳がんピアカウンセリングのファシリテーター
 - ・ 乳線外科クリニックでのピアカウンセリングを週に1回、ファシリテーターと して参加している。自身の乳がん患者としての経験を活かし、昨年から開始し ている。

④ 宗教法人の評議員

・ 実家が寺のため、住職の補佐業務を行っている。また、寺にかかってきた電話の対応を行なっている。電話対応の際、檀家さんの様々な相談を受けている。 檀家さんから受ける相談内容は、クリニックや訪問診療の患者さんたちと共通 している悩みや不安が多い。

(檀家さんからの相談は) 医療機関で聞くことと同じなんです。実は。社会的な不安を抱えていて、実は身体症状が出ている人もいるので、本当は病院にかかったほうがいいようなケースとかもあるんですけど。はけ口、要はどこで話すかという場所が、相手がお寺さん、私の場合、電話で取るので、寺の人間として電話で取った先がそうだったっていうだけで。とにかく聞いてほしいんです。皆さん。聞いてほしくて、そこにちょっとアドバイスが、相手が納得できるような解説だったり、ちょっとしたアドバイスだったり。

4. 活動の定着要件

1) カテゴリ・サブカテゴリ一覧

この事例で抽出されたカテゴリ、サブカテゴリを以下に示す。

(1) 過度な負荷がかからない体制を作る

- ① スタッフを育てる
- ② ケアマネさん・地域包括、いろいろな人にしつこくいろんな話をする
- ③ 地域住民と共に育っていく

_(2)利用者の「すぐに」「誰かに」相談したいニーズを捉える

- ① 敷居を低くする
- ② 自分の経過をわかってくれる人が常にいる
- ③ リフレクションする

(3)新しいことに挑戦する

- ① 反応していく
- ② ビジョンを語り共鳴する
- ③ 相互に関係することをする

(4)安定した活動財源を持つ

2) カテゴリ・サブカテゴリの内容

各カテゴリ、サブカテゴリの内容を以下に示す。

(1)過度な負荷がかからない体制を作る

活動の定着要件の一つとして、負担がかからないような状況を作っていた。働き方を聞くと、非常に過密スケジュールをこなしているように見えたが、拘束感はなく、むしろ以前に比べたら楽になったと語られた。その理由の一つは、メールなどで自分の隙間時間を使えることが挙げられた。

そんなに大変じゃないんですよ。・・(中略)・・この2年間で、やっぱりメール、電話はもともとすごく多かったんですけど、メールとかの対応がすごく多くなって。要はお互いに、患者さんも自分も時間を束縛してないので、空き時間をすごくお互いに利用することで、何ていいますかね。拘束感がないんですよね。

① スタッフを育てる

一人で対応できる量には限界がある。そのため、自分以外のスタッフが対応できるように育てていた。スタッフで対応できないときには、代わりに対応をしていた。

そのときにスタッフのほうで解決できることもあるんですね。カルテの画面を見ていれば、ある程度、今までの流れがあるので。スタッフで解決できないことは、「じゃあ、後ほど $\bigcirc\bigcirc$ がお電話します」っていうふうな回答のパターンができているので、私 1 人が全てを抱える状況ではないです。

② ケアマネさん・地域包括、いろいろな人にしつこくいろんな話をする

自身の診療所以外に所属する専門職の方々にも、担当する患者さんへのケアを通して、積極的に関わっていた。サービス担当者会議などにも積極的に参加し、患者さんのケアの話し合いの際には、目指す姿や、ケアや日常生活支援において注意すべき点などを何度も口にして説明をしていた。

あとは、地域の中だと、やっぱりケアマネジャーさんとか、地域包括の方とか、いろんな職種が、ヘルパーさんとか。そういう方にも結構しつこく同じ話を、私、していくんですね。・・中略・・・例えば担当者会議とか。あと、個別に訪問したとき、ヘルパーさんがいたりとか。そういった方に、その場、その場で必要な話を、こう、やっぱり論理的に説明をすると、みんな理解してくださるので。それと、やっぱり、それぞれが自分のペースで学習をしていくと、他でも活用なさるじゃないですか。すると、あんまり訳分かんない困ったことって、本当に減りましたよね。

③ 地域住民と共に育っていく

活動の主たる対象である地域住民の方々にも、10年~20年間、自分自身の身体の扱い方について、ことあるごとに説明をしてきた。身体症状が悪く不安が強いため、医師の説明が落とし込めない状況の方にも、多角的に(時に状況をみながら繰り返し)説明することで理解を深め、同じ状況で不安になったり、不必要に医療機関受診に至らなくても、住民自身が解決できるセルフケアの獲得を目指していた。このように、個々人の状態・状況に合わせて科学的な説明をすることで、地域住民のヘルスリテラシーが向上し、結果的に医療者負担が軽減されていた。

腸の細胞の回復は72時間くらいかかるから、まあ、2日ぐらいは食べないで、ポカリスエットとか、そういうイオン水だけで飲んで、整腸剤だけにしてください。そうしないと戻らない」とかっていう話を丁寧に、丁寧に、一人一人話をしていくと、本当に最近、そういうの、なくなりましたね。・・(中略)・・多分、それがこの2年、まあ、もっと長い10年、15年とかっていうスパンで変わってきたなと思います。

(2)利用者の「すぐに」「誰かに」相談したいニーズを捉える

① 敷居を低くする

住民(利用者)の症状が悪化する前の段階でつながることが、結果的に問題の複

雑化・重症化を防ぐ。そのため、なるべく早期の段階で相談できるように、相談は 基本的に無料で、時間を制限せずに、いつでも受けるようにしていた。

あんまり慢性的にずっとため込んで、具合悪くなってから病院来られても、ちょっと治すのに大変よねっていうのと同じで、やっぱり吐き出せる場が、敷居が低く、お金あんまりかけずに、まず自分の思ってることを言語化できる場っていうのが、安いからいいわけではないんですけど、そういう場が必要で。

② 自分の経過をわかってくれる人が常にいる

住民(利用者)のニーズとして、自分自身の経過や変化をわかってもらう人がここにいれば必ずいる、という状態にしておくことが大事であると語られた。そのため、利用者の記録を付けて誰もが対応できるような体制にしていた。

もう一つ重要なことは、相手ができるだけ変わらない。・・(中略)・・自分のことを分かってくれる人が、ここに行けばいるという。ここにかければ出会えるとか。

③ リフレクションする

もっと望ましい住民(利用者)への対応がないか。今回の対応はこれでよかった のか。何度もリフレクションをしながら、対応を変えていっていた。

こうやって 20 年ぐらいやってると、いろんなことを振り返って、経験すると、あんとき、 もっとこう言ってあげれば良かったとか、もっとこんなふうに受け止めてあげれば良かったっ ていう反省の下に今があると思います。随分変わりました。

(3)新しいことに挑戦する

① 反応していく

活動を継続していくと、他の誰かの目に留まり、興味関心を持った人が声をかけてくれる機会が増える。その声かけを放っておくのではなくて、まずは反応を返していた。そこから、次のチャレンジにつながっていた。

きっかけは、中国のITの会社やってらっしゃる方が、もともと日本で長くいたんですけども。それでオンライン診療の会社に何社かアクセスしたんですって。向こうから、中国から。ところがどこも相手にしてくれなくって、唯一返事をしたのが私だけ。

② ビジョンを語り共鳴する

つながった他者・他機関と、考えていることをしっかりと言語化して語り伝えていた。

考えていることや信念を語り、それが互いに共通していれば、一気に新たな取り 組みが始まっていくようであった。

*私は*やっぱり、より広く、広く浅くでいいから、多くの人がそこそこ正しい健康に対する知

識とか医療との関わり方っていうのを学んでくれば、今回の新型コロナウイルス感染症の抗体が早くまん延して、抗体が広く広がればいいと思うのと同じで、全体的に社会の健康に対する 意識とか取り組み方って、絶対変わってくると思っていたので、こりゃいいチャンスだと思っ て、私、返事したら、もう意気投合してしまいまして。

③ 相互に関係することをする

新たな取り組みとはいえ、結局は本質的にはどこかでつながっている取り組みをすることが、無理のない活動につながっていっているようであった。

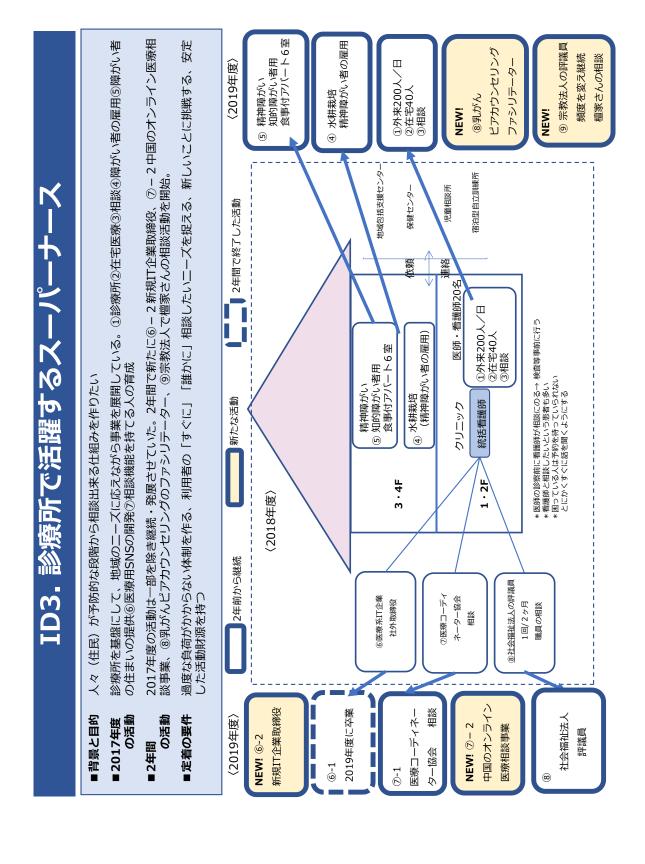
みんな、だから本質は抱えている不安を、誰を信用して、どの場で話すかっていうことだけ の違いなんです。それが寺なのか、病院なのか、こういう患者グループなのかっていう、そう いう場がいろんなとこにあって、たまたま私はいろんなとこに手を出して、手を出してってい うか縁があったので、全体を見ると同じだなということが分かって。分かってきた。

(4) 安定した活動財源を持つ

安定した活動財源も、活動を継続するためには必要だと語られた。色々な活動をしたいと考えている看護師は多く、その看護師を信頼して任せてくれる医療法人の理事長(また、診療所の院長)が増えれば、自然と増えてくると語られた。

別にたくさんいると思うんです。既にそういう潜在的にもいるし、実際やってらっしゃる方もたくさんいると思うんですけど。やっぱり、ある意味、本当に継続するには財源、継続的な財源が必要だと思うので、うまくそういう心の広い、ナースを信頼して社会を任せられるような・・・(中略)・・・そういう人がもっと増えてくると変わるんじゃないかなとは思うんですね。

5. 事例概要図



【ID4】医療機関の経営を通して地域の「つなぎ役」になる地域看護師

1. 事例の概要

1) 概要

- ・活動拠点:社会医療法人・社会福祉法人 O法人
- ・立場:病院経営に関わる看護師
- ・主たる活動:法人が行うコミュニティ・サポートの支援。
- ・主たる活動以外の活動:臨床研究、病院広報など、病院経営の多岐に携わる。

2) 対象となった看護職

- · 年齢: 40 歳代
- ·看護師臨床経験:6年
- ・過去に経験した職場:5カ所(病院2箇所、訪問看護ステーション2箇所、その他(行
 - 政1箇所))
- ·保有資格:看護師、保健師
- ·介護支援専門員資格:無

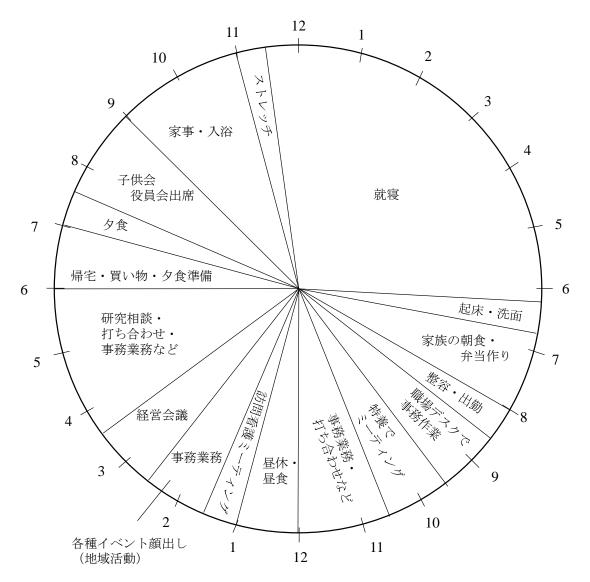
2. 前回調査時からの主な経過

前回調査後も、精力的に地域活動を実施している。実施する活動を、参加した地域住民の反応から新たなニーズを踏まえ、活動を発展されていた。また、時代の流れを読み、今後患者さんや地域住民にはどのようなことが必要かを考え、新たに事業を開始していた。

3. 活動内容

1) 一日の活動状況 (活動時間)

<今回調査時(2019年度)の24時間>



2) 活動内容

前回調査時(2017年)の活動内容は、ほぼ継続されていた。以下に、継続中の活動、 終了した活動、新たに開始した活動について記述する。

(1) 継続中の活動

① 暮らしの保健室の活動の一部

地域密着型特別養護老人ホームの地域交流スペースに設置。地域交流の拠点として、様々なイベントや講座、教室を開催している。

- ・ よろず相談:暮らしの中で困っていることを、地域住民が気軽に相談できる場。
- ・ サロン:趣味活動など、みんなの居場所。
- ・ 寺子屋:子ども向け学習支援。高齢者向けスマホ教室など。
- ・ ケアカフェ:地域の様々な職種が集まり、地域の「ケア」語る。

② ヘルスケア・ビジネスの一部

- ・ 地元企業との商品の協働開発:病院食の知識と技術を家庭で簡単に再現できるよう、地元の出版業者と協働して「レシピ本」を発刊した。管理栄養士からの 発案で、地元企業とだしパックを協働開発した。
- ・ わかめプロジェクト:地元漁業組合と協働し、地元で養殖されたわかめを使ったヘルシーレシピを作成し、市内に配布したり、漁港の子供を含めた住民に試食会を実施した。

③ 地域住民への健康啓発

- ・ 市民向け出張講座:自治会やボランティア団体を中心に、医療者が行う健康講 座。
- ・ 地域イベントのブースの出展:疾患予防のパネル展示・健康相談等を実施。
- ・ 初期救急救命講座:民生委員や、知人の経験から、蘇生方法を学び、高齢者同 士の助け合い必要と感じた町内会から、要請があり、初期救急救命講座を実施 した。
- ・ 体操教室への講師派遣:各公民館が実施していた 100 歳体操の講師が高齢化し、 講師の確保が難しくなっていた。公民館長から直接相談があり、法人のデイケ アで働く運動療法士を派遣した。

④ 地域行事への支援・協働

- 町内会運動会への救護員・選手派遣。
- ・ 町内会行事の代行と参加:長年、町内会で行われていた餅つきや水路清掃が、 高齢化で継続困難になったため、法人とボランティアが協働して実施。

(2) 終了・縮小した活動

- ① 暮らしの保健室の活動の一部
 - ・ ママクラス:F 市で長年活動をしている助産師が作る、地域のお母さんが気軽 に相談できる場。

実施していた助産師が引っ越しされ、後任者を見つけている最中なので、現在 は中断している。

・ 訪問看護サテライトステーションに設置している暮らしの保健室: 前回調査時に、中心的に関わり、地域住民と信頼関係を築いていた職員が移動 となり、現在は、暮らしの保健室の場所の解放はしているが活動は中断してい る。

(3) 新たに開始した活動

- ① 暮らしの保健室の活動の一部
 - ・ おしゃべり体操教室:週1回1時間、近隣の住民を対象に健康体操とおしゃべりを行う教室を行なっている。

② スナック

- ・ 2019 年から、2 ヶ月に1回、地域密着型特別養護老人ホームのコミュニティスペースで、地域住民と多職種が夜に集い、多少のお酒を飲みつつ交流をする場。
- ・ 元々は、施設職員と地域住民の顔の見える関係を作るために、始めたものだったが、宣伝や口コミを通して、周辺の地域の医療・福祉関係者、行政職員、大学生など、様々な職種の人が集う場となっている。

元々は、地域のおじいちゃんとかおばあちゃんとか、町内会の人とかと、われわれってい うのが、意外に交流しないのよ。医療とかって、医療連携とか、顔の見える関係って言うん だけど、地元の人との顔の見える関係って、あんまつくれてなくて。私たちと地域のおば ちゃんおじちゃんとの関係性でと思ってたんですけど、ふた開けてみたら、例えば、ドラッ グストアの人だったりとか、どっかの建築屋の社長だったり、行政の人だったり、わさわさ いろんな人が来るようになって。町づくりしてる大学生だったりとか、医療介護とかにかか わらず、ほんと町に関わる人たちが"割と広範囲"に来てる感じですね。

③ ヘルスケア・ビジネスの一部

・ パーソナルレコード事業:患者さんが自分の診療情報(受診歴・検査結果・処 方箋)を、自分のスマートフォンで閲覧できる仕組み

医療クラウドで高いシェアを誇る株式会社と協働して、パーソナルレコードアプリを導入した。患者さんは、会社と契約を行い、医療機関は、診療情報を提供する。開始から1年半で、約600人の患者さんが利用をしている。

4. 活動の定着要件

1) カテゴリ・サブカテゴリ一覧

この事例で抽出されたカテゴリ、サブカテゴリを以下に示す。

- (1)地域のニーズに合わせた活動を行う
 - ① 地域活動に対する地域住民の反応をキャッチし、次の活動へと活かす
 - ② 社会の流れを読み、地域のニーズに合わせた活動を行う
- (2)地域の人たちが活躍できる場・きっかけをつくる
- (3) 垣根なく様々な活動に関わり、人と人をつなぐ人がいる
 - ① 垣根なく柔軟に考え、行動できる人が活動に関わる
 - ② 多職種同士、参加者同士のつなぎ役になる
 - ③ 垣根なく活動できる素質のある人が、地域活動に関わる機会をつくる
- (4) 地域住民が地域活動に参加しやすい仕掛けをつくる
- (5)組織と地域住民の顔の見える関係を大切にする
 - ① 地域活動に関することはまず地域の要人に伝える
 - ② 組織の職員一人一人と地域住民と顔の見える関係を大切にする
- (6)組織の経営にも関わることで、組織全体として地域へ貢献する思いが醸成されている
- (7)地域のために貢献し、地域をよくしたいという信念を持つ
- 2) カテゴリ・サブカテゴリの内容

各カテゴリ、サブカテゴリの内容を以下に示す。

(1)地域のニーズに合わせた活動を行う

社会の流れを読み、地域にとって何が必要なのかを考え、活動を展開していた。また、活動に対する地域住民の反応を踏まえて、その後の活動を柔軟に変化させて、地域のニーズに合わせた活動を行なっていた。

① 地域活動に対する地域住民の反応をキャッチし、次の活動へと活かす

実施している活動に対する地域住民の反応を踏まえて、次の活動内容に活かしたり、新たな活動を開始していた。住民向けに行っている健康講座では、講座参加者のアンケートで、ACPに関する関心が高いことを知り、その後はACPに注力した内容を実施するようになった。また、前回調査時に、地元企業と協働して開発した出汁パックが好評だったため、より簡単に調理に取り入れられる出汁つゆの開発を地元の醤油業者から打診があり、出汁つゆの販売を開始した。

特に市民向け出張講座は、私自身が、たぶん、去年、8回くらいかな、10回近く、たぶん、出向いたと思うんですけど。去年、カ入れてたのが、地域包括ケアシステムと ACP を、去年、ちょっと力入れてやって、非常にこれが、当たりがいいというか、皆さん好評で。人数的に、どうしても、今、特に ACP ですよね、ACP の話が皆さん関心は高いんだけど、そういう話す場がないということで、本年度はもうちょっと ACP に特化した講座を増強しようという話を、今、してるところです。(中略) 一番最後にその ACP の話をすると。感想文書いてもらってるんですね、講義の後に。感想文書いてもらってる中に、こういうことを話す機会がないと。非常に大事な問題だと思ってるんだけど、なかなか自分たちではできないから、こういうのはもっとしてほしいっていうのが、相当数書いてありました。後からお手紙くださる方とかもいらっしゃって。あと、そこで、その話を聞いた人が他の町内会にお伝えして、そこの町内会から呼ばれたりとかいうのも 2~3 個あったかな。

だしパックの後にだしつゆ、だしつゆを出し。出しておりまして。だしパックが思った以上に好評だったので、もうちょっと簡単に作れる物っていう点で、だしパックのだしを凝縮したおしょうゆをだしつゆとして、地元のしょうゆ業者さんからそういう打診があって。私どもも、これはお役に立つんじゃないかという理由で、今、作ってまして。そこそこ、こちらも売れているという形を聞いてます。

② 社会の流れを読み、地域のニーズに合わせた活動を行う

患者さんの医療情報は、患者さん自身が持ち、管理することが本来のあり方だと考え、患者さん主体のパーソナルレコード事業を開始した。また、新型コロナウィルス感染症の影響で今後はオンライン診療等が広まることが予想される中、どのようにパーソナルレコードを活用するか検討を行なっている。

ご案内ですよね。Apple ストアとかからアプリを入れて、そのアプリの所にいろんな個人情報とかの部分の説明があって。うちは、それは、データは提供するんだけど、後、利用者さんが判断してやるという形です。100 円払うのが嫌な人は、入れて、100 円払わなかったら使えなくなるだけなんですけど。そういう形で。他にパーソナルヘルスレコードっていろんなシステムがあって、病院さんが大金払ってやってるっていうのもあるんですけど、ちょっと、それって本来的ではないよねっていう発想をうちでは持っていて。あくまで、患者さんご自身がそういう目的を持ってやらないと始まらないからっていうので、じゃあ、そういうシステムにしてます。

パーソナルヘルスレコード事業、今、力を入れていて。患者さんの、受診した方の受診歴とか採血結果とか、検査結果か、処方箋とか、そういったものを、このスマホで閲覧できるというサービスを、去年、おととしの12月から開始して、今、1年ちょっとやってるんですけど。

こちらも徐々に広がってきてるという形です。ただ、やっぱり、これから、今ちょうど新型コロナウイルス感染症で、オンラインの話がだいぶ医療界も出てきていて、ここの部分をどうやってくかっていうのが、今、これから、たぶん、直近のテーマになっていくかなとは思うんですけど。

定期受診の方もいらっしゃるし、例えば人間ドックとかに来られて、自分の画像、持って帰りたいとかいう方も多いし。あと、家族さんが離れたとこに住んでおられて、家族さんが見ることができるので、娘が遠隔でチェックしてますとかいうのもいらっしゃる感じです。そういうのが広がってくると、そこにコミュニティーナースっていうか、暮らしの保健室が、そのデータ見て指導したりっていうのを今後できるかなっていうのも、実は、ずっと思っているところなんですけど。

(2)地域の人たちが活躍できる場・きっかけをつくる

地域活動を実施する際、近隣に住む地域住民に、参加する側でもあり、おもてなし する側にもなってもらうことで、自分事として捉えてもらう。

その地域の人たちが、自分事的に思ってくださってる感じはして。大体、いつも7~8人おばちゃんたち来るんですけど、おばちゃんたちが、大体、ご飯作ってきてくれるんですね。自分たちが参加する側でもあるけど、おもてなしする側でもあるっていう感じの意識を持ってる方もいて。そこら辺かもしれないですね。私たちが全部一方的に提供してるわけじゃないように持ってけたのは良かったかな。(中略)人間って基本的に、何か手伝いたいとか、役に立ちたいっていう思いがあるじゃないですか、大体の人に。だけど、そういう、場までつくって自分でやっちゃおうっていうまでエネルギー持ってる人はそんなにいないじゃないですか。そういう場をちょっとつくってくれたらやれるんだけどっていう人は、どこの地域にも多いんじゃないですかね。

(3) 垣根なく様々な活動に関わり、人と人をつなぐ人がいる

地域活動には垣根なく柔軟に考え、行動できる人が大切だという思いから、ご自身が固定観念を持たないだけなく、垣根なく活動できる人と一緒に活動を行なっていた。また、多職種同士や参加者同士のつなぎ役になることや、職員に地域活動に関わる機会を提供し、垣根なく活動できる仲間を増やしていた。

① 垣根なく柔軟に考え、行動できる人が活動に関わる

地域でどのような役割を担うか柔軟に考え、行動できる人が地域活動に関わっていた。

やっぱりつながりつくれる人。垣根があんまない人かな。そういう人ですかね。こういう技術っていう。…中略… 要するに、医療介護とか、私たちは病院ですとか、私たちは老人ホームですって言って固定しちゃうんじゃなくて、そっから全然他の活動にも行ったりとか、町の人ともフランクにしゃべれたりとか、そういう染み込んでいけるような感じの特性の人って、あんまりいないのよね、意外と。

私だけだったら、ここまで、もちろん、集客してないんですね。私もいるし、A 看護師もいるし、もちろん理事長もいるしっていう、ある程度、何かつながってる人が何人かいる人が、

それぞれに同じことをボンボンボンと出したので、面白そうだなって思ってくださったのかな。

② 多職種同士、参加者同士のつなぎ役になる

活動の中で知り合った興味深い活動をしている人を、他の参加者に紹介したり、ボランティアさん同士が繋がるきっかけを作っている。

途中で、ただ、私たちが、私達が配慮してるのは、来た人の、来た人でちょっと、皆さんで 共有したほうがいいような活動をしてる人。例えば、大学生で町づくりのことをしてる子が来 たらちょっと紹介したりとか、そういった時間はつくってます。その辺は、何となくあうんの 呼吸で、私らがしてる感じかな。

ボランティアさんは、たぶん、やってくれって言ったらやってくれると思うんですけど、その、やってくれた人の管理というか、やってくれた人と濃密に関われる人がいないとやっぱ難しいのよね。お任せしますってわけにいかないから。結局、だから、ボランティアさんもつなげる人とか、何回か、ボランティアさんをうまく使える人がいないと機能しなくて。だから、A看護師とか、すごい、そこうまいんですよ。ものすごい上手にやるからできているんですね。

③ 垣根なく活動できる素質のある人が、地域活動に関わる機会をつくる 地域に興味を持っている職員には、若い時から地域活動に関われるような機会を つくる。

ちょっと若めスタッフに、さっきの出張講座とかを、「あなた、やってみなよ」みたいな感じで。最初は「えー」とか言うんだけど、やったら意外に面白くってやるの。ちょっと何人か、 私は、そういうのは目を付けて一緒にやってる。そうやって増やしてる感じですね。

(4)地域住民が地域活動に参加しやすい仕掛けをつくる

地域住民に興味を持ってもらう宣伝方法や、積極的に声をかけることで、地域住民 が地域活動に参加しやすくなるよう工夫をしていた。

なんで集客できてんでしょうね。やっぱり、一個が、名前だったかな。名称のやっぱりインパクトっていうのは大きかったのと。

チラシのインパクトがでかいとは言ってくれてました。何するんのか一回ぐらい見ようかみたいな。だから。…中略…「お話の場」とか、「通いの場」とかにしちゃうと、ちょっと若干堅い感じするじゃないですか。同じ、同業ばっかり来ちゃうんじゃない?そういう発想になるかもしれないんだけど、あのチラシだと、ただの飲み屋なんかなって感じがするから、敷居が下がったのかもしれないですね。プロデュースも必要かもしれないっていうので。

(5)組織と地域住民の顔の見える関係を大切にする

地域住民のことを尊重し、活動に関することは、地域で大切な役割を担っている人 へ伝えていた。また、組織の代表者だけでなく、職員一人一人が地域住民と顔の見え る関係を築くことを大切にしていた。

① 地域活動に関することはまず地域の要人に伝える

地域活動に関することは、まずは自治会役員等の地域で大切な役割を担っている 人へ伝え、さらには回覧板等を用いて広く地域住民に伝えていた。

活動をするに当たって、一番最初にアピールしたのは地域だった。だから、おしゃべり体操 教室も、スナックも、まずその地域の要人、コアなメンバーの人にはアピールしました、最初 に。「こういうのやるから、ぜひぜひ来てね」っていう話は、地元の町内会。町内会は回覧で いつも回すんですけど、そこをまず押さえたのかな。それも大きかった。

② 組織の職員一人一人と地域住民と顔の見える関係を大切にする

組織の職員一人一人が利用者さんとの関係は良好だが、地域住民との関わりが少ないことに気づき、地域住民とも顔の見える関係を築くことを大切にしていた。

元々は、地域のおじいちゃんとかおばあちゃんとか、町内会の人とかと、われわれっていうのが、意外に交流しないのよ。医療とかって、医療連携とか、顔の見える関係って言うんだけど、地元の人との顔の見える関係って、あんまつくれてなくて。私たちと地域のおばちゃんおじちゃんとの関係性でと思ってたんですけど、(スナックを初めて) ふた開けてみたら、例えば、ドラッグストアの人だったりとか、どっかの建築屋の社長だったり、行政の人だったり、わさわさいろんな人が来るようになって。

(6)組織の経営にも関わることで、組織全体として地域へ貢献する思いが醸成されている

対象者の看護師は組織の経営にも携わっているため、組織全体として地域へ貢献する思いが醸成されている。そのため、組織が地域活動を行うための経済的な基盤を支えている。

経営者。経営者の考え方かな。経営者がそれを是とするかどうかっていうとこ。

経済的なバックグラウンドがないのが、たぶん、続かない最大の理由じゃないですか。だから、経済的なバックグラウンドに関して、うちは、法人としての経営者がそこを良しとすればできる話で。そこがもう1本大事なところで。

(7)地域のために貢献し、地域をよくしたいという信念を持つ

地域活動を行うことに対し、自分達の使命だと考えている。

私の信念としては、やる、やらなきゃいけないと思っているんですけど。だって、言うたら、 非営利法人なんですね、医療も。介護もですけど。非営利法人で、広域的なことをするってい うのが私たちのミッションだから、それは当然やる話だと思ってるんですけど、たぶん、そう いう感覚には至ってない所のほうが多いかなとは思います。

町内会を対象として初期救急救命講座

町内運動会へ救護員・選手派遣

5. 事例概要図

になる地域看護師 医療・福祉法人経営を通して地域の「つなぎ役」 ID4

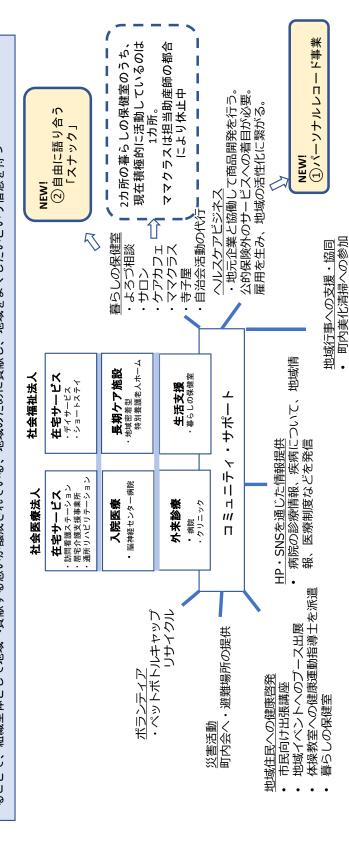
○背景と目的:病院の世紀からコミュニティ・エンゲージメントの時代へ移行し、コミュニティ活動に積極的に参画することで、地域住民が住み なれた地域で暮らせるよう支える。

○活動の概要:医療・福祉法人が行うコミュニテイ・サポートを通して、暮らしの保健室の開設、地域行事の支援・共同、災害支援、教育支援

ボランティアと共同した社会貢献を行う。 ○取り組みの成果:病院と地域の連絡が円滑になり、地域から「困った時に頼れる存在」として、認識されつつある。

O2年間の活動:2017年度の活動をほとんど継続・発展させていた。2年間で新たに①パーソナルレコード事業、②自由に語り合う「スナック」 を開始。

人をつなぐ人がいる、地域住民が地域活動に参加しやすい仕掛けをつくる、組織と地域住民の顔の見える関係を大切にする、組織の経営にも関わることで、組織全体として地域へ貢献する思いが醸成されている、地域のために貢献し、地域をよくしたいという信念を持つ 〇定着・発展の要件:地域のニーズに合わせた活動を行う、地域の人たちが活躍できる場・きっかけをつくる、垣根なく様々な活動に関わり人と



【ID5】下町から社会を見つめるかかりつけナース ここでずっと暮らせるように地域を紡ぎ合う看護実践

1. 事例の概要

1) 概要

- ・活動拠点:訪問看護ステーション M・S 区
- ・立場:訪問看護ステーション所長
- ・主たる活動:療養支援・訪問看護の普及と質の向上
- ・主たる活動以外の活動:2つの看護職職能団体の会長、理事

2) 地域

$\langle S | \overline{X} \rangle$

- ·面積:約1000ha(1ha=10000m2)
- ·人口規模:約 250,000 人(2015 年 10 月)
- ・人口密度:約18,000人/km2(2015年10月)
- ・世帯数:約130,000世帯(2015年10月)
- ・高齢化率:23.4% (2015 年)
- 特徵:

S 区は区制施行 70 周年を迎える。暮らしたいまち、働きたいまち、訪れたいまちをめざしている。江戸の伝統文化を伝えるものづくりや、観光産業が中心の町がある。

3) 対象となった看護職

- ・年齢 50代
- · 看護師臨床経験 24 年
- ・過去に経験した職場4か所(病院1箇所、訪問看護ステーション1箇所、

施設等1箇所、その他1箇所)

- ・保有資格:看護師・保健師・日本心理学会認定心理士
- ·介護支援専門員資格:有

2. 前回調査時点からの主な経過

前回調査時と同様に、午前中は訪問看護ステーションの業務を行い、午後はS区の部会や委員会に出席し、S区をどのようによくしていったらよいか、ということについて話し合っている。ここで出来た行政と医師会の医師とのつながりがきっかけで、S区が新型コ

ロナウィルス感染症の PCR 検査を実施する際、医師会の医師と訪問看護ステーションの看護師に依頼があり、協力している。前回調査時に、すでに訪問看護ステーション協議会が一般社団法人化していたが、この 2 年間で法人化が周囲に浸透。行政からの業務委託が増加し、これまで NPO やボランティアで行ってきた事柄が、業務委託として行えるようになってきた。

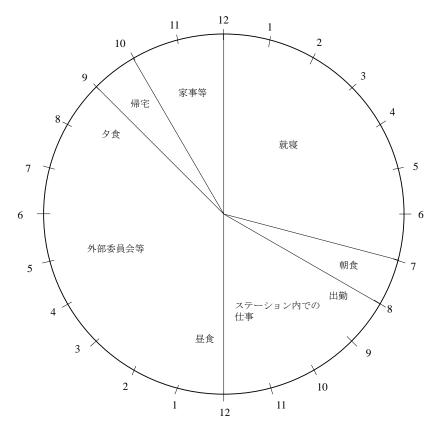
2年前はまだ、S区から直接、委託を受けて、何かをするっていうことはしていなかったと思うんですけれども。去年度から、S区から認知症の初期集中支援チームのチーム員の委託とか、S区内の多職種連携研修の委託とか、あとは、災害医療の協定を結んだりとかしているのが2年前とは随分、違った感じです。

東京都の訪問看護ステーション協会も法人化をしたことで、直接東京都から委託事業が受けられるようになったので、(……)その2年前と比べると、新しい事業として受けてやっています。すごく、この2年間ですごく、やっぱり違うなとかって思ったのは、きちんと訪問看護ステーション協会が法人化したっていうことで、地区支部とかも法人格を持っている団体だっていうふうに外部の人からもちゃんと、見られるようになったので……

3. 活動内容

1) 1日の活動状況の変化

午前中に訪問看護ステーションで会社の仕事や、スタッフのこと、利用者のことなどの仕事を行い、午後は行政の部会や委員会の会議に出席する内容に、2年前と変化はなかった。



(1)継続中の活動

S 区の住民の QOL 向上のために

学生時代にT区でボランティ活動をしてた経験や、病棟で看護師をしていた時に本人や家族の思いをきけなかった経験、地域で元気にしている家族の様子を見て地域の力に感銘を受けた経験、S区保健所に勤務した経験、S区医師会の訪問看護ステーションを立ち上げた経験から、自ら有限会社を立ち上げ、2003年にS区内に訪問看護ステーション M を開設した。当初、常勤看護師 5 名、非常勤看護師 3 名、理学療法士 1 名、非常勤事務 3 名、介護支援専門員 2 名で活動を開始した。現在は、機能強化型訪問看護ステーションとして、常勤看護師 11 名、非常勤看護師 4 名、理学療法士 8 名、作業療法士 2 名、常勤事務 3 名、介護支援専門員 8 名で活動している。

訪問看護ステーションの HP より

「赤ちゃんから高齢者まで、住み慣れた地域で暮らしたい…そんな方々を経験豊富なチーム〇〇スタッフは柔軟な対応で支えます。 <u>ご利用者さん、ご家族、他職種の方と共に、「あなたらしい前向きな在宅生活」を創りあげていきたい</u>、と願っています。どうぞお気軽にご相談ください。」

乳幼児から高齢者まで幅広い年代の利用者を擁し、利用者の自立度は、要支援から要介護5までほぼ同じ割合である。利用者とその家族のQOLを支えるために、介護予防に力を入れ、訪問看護と訪問リハビリテーションを同時に提供している。重症化予防に重点を置き、利用者の半数は、要支援から要介護2である。

また、訪問看護ステーション M を拠点にアウトリーチとして、医師会・行政と連携 し、がん患者のサポートや地域住民の保健室の活動もスタッフとともに行っている。

② 東京都全体・全国の看護力の向上のために

都内の訪問看護ステーション間のネットワークづくりとして、東京都訪問看護ステーション連絡会、東京都訪問看護ステーション協議会を立ち上げ、2017年8月に一般社団法人東京都訪問看護教育ステーション協会を設立した。現在は東京都看護協会と共同体制を組み、訪問看護の普及を行っている。

<一般社団法人東京都訪問看護教育ステーション協会の事業>

- 1. 訪問看護事業に関する情報収集と情報交換
- 2. 訪問看護事業に関する知識の普及と啓発
- 3. 訪問看護ステーションの経営、看護サービスの質の向上に関する研修
- 4. 訪問看護事業に関する関連団体との連携および交流
- 5. その他本会の目的を達するために必要な事業

訪問看護ステーション M では、東京都訪問看護教育ステーション事業として、訪問看護に関心がある人を対象に、訪問看護ステーション体験・研修を実施している。

<訪問看護ステーション体験・研修の対象>

- ・ 訪問看護をはじめて間もない方
- ・ 日々、訪問看護を実践している方
- ・ これから管理者・指導者になる又は、なって間もない方
- ・ 新卒看護師採用をお考えの方
- ・ 起業をお考えの方
- I T活用をお考えの方
- ・ 医療機関で退院支援等を担っている方
- ・ 訪問看護ステーションに就職したいと考えている方 など

(2)終了した活動 特になし

(3) 新たに開始した活動

- ・ S区より、認知症の初期集中支援チームのチーム員、多職種連携研修の委託業務 を受託
- S区と災害医療の協定を締結
- ・ S区の依頼のもと、医師会に所属する医師と連携し、新型コロナウィルス感染症 の PCR 検査支援
- ・ 東京都より、医療ケア児のバス送迎の委託業務を受託
- ・ 東京都の看護師の復職支援の委託業務を受託

去年度から、S区から認知症の初期集中支援チームのチーム員の委託とか、S区内の多職種連携研修の委託とか、あとは、災害医療の協定を結んだりとかしているのが2年前とは随分、違った感じです。

直接東京都から委託事業が受けられるようになったので、今は医ケア児のバス送迎とかを委 託を受けたりとか。

あとは、東京都独自の、休職中の方に向けて、休職しても、また不安にならずに訪問看護ステーションに戻ってきてもらえるように、オンデマンド研修をプログラムをつくって、配信をするっていう。テストとかもやるんですけど。そんなのも、去年から東京都から委託を受けて、何かその授業をつくって、授業を10個つくって、テストとかもつくって、みたいなのを配信して、みんなに見てもらってっていうようなこと…中略…やっています。

4. 活動の定着・発展の要件・・・資金を燃料に情熱を動かす

1) カテゴリ・サブカテゴリ一覧

この事例で抽出されたカテゴリ、サブカテゴリを以下に示す。

- (1)経営者として、資金を獲得し事業を運営する
 - ① 訪問看護ステーションの管理者としての顔
 - ② 事業の継続性という視点で関わる地域医療開発
- (2)地域をよくするために、訪問看護利用者以外の地域住民に対し支援を行い、支援を通じて専門職のケア力向上も目指す
 - ① 地域の看護師として行政参画する
 - ② フォーマルサービスから漏れた人達を支える情熱
 - ③ 地域の担い手としての看護師
 - ④ 患者、地域、地域住人、医療ケアチームをケアする
- (3)未来像を示し解決するためにモデルとなって突き進む
 - ① 日本全国に地域医療福祉の未来像を示す
 - ② 地域を看護することを、自分たちが背中で示していく
- (4)地域の専門職を頼るべき仲間と捉え、地域の医療介護福祉の問題に対処するために 共に歩み成長しようとする
 - ① 24 時間の働き方は 2 年前と変わっていない
 - ② 自己の限界を知り、人に頼り、無理をしない
 - ③ 地域の訪問看護ステーションと共に歩む
- 2) 各カテゴリ・サブカテゴリの内容

各カテゴリ、サブカテゴリの内容を以下に示す。

(1) 経営者として、資金を獲得し事業を運営する

経営者として、訪問看護ステーションを管理し、行政からの委託業務を受託することで資金を得て、事業の継続を強化していた。

① 訪問看護ステーションの管理者としての顔 訪問看護ステーションを運営する会社の社長として、経営管理をする。そして、 訪問看護ステーションの管理者として、利用者の事やスタッフのことをケアする役割を担っていた。

担当とかを持っていないので、訪問に行くこととかはないですけれども。会社の経営とかも あるんで、…中略…、あとは利用者さんのこととか、会社のこととステーションのことをやる、 みたいな感じです。

② 事業の継続性という視点で関わる地域医療開発

資金を得ることで事業を継続させ、情熱を絶やさずに地域医療に関わり続けていた。

2年前はまだ、S区から直接、委託を受けて、何かをするっていうことはしていなかったと思うんですけれども。去年度から、S区から認知症の初期集中支援チームのチーム員の委託とか、S区内の多職種連携研修の委託とか、あとは、災害医療の協定を結んだりとかしているのが2年前とは随分、違った感じです。

(2) 地域をよくするために、訪問看護利用者以外の地域住民に対し支援を行い、支援を 通じて専門職のケア力向上も目指す

地域をよくするために、行政の会議や委員会に出席しつながりを作り、災害協定を結んだり、委託事業を受託し、訪問看護を利用していない地域住民に対し、支援を行っていた。また、支援の一環として行われる専門職の会議では、どのような支援を行うかという話し合いを通じ、専門職のケア力向上につなげていた。2年前と同様に、NPO法人による、がんの患者さんやホームレスの支援を継続していた。

① 地域の看護師として行政参画する

S区の各課それぞれの会議や委員会に出席し、看護師としての視点から S区の高齢者福祉や介護の状況を良くしようとする役割を担っていた。

② フォーマルサービスから漏れた人達を支える情熱

がん患者支援やホームレスの支援など、現状の公的な支援では支えられない人達 を、NPO 法人などを作り、熱い想いを持って支えていた。

2つ、NPOも持ってるんですけれども。一つは、がん患者さんに特化した NPO なんですけれども。それは、私が代表でやっていて、もう一つの、この辺だと、ホームレスの方とか、

そういう地域なので、そういった方たちへの支援とかは、…中略…。それを主にやっているのは看護職です。みんな保健師さんとか、看護師さん、訪問看護師さんとかで、医師会の先生たちは逆にお手伝いに来てくれている人みたいな感じです。

③ 地域の担い手としての看護師

訪問看護師と直接契約した利用者という関係ではなく、その地域にいる人に、その地域にいる看護師が必要なケアや教育を提供していた。

2年前はなかったこととしては、災害医療の協定をS区と東京都の訪問看護ステーション協会のS支部として結んで、 $(\cdots\cdots)$ 災害地の研修会とかもたくさんやってて、今はPCR検査に行ってます。

④ 患者、地域、地域住人、医療ケアチームをケアする

訪問看護の管理者、地域の代表、組織の代表として、対象をケアし、変化を起こ す役割を担っていた。

認知症の初期集中支援事業については委託を受けて、主にうちのステーションの看護師たちが認知症の方々のところに、今まで医療とか、介護につながっていなかったような方たちのところに訪問に行って、そういうフォーマルなサービスにつなげていくとかっていうようなことをしていて、それは必ず、チーム員会議っていうのが月に1回あって、…中略…各地域の包括の方たちと一緒にチームを組んで、やっているんですけれども。8包括あるんですけど、全部の方たちと情報共有をするっていうようなことをしていて、認知症の方たちを早く、介護保険だったりとか、医療だったりとかにつなげるっていうような役割もあるんですけれども。やっぱり、その地域全体の認知症に対するケア力が上がるっていうようなアプローチを常に考えて、やっています。

(3) 未来像を示し解決するためにモデルとなって突き進む

地域に散在する医療介護福祉の問題点や求められることについて考え、あるべき姿を思考し未来像を描き進んでいた。2年前から全国のモデルになりたい、広告塔であるという認識は変わらず持っていた。

① 日本全国に地域医療福祉の未来像を示す

日本全国に、今地域医療で問題となっていることは何か、そして求められること は何か、すべきことは何かを示し、見本となって行動する役割を担っていた。

S区に必要なことっていうよりも、ほんとは全国に必要なことっていうふうに思っていて、何か少しでも、モデル的になれればっていうふうに思っていて、東京都の広報誌。『そわにえ』っていう、ステーション協会が出している広報誌とか。あと、全国訪問看護事業協会で出している訪問看護ステーションニュースとかにも、このS区ではこんなふうに訪問看護師が地域の活動に参加しています、みたいなことをニュースに載せたりして、これが地域、S区っていう地域に限られたことではなく、全国に広がっていけばいいなっていうふうに思っています。

② 地域を看護することを、自分たちが背中で示していく

未来像を示し進んでいく中で、同職種との隔たりを感じており、自分たちの活動 を示していくことが重要であると感じていた。

やっぱりそのコミュニティナースとかっていうものであればきちんと職能団体が、看護協会がどういうふうに考えているかとか、何かあんまり。…中略…やっぱり日本の中では、看護職の一番大きな職能団体が看護協会なわけですよね。その看護協会の中で、そんなにコミュニティーのこととかを考えられていないかなっていうふうに思っていて。地域のいろんな会議でも、訪問看護師が出ていりゃいいっていう話なのかもしれないですけれども看護協会の人が出てきているとか、そういうこともないし、何か、それでいいのかなっていう感じはありますけれども、それをどう解決したらいいかっていうのはちょっと分からないんですが。もう、ほとんど、やっぱり病院看護のことばかりみたいな感じになっちゃっていますけれども、病院にいる人たちっていうのはほんの少しの人たちで、圧倒的に地域で療養している人とか普通に生きている人たちが多いんだけれども、そこを考えられるところはあんまり今の現状だとないっていうのは課題なのかなっていうふうには思いますけれども。

(4)地域の専門職を頼るべき仲間と捉え、地域の医療介護福祉の問題に対処するために 共に歩み成長しようとする

自分ですべてを背負わず無理をしないように、地域にいる仲間達と交流をしながら、 みんなで問題に取り組む姿勢を取り、2年前と比べても1日の働き方に大きく変化が 生じないように調整していた。その結果、以前から関わっている多職種の人達に、少 しずつ発言や考え方が変わってきたと感じていた。

① 24 時間の働き方は 2 年前と変わっていない

24 時間の過ごし方はそんなに 2 年前と変わってはいない。

② 自己の限界を知り、人に頼り、無理をしない

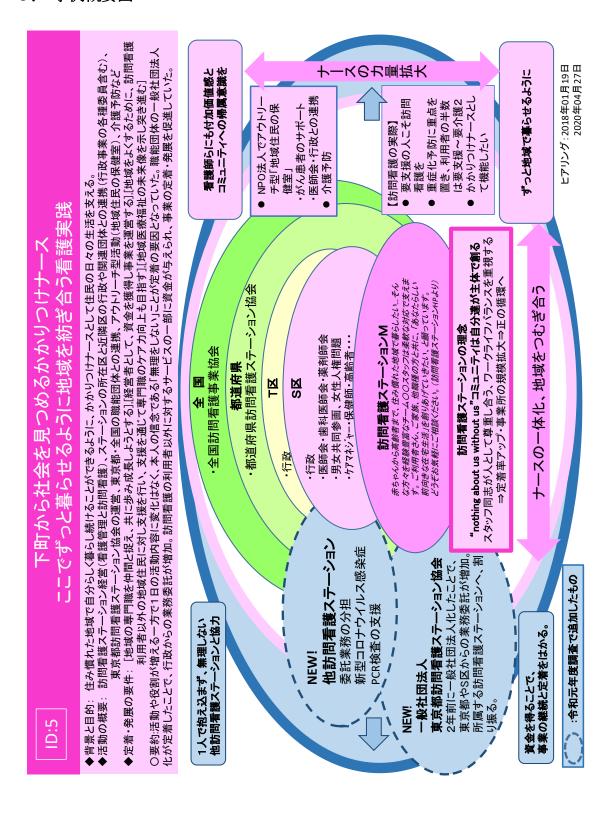
継続性に重きを置き、仲間がいることを念頭に置き、自分が無理をすることで途 絶えることを避ける役割を担っていた。

活動を続けていく上で大切にしていることは何か、ちょっと全然高貴な話じゃなくて、もう無理をしないことみたいな感じがあって、(……)やっぱり続けていくっていうことがすごい大事で、無理しちゃって途中で途絶えちゃうっていうことが一番、私は何か危険だなっていうふうに思っているので……

③ 地域の訪問看護ステーションと共に歩む

東京都から委託を受けた事業を、各ステーションに割り振り、負担の軽減と質の 向上を図る役割を担っていた。 これは、東京都のことは東京都のステーションが委託を受けて。でも、教育ステーションは そうです。『新人さんでも育てます』とかっていう、教育ステーション事業は東京都が都内の、 最初5カ所から始まったんですけれども、今、だんだん、ステーション数を増やしてて、今13 カ所になってるんですけど。直接、委託をして、地域の新人さんとか、新卒さんとかを育てる お手伝いをしてくださいね、みたいな事業なんですけれども。それ以外、医療ケア児の送迎と か、オンデマンド研修とかは、東京都から東京都訪問看護ステーション協会が委託を受けて、 私たちがやるっていうような形になってます。S区のも一応、S区と認知症の職種中心チーム の事業だったりとか、多職種連携研修とか、そういったものは東京都訪問看護ステーション協 会の支部が委託を受けて、地域、S区内のステーションが行うっていうような形でやっていま す。

5. 事例概要図



【ID6】看護系大学教員によって設立されたホームホスピス K

1. 事例の概要

1) 概要

活動拠点:特定非営利活動法人(NPO 法人) ホームホスピス K 立場:法人理事

2) 地域

- ·東北地方
- ・面積約 900km²、人口約 30 万人、人口密度約 350 人/km² の都市
- ・高齢化率 29%超 (県全体では 35%超)
- ・特徴は、全国でも有数の高齢化率の高い地域。同県の政治、経済、交通の中心都市である。

3) 対象となった看護職

- · 年齢 60 歳代
- · 臨床経験 23年
- ・訪問看護(介護)経験年数 17年
- ・現在の職場の勤続年数 5年
- ・過去に経験した職場 5 か所 (病院 1 か所、訪問看護ステーション 2 か所、施設等 1 箇所、その他 1 か所)
- ・介護支援専門員資格 あり (兼務なし)
- ·保有資格 看護師 保健師
- ・同居者なし。
- ・ホームホスピスを設立。住み慣れた地域で満足いく生をまっとうするために、第2の 家となる場所を提供。多職種や地域ボランティアと協力し、地域緩和ケアを目指す。

2. 前回調査時点からの主な経過

2018年9月にNPO 法人立訪問介護事業所を設立、2019年8月に訪問看護事業所を設立し、2020年度は訪問看護の拡大を図ろうとしている。2021年1月頃に2軒目のホームホスピスを開設、2020年秋にContinuing Care Retirement Community (CCRC)活動として暮らしの保健室を開設する予定で、現在準備を進めている。前回調査時にはNPO法人主催で市と共同運営していたが、ホームホスピスの設立準備のために、2019年度末に終了した。

3. 活動実態

1) 一日の活動状況の変化(活動時間)

8時に大学に出勤し、9:15~10:30 ホームホスピス K に滞在し、9:30 からの夜勤の 申し送りに参加している。その他時間帯問わず、必要時にホームホスピス K に行くよ うにしており、月に一度運営会議を 2 時間行っている。

2) 活動内容

(1) 継続中の活動

- ① ホームホスピス K
 - ・ 地域のなかのあらゆる機関、人的資源と連携し、地域包括ケアシステムの一環 となる
 - ・ ホームホスピスとして、安心して地域で暮らすための第2の「家」としてのケアの提供
 - ・ 住み慣れた地域で最期まで暮らすための介護・看護、居場所づくり、相談支援
 - · 居宅介護支援事業所
 - ・ 訪問介護、看護への助言サポート

(2) 終了した活動

① 認知症カフェ

NPO法人の活動として、近隣の施設を利用して認知症カフェを開催している。 認知症の方にとって居心地の良い環境を学ぶ機会や、福祉器具や福祉ネイルの体 験など、幅広い内容を扱っている。

② 市共同の地域住民が集うカフェ

2019年度3月までの2年間、NPOが主催した市との共同事業として、2か月に1回程度の頻度で地域住民を集めカフェを開いていた。

地域で暮らす様々な人たちについて、看取りについて、療養の場について、等様々なテーマを持ち活動した。

2軒目のホームホスピス開設及び CCRC 準備のため終了した

(3) 新たに開始した活動

① 暮らしの保健室

日常的な様々な集会の運営、高齢者が安心して過ごせることをコンセプトに、 多目的ホール、銀行、カフェ等の設備が整う予定のマンションで当該県版 CCRC のようなコミュニティを作る活動の一環として、2020 年 10 月に開設する予定で 準備をしている。予め機能を定めることはしておらず、地域のニーズや地域住民 との関わりの中で活動内容を探っていく。

来てくださる方たちのニーズの中で、こういうことやってると面白いんだとか、こういうことがやれるのねっていうことに、何も縛りをつくらないでやってくのが暮らしの保健室だと思うので、結果的にはそういうふうな役割を、だからすごく担っていくと思います

4. 活動の定着要件

地域住民のニーズに応えていく、地域に必要な NPO 事業を継続していくためにホームホスピスの拡大、暮らしの保健室を開設する。それを支えるために安定した活動財源を築く。

1) カテゴリ・サブカテゴリ一覧

この事例で抽出されたカテゴリ、サブカテゴリを以下に示す。

(1) 地域住民のニーズに応えるための手段を考える

- ① ホームホスピスを継続させるという信念を持つ
- ② ニーズに応えるために事業の拡大を目指す
- ③ 活動とともに地域が変化する

(2) 理念を実現するために挑戦し続ける

- ケアを大切にするという理念を持つ
- ② 困難に対して挑戦し続ける

(3) 職員が働きやすい環境を整える

- ① スタッフのモチベーションを維持し、関係性を良くするためにコミュニケーションをとる
- ② 「利用者のため」という視点でスタッフ間の問題解決にあたる
- ③ ヘルパーが安心して看取りケアを行えるシステムの整備と心理的な支援を行う
- ④ 黒子としての役割の重要性を看護師に伝える

(4) 安定した活動財源を持つ

- ① 収益の見込めない NPO 活動継続のため、訪問看護の経営基盤を確立させる
- ② 事業を発展させて経営を安定させる
- ③ 大学教員の立場や交友関係を活用したネットワーク

2) 各カテゴリ・サブカテゴリの内容

各カテゴリ、サブカテゴリの内容を以下に示す。

(1)地域住民のニーズに応えるための手段を考える

対象者は、地域住民のニーズに応えるためにホームホスピスの運営を継続するという強い信念に基づいて活動を行っていた。ホームホスピスが地域住民に認識されるようになり、さらにニーズが高まる中で、それに応えるためにホームホスピスをもう1軒設立するなど事業拡大に取り組んでいた。

① ホームホスピスを継続させるという信念を持つ

やっぱり一番私が何を大事にするかっつったのは、やっぱり始めたホームホスピスの灯を消さないっていうことが私の一番の、それを最優先したんですね

信念ですよ、やっぱり。誰もやらないけど私やるっていう。私がやるって決めたいからやるっていう

② ニーズに応えるために事業の拡大を目指す

それからやっぱりニーズがまだあって、非常に問い合わせがあるし、そういうことではやはりもう少し、ホームホスピスってことが県の中で知られてきましたので、もうちょっとやっぱりそのニーズに応えていきたいなっていうこともあって、もう1軒っていうふうなことはずっと考えてはおりました。

③ 活動とともに地域が変化する

訪問看護ステーションが、私が行った時に比べると倍増してるんですよ、・・・(中略)・・・ 今24ヶ所あるんですね。そしてその24ヶ所の訪問看護ステーションが、要介護5とかの人 あんまりいなくなってるんです。やっぱり要介護5の人とかは施設に入ってるんだと思うんです。ただ、いわゆる予防的な訪問看護が入ったり、そういう依頼が結構ケアマネさんから多くなってきたっていうふうなことでいうと、ケアマネさんも13年前に比べると、訪問看護を入れて日常生活をきちっと健康管理をしていくことで在宅ができるっていうふうな考え方をしてくれるようになってるんだなって。

(2) 理念を実現するために挑戦し続ける

対象者はホームホスピスにおいて理想のケアを提供するために、ケアの質を大事にするという理念にもとづいてケアを提供することを重視していた。また活動を行う中で、様々な困難に直面したが、自分が置かれている状況の中でできることを精一杯するという姿勢で、挑戦し続けていた。

① ケアを大切にするという理念を持つ

だからほんとにホームホスピスのケアを、ホームホスピスとは何かっていうことに、そこからぶれずに、ホームホスピスでケアをするっていうことと、それからやっぱりこの事業を継続させるっていうことですよね。そこで儲かるなんてことは考えてないわけじゃないですか

一時的にちょっと放したりしましたけど、結局 NPO は運営してるけどケア提供者はそうじゃない人のときに、やっぱり理念の違いが出てくるんですよ。現場のヘルパーさんはそれなりにやってくれるんだけど、その現場を持ってる事業所の人の上の考え方が、全く別にケアを大事にしなくてお金だけ上がってくればいいよみたいな、ホームホスピスで少しもうけてやろうみたいな感じだとすると、だったとは言い切りませんけど、するとやっぱり私たちの NPO の考えてる理念とずれてくるので、これは駄目だなと思って。やっぱりこれは私たちがちゃんと介護をしなくちゃいけないって思ってやったりしましたしね。そこをとにかく一本貫くところは最後まで貫くぞっていう感じですね。

② 困難に対して挑戦し続ける

今までにやったことのないことを、やったことのない人が始めようとしてるんだから、いろんなことがあんじゃんっていう

でも、例えば前の会社の経営の時も今もそうなんだけど、こんな小さな事業体で経営者がいつもそこにいないってのは信じられないってことずっと言われ続けましたし、税理士さんとか 周りの経営者とか、大学に籍を置きながらそんなことをするっていうことに対しての、さっき その波及効果としての強みでもあったんだけれども、外からはものすごく、ものすごく言われました。

しょうがない、こっちだって大事な仕事なんだから、これを前提としてやるしかないじゃないかっていってやってきましたね。

(3)職員が働きやすい環境を整える

対象者はスタッフのモチベーションを維持できるよう常に心がけ、関係性を良くす

るためのコミュニケーションをとるよう心がけていた。スタッフ間での問題発生時には「利用者のため」という視点にもとづき、当事者と切り離して事象を客観視した上で問題を解決することを意識していた。

またヘルパーが安心して看取りケアを行えるよう、看取り時の連絡ルートを作成し、すぐに連絡できるよう整えるなど看取り時の対応システムを整備した上で、具体的な対応を伝えていた。また心理的支援として、看取りにおける心構えを伝え労いを行っていた。さらに、看護師のモチベーションを保ちながらスタッフ間の良好な関係性を維持するために、黒子としての役割とその重要性を伝えていた。

① スタッフのモチベーションを維持し、関係性を良くするためにコミュニケーションをとる

私はなんといっても働いていく方のモチベーションをどう維持するかっていうのはすごく大事だと思っています

ありがとうとか、今日大丈夫?とか元気?とかも含めて、ありがとうって、やってくれて良かったよっていうことを声に出して言っていくことが、それが続いていくと、やっぱり人の関係性ってのは少し良くなるんじゃないかなと思って、そういうこと言ったりしてますね

みんな目的っていうか目指すところはおんなじなんだから、ちょっと考え方とかアプローチの仕方が違っても、目指すところはおんなじだから、みんなでうまく話をしてコミュニケーションよく取って、みんなで具体的にどういうことからやっていくかって、やっぱりみんな声かけしていこうってことだけは伝えてます

② 「利用者のため」という視点でスタッフ間の問題解決にあたる

やっぱり看護も介護に対して寛容さってのもすごく必要だし、いろんな寛容さ、その中でほんとに利用者さんのためにこういうふうなことはちょっと変えていかなきゃいけないねっていうふうなことが話し合えるのっていうのが、すごく大事だろうなっていうふうに思っています

やっぱりエンパワーメントから始まって、何かあったときにその人からその現象とちょっと 離して、その現象に対してみんながディスカッションしようっていう形にしていきたいなって いうふうに思っています

③ ヘルパーが安心して看取りケアを行えるシステムの整備と心理的な支援を行う 看取り時の連絡ルートを作成し、すぐに連絡できるよう整えている。また看取り の時期は概ね予測可能であり、必要時すぐに連絡して良いことを保証し、夜の具体 的な過ごし方を予め伝えておく。

まずみとりは、Kでのみとりはやっぱり全く予測がつかないような形でみとりにはならないので、だいたいこういう時期になってきたなっていうふうなのは、それが1ヶ月なのか1週間

なのか分からないにせよ、大体こういうふうな時期になってきたなっていうのが把握できるようになったら、応対的にこうなったらまずすぐにここに電話すればいいからねとか、夜はこういうふうにして過ごすといいよとか、まずそこからヘルパーさんの管理者がナースに連絡して、ナースから必要なときにドクターにあれしようとか、そいうふうなルートはちゃんと作っておくことですね。慌てないでまず人を呼んでねっていうこととか。

やっぱり看取り怖いですよね。だからそこをみんなでチームでどう支えるかっていうのはあるんだけれども、でもねって。・・・(中略)・・・最期のその時をあなたに委ねたんだよねって、あなたに送って欲しかったんだよねっていう風に、周りがちゃんとエンパワーメントしましょうよって。私が送り出します、私の時を選んでくれてありがとうっていう風になれるかっていうことをヘルパーさんたちに、みんな逝きたい時に逝くんだよって、人選んでるよって言います、私は

④ 黒子としての役割の重要性を看護師に伝える

ナースももちろんプロだしプライドがあるからね。もちろんそこのナースのモチベーション もすごく大事なので、ナースがきちっと支えてくれてるから安心してできるんだからっていう ところではお話をしてます

徹底的に黒子になれるか、って言ってます。私は。ナースが主役になるんじゃなくて、ナースが黒子になれるかどうかなんだっていう話をします

(4) 安定した活動財源を持つ

暮らしの保健室など収益の見込めない事業を継続させるため、対象者は収益性の安定している訪問看護の経営基盤を確立させる努力をしていた。ホームホスピスの事業運営を安定させるには、複数施設の運営が必要であるため、ホームホスピスの2軒目の設立という事業拡大により経営の安定を目指していた。また事業の機会の獲得や周知活動にあたり、自治体や学友時代の交友関係、大学教員の立場を活用したネットワークを活用していた。

① 収益の見込めない NPO 活動継続のため、訪問看護の経営基盤を確立させる

だからいいことやりたいけど、じゃ、そこにどういうところできちっとペイする事業を持ちながら、ほんとにここはペイレないけどやるんだっていうところをやるのかっていうことがすごく大事だと思う。だから夢だけではいかないので、どこのところできっちり経営基盤はつくるかっての

やっぱり訪問看護ステーションがしっかりしてるってのすごく大事で、・・・(中略)・・・ やっぱり K1 軒分くらいの分は稼げるくらいの事業体になると、もっといろんなことやる、稼 ぐための事業じゃなくて、お金にはならないけど NPO として必要な事業だよねっていうこと ができるようになるかなと思います

② 事業を発展させて経営を安定させる

事業運営として非常に大変なんです、ホームホスピスは。ですので、最初からのIさんとかは、いわゆる2軒目、3軒目っていうのを考えて、そして利用者さんが安定して15人くらいになれば、事業運営としてもすごく楽だよっていうことで、どこも1軒で終わってるところあんまりないんですね。

ですので、2軒目をするっていうのは、経営の安定のためと、ニーズに応えるためというの が大きいところですね。

③ 大学教員の立場や交友関係を活用したネットワーク

県とももちろんつながってますし、市ともつながってますし、あるいは銀行とは他の企業体ともつながってますけれど、そこまでになるのには、・・・(中略)・・・やっぱり大学の教員だったっていうことで、それはすごく大きいかなと思います

5. 事例概要図

経営基盤安定のため今後も 訪問看護の事業拡大を図る。 一度外部の株式会社に**移譲** したが、ケアの理念を一貫 するため再度自身で運営し ○看護機能のキーワード:NPO法人と訪問看護・介護の会社を設立、少人数制のインフォーマルな空間づくり、介護士と看護師の協働と連携 ○活動の概要:NPO法人でホームホスピスと訪問看護・訪問介護サービスを運営し、サービスを一貫することで入居者の生活を支援する。 NPO法) 訪問介護 訪問看護 ID6 看護系大学教員によって設立されたホームホスピス 5112 器 立 製立 ○取り組みの成果:入居者、家族が穏やかに過ごせている。ホームホスピスが地域に浸透し、入居希望者が増えてきた。 NEW 2018年 2019年 自分の家ではないもうひとつの我が家」で最後まで自分らしく暮らすためのケアを提供する。 人との温かい関係づくりを推進 に応え、利用者・家族・地域の # 地域で暮らしたいというニーズ 「住み慣れた地域で最後まで暮らしたい」という願いに応えられるような地域を目指す セポート なり. サービス提供 助言、 自宅での生活が難しく 介護支援専門員 (心不全、認知症、がん) 居宅介護支援事業所 暮らしの保健室、地域の人と人との関係づくり コーディネーク 看護師 第2の我が家として地域で最期ま 居場所を提供 NPO法人ホームホスピスド 入居者:6名 地域活動 (自治会など) 賃貸契約 運営開始 NPO設立 暮らすための、 理事長 : A氏 副理事長: N氏 2014年 2015年 2020年10月頃に 秋田版CCRCの一環。 日常的な様々な数回の運営。地域の ニーズや地域住民 との関わりの中で 看護系大学教員 活動内容を探って 暮らしの保健室 ○背景と目的: 開設予定 NEW

【ID7】地域のニーズを形にする保健師

1. 事例の概要

1) 概要

- ・ 活動拠点:関東圏某町役場内地域包括支援センター
- ・ 立場:地域包括ケア推進室長兼地域包括支援センター長
- ・ 主たる活動:保健師
- ・ 主たる活動以外の活動:特になし

2) 地域

関東圏某所

- · 面積:約500km²
- · 人口規模:約7千人
- · 人口密度:約14人/km²
- · 高齢化率: 47.5%(2017 年度)
- ・ 特徴:県央部に位置し、3市に隣接している。約94%を森林が占めている。

3) 対象となった看護職

- · 年齡:55歳
- 看護師臨床経験:看護師 8年、現職場25年
- ・ 過去に経験した職場:救急外来
- · 保有資格:看護師、保健師、社会福祉士
- ・ 介護支援専門員資格:あり

2. 前回調査時点からの主な経過

・ 2018 年に自治体直営の訪問看護ステーションが設立され、調査対象となった SCNs の 役割の一部を担えるようになった。また、管理栄養士を自治体直営の地域包括支援センター職員として雇い、ケアマネジャーや社会福祉士の資格を取得してもらうことで、 将来的にはソーシャルコミュニティー栄養士の育成を目指している。

地域包括支援センターに管理栄養士を配置することで、ソーシャルコミニティーナースがあるように、ソーシャルコミュニティー栄養士があればいいと思っています。

・ 新型コロナウィルス感染症予防の影響で、social distance を保つためケアラーズカフェ で集えなくなったが、町で整備したテレビ電話を活用し、ケアラーズカフェに来てい た高齢者とケアラーズカフェのスタッフをつなぐことができるようになった。

ボランティアさんたちが新型コロナウイルス感染症の影響で「ケアラーズカフェができない、お年寄りに会えない。心配だけど何もできない、すごい無力感がある」ということを地域包括 支援センターに言ってきたんですね。そこで、このテレビ電話を活用できるようになって、「私 にもできることがあった」と言って泣いていました。

- ・ ACP (人生会議) の普及のため、全地区訪問し「私の大切なことメモ」の運用を開始 した。このデータを地域包括支援センターで集約、管理する「ACP バンク」を作ろう と考えている。
- ・ 腎管理栄養士とともに腎不全重症化予防事業への取り組みを始めている。「おじさん キッチン (男性の料理教室)」も、塩分に気をつけた健康食をとのことで、管理栄養士 が絡み出した。
- ・ 後任に伝えるための仕事の振り方や、教育的指導方法を模索している。

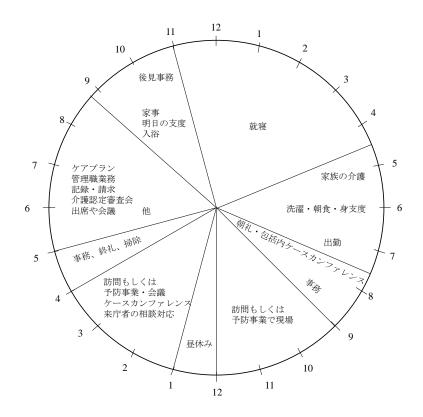
そのキャリアラダーの中に、1~2年目の新人は、どんどん地域に出る、訪問する。ケース のことを一生懸命考えるというのを盛り込もうと思っています。

3. 活動実態

1) 一日の活動状態の変化(活動時間)

前回のインタビュー調査時に改めて1日の過ごし方を振り返ってみたところ、他人に は真似できないくらい仕事ばかりしていたことに気づき、出来るだけ早めに退勤するよ うにしている。加えて、訪問看護ステーションができたことで、日中の訪問や夜間の緊 急訪問が減り、事務に従事できるようになってきている。

<今回調査時(2019年度)の24時間>



<前回調査時の24時間>

4 時半~7 時半	起床後、義父の介護 (小規模多機能施設への送り出し準備) 朝食、身支度
7 時半~8 時半	出勤
8 時半~22 時半	勤務(訪問業務8:事務作業2)昼食、夕食は適宜勤務地で すませる
22 時半~23 時半	退勤
24 時ごろ	就寝

2) 活動内容

前回調査時(2017年度)の活動内容は、継続され、発展していた。以下に詳細に記述する。

(1)継続中の活動

- ① 保健師としての活動
 - ・ 全戸訪問実施。介護実態調査、在宅看取りのニーズなどの把握、分析
 - ・ ニーズの高い高齢者を医療・福祉サービスへつなぐ
 - ・ ニーズの高い高齢者を直接訪問し、ケア(⇒町営訪問看護ステーション開設準備中。)
 - ・ 多職種連携ワークショップ開催
 - ・ 地域住民への啓発 (認知症サポーター養成講座の開催など)
 - ・ 地域住民主体のボランティア活動の後方支援
- ② 介護保険で充足されない「日々のちょっとした困りごと」を支援する住民ボランティア
- ③ 介護者のための語り合うサロン→自粛中も遠隔で繋がる
- ④ 介護者のお話し相手になるボランティア→テレビ電話を通じてオンラインに移行 した
- ⑤ 男性高齢者のためのお料理教室→「男の運動教室」に派生

(2)終了した活動

新型コロナウィルス感染症予防のため集合する活動は自粛中。

(3)新たに開始した活動

- ① 訪問看護ステーションの設立
 - ・ 自治体直営の訪問看護ステーション。現在 2.5 人の看護師が、25 人の利用者 さんのケアをしている。ターミナル、ALS、要支援だが透析や心不全悪化のリ スクが高い人たちなどがいる。

② 腎不全重症化予防

・ 管理栄養士とともに関わっている。

③ 管理栄養士の確保

・ 様々な方面で活躍。ソーシャルコミュニティー栄養士にしたいと考えている。

④「私の大切なことメモ」

ACP 普及のための冊子。全地区訪問して説明しながら、参加者全員に書いても

らった。ケアマネジャーなどから意見を聞きながら改良を重ね、診療所の医師や施設だけでなく、デイサービスや病院にも持っていってもらって、みんなで共有できる仕組みを作った。身寄りのない方は地域包括支援センターが聞き取り保管し、地域の ACP バンクを作成したいと考えている。

要介護 4、5 の人に終末期の希望を聞くと、すごく重たい話になってしまうということで、 ケアマネさんと会議を開いて、ちょっと改良します。

改良したものを印刷会社に発注し、単独の「私の『大切なこと』メモ」の複写版にします。 今年度は、その複写版を持って全地区巡回し、書いてもらった複写のほうをご希望のある方は 地域包括支援センターでお預かりして、うちの部署に「ACP バンク」を作ります。

⑤ テレビ電話

新型コロナウィルス感染症の影響でみんなが集まることができなくなったことで、ケアラーズカフェのスタッフは葛藤を抱えていた。数年前に、町のインターネット環境を整備する目的で、全世帯にテレビ電話(IP 告知端末)を設置していた。テレビ電話は、ハンズフリーでテレビ電話もできることから、電話を通じて、話し相手、声かけ活動ができるようになった。その他にも薬剤師による薬のチェックなど今後の活用の幅は広い。

薬剤師さんに「この薬、飲んだらおなか痛いだけんが」って言うものだから、「『この薬』じゃ分からんよ。どの薬だか見せて」って言って、これでこうやって見せてとか。結構そういうことでテレビ電話がいろいろ使えてますね。

4. 活動の定着、発展の要件

1) カテゴリ・サブカテゴリ一覧

この事例で抽出されたカテゴリ、サブカテゴリを以下に示す。

- (1)「住民のニーズ」に忠実であり続ける
 - ① 地域住民のニーズをオンタイムで汲み取りすぐに行動に移す
- (2)ソーシャルコミュニティーナースとしての自覚を持ち後任にビジョンを伝える
 - ① 自分の地域への役割を理解する
 - ② 有機的な地域の専門職同士のつながりを波及させる
 - ③ ビジョンを後任に伝える
- (3) 不測の事態に備えて、近隣住民を巻き込んだ支援の蜘蛛の巣を張り巡らす

(4)世代を超えて、我がこととして街に関わるよう住民に働きかけ続ける

- ① 世代を超えてつながる
- ② 地域の文化として活動を定着させる

2) 各カテゴリ・サブカテゴリの内容

各カテゴリ、サブカテゴリの内容を以下に示す。

(1)「住民のニーズ」に忠実であり続ける

① 地域住民のニーズをオンタイムで汲み取りすぐに行動に移す

1年前のインタビュー時に伺った住民活動は、すべて進化している。様々な状況によって変化する地域住民のニーズを、オンタイムで汲み取りすぐに行動に移すことで、活動自体がタイムリーにニーズに適応できる。

今年度このお達者度の順位が上位から落ちたっていうことで、その理由の一つとして、脳卒 中があるからみんなで脳卒中予防をしようよっていうことで全地区を巡回しました。・・・合 わせて運動もしないと、やっぱり動脈硬化は予防できないよっていう話の中で、「男の運動教 室」っていうのも立ち上がりました。

(2) ソーシャルコミュニティーナースとしての自覚を持ち後任にビジョンを伝える

① 自分の地域への役割を理解する

自分の役割を、ソーシャルコミュニティーナースだと自覚することで、ビジョンが明確になっている。

② 有機的な地域の専門職同士のつながりを波及させる

自分の役割を他の職種へも波及させることで、地域の支援体制を底上げしていく。

ソーシャルコミュニティーナースっていうものが自分だけがそういう使命でなくて、波及していくっていうのが机を並べたことでできてきたっていうのはあります。

③ ビジョンを後任に伝える

今まで培ってきた思いを、後任に伝えていく。

そのキャリアラダーの中に 1~2 年目の新人にはどんどん地域に出る、訪問する。ケースのことを一生懸命考えるっていうのを盛り込もうと思ってます。

(3) 不測の事態に備えて、近隣住民を巻き込んだ支援の蜘蛛の巣を張り巡らす

どんなにきめ細やかな支援をしても、やはり網の目をすり抜けるような出来事が起こる。このためにも、近隣住民同士の支援ネットワークを張り巡らすことで、困りごとを早めに解決することができると考えている。

例えば訪問しても、この方は隣のうちのおばさんがすごくよく来てくれている、何かあれば この隣のおばさんが言ってきてくれるなっていうのが分かれば、そこは私たちが引いてその隣 のおばさんに任せて、何かあったら隣のおばさんに情報をもらうっていう形で住民と私たちの 間のネットワークをクモの巣のように広げていくっていうことでやっていければ。これからそ ういうものを目指したいなと思ってます。

(4)世代を超えて、我がこととして街に関わるよう住民に働きかけ続ける

① 世代を超えてつながる

住民に、お役所仕事ではなく、我がこととして捉えてもらいたいので、ここ 10年くらい地域住民にわかりやすい言葉で説明し、我がこととして捉えてもらうよう伝え続けてきた。その頃高齢者の介護をしていた人が今では介護される側になることで、自分が伝え続けた思いが世代を超えて継承されていく。

やっぱりうちが今まで一番頑張ってきたことは、地域包括ケアシステムとか医療介護連携とか認知症総合支援(中略)だけど、こういう言葉が飛び交っても住民の方は何やるのか、行政とか私たちが「やるよ」って言っても何やるかどういうことなのか分からないので、まず住民に知ってもらうように住民に分かる言葉で伝えて、これは行政がやることでなくて、自分たちに跳ね返ってくることなんだよっていうことをここ 10 年ぐらいずっとお伝えしてきました。

10 年前に介護者だった人が今要介護者になってますから。そういう流れの中で、やっぱりどういう人もその道を踏んでくんだよっていうことが私たちが見てて実感として見えるようになったので、それを全地区巡回の時にお伝えできるようになったっていうことで。

② 地域の文化として活動を定着させる

活動の結果として、世代を超えて継承された思いが、その地域の文化として定着していく。

地域課題を自分のこととして見てくれるようになってきたなと思います。そういう中で受け 身でなく、自分も何か役割を果たしたいって思いを表に出してくれるようになりました。

事例概要図

ーズを形にする ID7. 岩域の

- 背景と目的:地域に根を張り、住民と共生しながら高齢者の困りごとを一括して支える。
- 住民への健康教育活動、 活動の概要:地域包括支援センター保健師として、日常生活が困難な状況にある住民への対応全般、
 - 取り組みの成果:住民の互助力の強化、地域包括ケアシステムの構築、互助力の高い文化の醸成。 地域サロンの企画運営、地域の介護・医療連携推進活動(セミナー、ワークショップの企画運営)
- 看護機能のキーワード:ヘルスプロモーション、ヘルスビリーフ、他職種連携、互助力の醸成、地域包括ケアシステム

活動の定着、発展の要件

- ①住民のニーズに忠実であり続ける。
- ②ソーシャルコミュニティーナールとしての自覚を持ち後任にビジョンを伝える。
 - ③不足の事態に備えて近隣住民を巻き込んだ支援の蜘蛛の巣を張り巡らす。
 - ④世代を超えて我こととして街に関わるよう住民に働きかけ続ける。

課題・展望

他職種へ拡げていきたい (Social Community 管理栄養士が必要) SCN機能を他の看護職、

住民へ

- 居宅訪問 住民の自主的な地域活動の企画運 営・発展拡大 (→次頁へ)

町役場職員へ

- 後任育成支援
- キャリア開発
- 分描 自分の仕事の整理、

②地域包括支援センター長 ①地域包括ケア推進室長

高齢者福祉課内

町役場

3NEW!

直営訪問看護ステーション統括所長

隣町で生まれ育つ。救急外来で看護師として勤務後、 保健師として赴任。地域に住む高齢者の顔と名前、1 所は全て把握している。

地域包括ケア推進室:NEW!新たに管理栄養士を雇用

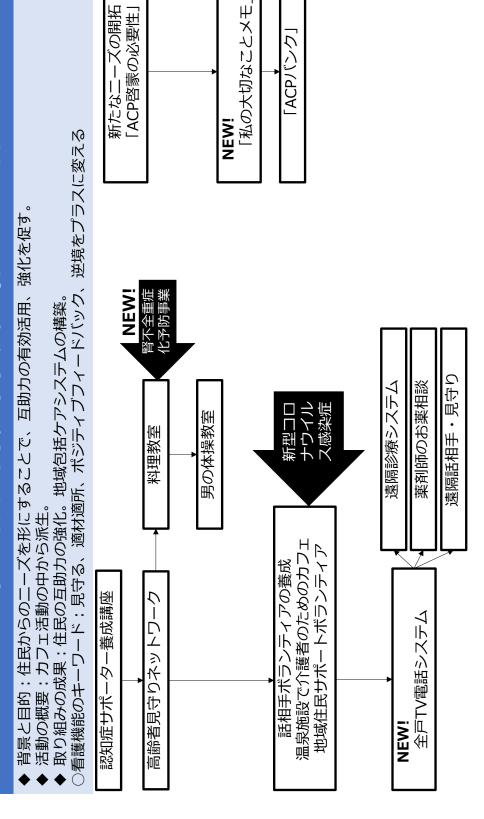
地域の医療・福祉専門職へ

月一回の他職種連携会議 ワークショップ開催

全国へ

講演会活動(地域包括ケアシ ステム・在宅看取り支援につ

役場が運営する住民主体の地域活動



【ID8】地域に飛び出す感染管理認定看護師

1. 事例の概要

1) 概要

・活動拠点: M 病院(総合病院)

・立場:M病院の感染管理認定看護師

・普段の活動: 院内感染対策業務、院内ラウンド、スタッフ向け勉強会、医療デバイスがある人の退院カンファレンス参加

・SCN としての活動:地域のサロン等*で感染対策についての勉強会の講師・相談対応 *他にも、放課後クラブ、保育園、デイサービス等に行くこともある

2) 地域

広島県M市

・面積:約 470km²

·人口規模:約9万人

·人口密度:約200人/km²

· 高齢化率: 19.1%

・特徴: かつては三菱重工、帝人など、重厚長大型と繊維で栄えたが、近年、大日本 印刷プレシジョンデバイスなどの工場・物流施設を誘致し、新たな基幹産業 となっている。中国・四国地方のほぼ中心にあり、この地方の各地域と連携 する上で恵まれた地理的条件を有す。

3) 対象となった看護職

· 年齡:42 歳

・看護師臨床経験:20年 (認定看護師として約11年)

・過去に経験した職場:関東の急性期病院

·保有資格:看護師

・介護支援専門員資格:なし

2. 活動内容

1) 活動の背景・目的

(1)背景

M 病院の方針としてみつぎモデル**を採用して地域包括ケアの構築に主体的に取り組んでいる。地域住民の健康な暮らしを助け、病院を身近な存在としてご活用してもらい、意見や要望などの生の声を聞く場として、医療職員による「出張講座」を提供している。

(2)目的

地域連携促進、地域の健康づくりへの貢献、病院を知ってもらうための宣伝広報。

***みつぎモデルとは

広島県公立みつぎ総合病院に発する。

地域の中核病院が主導して地域包括ケアシステム(保健・医療・介護・福祉の 連携・統合)を推進していくモデル。

2) 活動内容

(1) 院内での活動

平時は M 病院の看護師。感染管理認定看護師として専従で感染対策にあたる。 院内の感染対策ラウンドやサーベイランス、スタッフを対象とした勉強会、コンサルテーションなど行う。医療用デバイスを装着した患者を対象に、デバイス創部や刺入部の感染予防のための退院カンファレンスも行っている。

(2) 地域での活動

主に地域包括支援センターから依頼を受けて病院から地域のサロン等に出向き感染症およびその予防について講義や相談対応、啓発活動を行う。

(活動のながれの例:サロンの世話人が地域包括支援センターに勉強会の依頼⇒地域包括支援センターが事業計画をつくって M 病院に依頼⇒担当看護師の日程調整⇒担当看護師が地域包括支援センターとニーズ確認⇒勉強会実施)

地域で得た情報については適宜保健師と共有する。

(3) 地域に出かける日のスケジュール

- 8:30 仕事開始 (M 病院)
- 13:30 サロン等で勉強会(病院とは電話対応)
- 15:30 病院に戻って仕事

3. 活動の定着・発展の要件

1) カテゴリ・サブカテゴリ一覧

この事例で抽出されたカテゴリ、サブカテゴリを以下に示す。

(1)病院を離れられる環境をつくる

- ① 病院の仕事をないがしろにしない
- ② 病院のスタッフと信頼関係をつくる
- ③ 自分がずっといなくても大丈夫なように病院のスタッフを育て、すべきことを伝えておく
- ④ 後任を育てる

(2) 教えたことが受診行動や他の住民に伝わり、波及する

- ① 講義をうけた住民が家族に伝える
- ② 受診行動につながる
- ③ 受講者をきっかけに病院に直接問い合わせるようになる
- ④ 医療を地域住民に伝え、病院と地域をつなぐ

(3)地域住民に敬意をはらう

- ① 優先順位はその都度見極め、できるだけ断らない
- ② 地域の参加者の心情や体調に気を配る
- ③ 外部のものとして地域に入っていく

(4) 関心の高い対象を把握し、ニーズに応える

- ① 医療資源が少ないところは健康管理意識が高く、学ぶ意欲が高い
- ② 院内外で患者、住民に声をかけてニーズをひろう
- ③ 地域に出る前に対象 (ニーズ) を把握し準備する
- ④ 自分にできることの引き出しをたくさんもっておく

(5)保健所と住民の橋渡し役になる

- ① 腹を割って話せる専門家というポジションで病院にいる
- ② 保健師と情報共有する

2) 各カテゴリ・サブカテゴリの内容

各カテゴリ、サブカテゴリの内容を以下に示す。

(1)病院を離れられる環境をつくる

病院に勤務し役割をもっている感染管理認定看護師が、病院を離れて地域で活動を 行うためには、自分が不在の間も現場を守ってくれるスタッフの協力が不可欠である。 自分が院外にいても院内の感染対策関連業務が滞らないように注意している。

① 病院の仕事をないがしろにしない

本事例は病院が基盤となっていて実施できる地域活動である。その病院に所属する者として院内における仕事をおろそかにしないことは地域に出て活動するための前提である。

病院の仕事をないがしろにしないっていうところは、大切にしてることが一番です。それは、 病院があってこそ地域活動できるので

② 病院のスタッフと信頼関係をつくる

病院を離れて地域に出かけるためには、他のスタッフが活動を理解してくれて、 自身もスタッフに対して現場を任せられるという信頼を置ける必要がある。

外に出るからには、全面的にうちの病院の施設の看護師を信用してるので、信用と信頼がなければ外に出れないと思うんです

病院のスタッフが守ってくれてるから地域の活動できると思ってるんです。なので、病院のスタッフが感染についてのことを守ってくれてるから、外に行ってこういう活動できるっていう考えでいるので。

困ったときには電話がかかってくれば問題ないから、全面的な、ほんとに病院の支援もそうなんですけど、行かせてくれている看護スタッフがいるから外に出れる

信頼を置いてなければ外に出れません。心配で、心配で。

③ 自分がずっといなくても大丈夫なように病院のスタッフを育て、すべきことを伝えておく

一時的に病院を不在にしても現場のスタッフは困らないだろうと信用できるところまで指導しておく。また、なにか起こった場合には自分が帰院するまでに何をどこまでやっておけばよいか指示している。

何かがあったから行けないとかっていうことはなく、もう、全面的にここまでやってれば、ここまで伝えてれば、うちの病院のスタッフはできるだろうと思って、ある程度そこまで信頼 を置いて外に出るっていう仕事をしてるので、 病院はもうほんとに、先ほども伝えましたが、実践部隊がやってくださってるので、ある程度、これとこれだけやっといてください、地域から帰ってきたら、ここまでできていたら、あとは対応するのでお願いできますかって

④ 後任を育てる

自分が異動した場合でも活動が継続されるように、後輩に伝え、認定看護師の養成・教育機関に送り出している。

恐らく定着すると思います。そのように私、送り出してるので、認定看護師学校に。需要があるので、そういうのを求められている地域の中の施設としては頑張っていく、帰ってくるように言っているので。

(2) 教えたことが受診行動や他の住民に伝わり、波及する

医療者が地域に出て住民に勉強会をすることによって、後日勉強会で学んだことに 該当するトラブルが起こったときに病院を受診したり、学んだことを自分の家族や友 人にも教えたりするなどの波及効果がある。

① 講義をうけた住民が家族に伝える

勉強会に参加し学んだ内容を参加者が家族にも教えることによって、学びや知識 が勉強会参加者だけでなく住民の間で広がっていく。

M 病院がやっていた市民公開講座とか地域の公開講座を聞いて、ダニで死ぬ病気だと思っていなかったから、そこに関する勉強会で知識を学んだことを知って、その知識を知った人が家族に伝えて、家族がそうなったから受診に来たとか

② 受診行動につながる

例えば、ダニ媒介感染床について。以前ならダニ程度と考え受診など考えていなかった住民が、勉強会に参加することによってリスクを理解し病院を受診するようになる。

ダニ媒介感染症とか食中毒の話をさせてもらったんですけど、そこに参加されていた住民の 方が受診のときに、私の話を聞いたから、ダニに刺されたときに受診にうちに来たとか。

③ 受講者をきっかけに病院に直接問い合わせるようになる

地域での勉強会に参加したことにより、参加者が勉強会を開催した病院及び医療者のことをおぼえ、なにか不明点がある時に病院に自分から問い合わせられるようになる。

あのときのサロンで勉強したんだけど、ここが分からないから教えてほしいっていうダイレクトに勉強会の内容を聞いてくる高齢者もいます。なので、手応えっていうよりは、そういう

高齢者が求めてることはあるのかな

④ 医療者として地域住民に伝え、病院と地域をつなぐ

病院から医療者が地域に出向き住民と接することは、地域医療連携につながる。

やっぱり地域包括ケアシステムの中で、高齢者は在宅とかに向けて、医療と介護の連携の中で、在宅に向けたかたちの着目をされている以上、サロンを地域の中での活動でいかに医療の知識を皆さんに伝えながら、予防っていうところができるかっていうのは、こういう活動の中には入ってくるんじゃないかなと思ってる

サロンに看護師が行くと、医療者が行くっていうことの意義はすごいおっきい。

(3) 地域住民に敬意をはらう

対人での活動であることや、対象者に高齢者が多いことも考慮し、地域住民には敬 意をはらい活動するよう意識している。

① 優先順位はその都度見極め、できるだけ断らない

地域での活動が外部との対人的な活動であることを意識し、キャンセルはしないようにしている。院内の業務等が発生した場合でも慎重に優先順位を検討し可能な限り断らない。

地域は対人があってのことなので、キャンセルできるものではないじゃないですか。なので、 そこに関してもある程度、すごくてんびんに掛けながらっていう

もうほんとにこれ駄目だって思ったときには、地域のほうにお願いをして、ちょっとずらしてもらったりとかするんですけど。でもよっぽどのことがない限りは、地域は断りません。

② 地域の参加者の心情や体調に気を配る

対象者には高齢者が多いこともあり、勉強会に参加したことによって体調を崩す など悪い影響がないように気を付けている。

サロンだと自分よりも3倍も4倍も、4倍まではいかないかな、3倍の年齢の方がいたりとか、2倍の年齢の方が置いらっしゃり置とかする方がいらっしゃるので、そこの関連する方々に対して、やっぱり敬意を払うことができているかなっていうところは、すごく気を遣っているところもある

看護師として健康と生活っていうところをすごく重要に思ってるので、生活の中でサロンを 楽しみにしている人が、この私の勉強会というか研修会に参加したことで体調不良になったり とか、ちょっと気分を害したりとかしないような心掛けをしながら、研修会をさせてもらって いることを大事にしてます。

③ 外部のものとして地域に入っていく

外部の人が来ることによって地域の受講者の意識が変わる効果もある。外部のものとして接することで互いによい関係性を保てる。

別の人が話すことによって、話し方も違うし、来てくれた、だから聞かなきゃっていう構えにもなるし。あとは、やっぱりあたしたちもそうだと思うんですけど、外から来た人の声だとすんなり入ったりとかするじゃないですか。そこのところをうまく利用してもらえれば、うまくお互いにいいような関係性が保たれるんじゃないかな

(4) 関心の高い対象を把握し、ニーズに応える

医療資源の少ない地域など、地域で生活していくために健康管理に関心の高い集団を把握する。また、感染管理に関する住民のニーズを収集し、応えられるように準備をする。

① 医療資源が少ないところは健康管理意識が高く、学ぶ意欲が高い

医療資源の少ない、特に山間部などでは住民が自分で健康を維持・管理する必要があり、対象者のニーズも意識も高い。そういった対象を把握し、働きかけていく。

山間地区って認定看護師がいないんですよ、ほぼほぼ。なので、勉強したくっても、地域から地域を跳び越えて勉強しに行けない。なので、来てもらえたら参加したいっていうのと、意欲がすごくて。

自分の健康管理に着目されている方がすごく多いので、サロンに行く需要はすごくあるとは 私は思ってるんです。

山間部のほうこそ、なんでニーズが高いのかっていったら、病院が少ないから健康意識が高いのかなっていうのは、すごく感じてるんです。

自分でどうにかしなきゃいけない、 健康管理をきちっとして、病気にならないための管理 を、自分の中で管理しておこうって思う方が多い、意識があるのではないかと

② 院内外で患者、住民に声をかけてニーズをひろう

入院中の患者や地域の勉強会の参加者に声をかけ会話するなかで、対象者のニーズや知識が不足していると考えられることなどを把握する。

サロンに行きながら声を聞いてみたりとか、あとは受診している患者さんでも、地域包括に 入院している患者さんとかに、それこそラウンドに行ったときに声を掛けながら、

「こういうことをやるといいんですよ」みたいなことを伝えると、「知らんかったわ」から スタートしたりとか、「知っとるよ」とかそういうところで、こういうところもあるのかなと か、

患者さんの声から拾ってくることとか、あとはスタッフの声から拾うこととかもあります。

③ 地域に出る前に対象 (ニーズ) を把握し準備する

地域で出張勉強会を行う際は、事前に対象者の年齢層や ADL、勉強会のなかで 実施可能なこと等把握し、実施までに勉強会の内容の確認を重ねる。

窓口で申し込みをされて、電話のやりとりでニーズを聞いて、どういう年代の方なんですかとか、どういうふうな女性が多いんですかとか、男性が多いんですかっていうようなこととか。あとこういう、今日みたいに実践をしたいんですけど、こういうことができますかとか、こういうようなことをやりたいんですけど、いかがですかねみたいなこととか、立ったり座ったりとかしたりとかできるような方が多いのか、それとも座ったままの座学のほうがいいのかとかっていうような

同うまでにあの距離があるので。電話で2回ぐらい調整しますかね。日程調整とニーズの確認と、さらにパワーポイントを作ってからもう一度ニーズの確認をしながら、もう一回修正するっていうようなやり方をします。

④ 自分にできることの引き出しをたくさんもっておく

勉強会の依頼があったときに、自分に提供できるテーマを具体的にいくつか提案 できるようにしておき、相手のニーズに応える。

どんなことでもいいので話してくださいっていうところのほうがすごく難しいので、こういうことできますよ、こういうこともできますよ、こういうようなことやりたいんですけどどうですかみたいな引き出しをたくさん案として持っているようにして、地域に出て行く

(5)保健所と住民の橋渡し役になる

地域住民の相談窓口となりその情報を保健師に伝えることにより、保健師が対象者 を把握すること等を助け、保健所と地域住民をつなぐ役割を果たす

① 腹を割って話せる専門家というポジションで病院にいる

保健師や産業医などには話せないことでも病院の看護師には話せるという場合も ある。相談しやすい窓口としての役割をもっている。

雇い主側はどういうふうな結核対応のことをすればいいのかっていうのが、保健所に聞いても分からない。保健師さんも中途半端なことしか答えてないとなったときに、相談の窓口は受診している病院の看護師になるわけですよ。そうなったときに、私のような感染だけを知っている認定看護師がいることによって、対雇い主側とお話を電話でも、面と向かってお話しすることだけでも安心材料としてなるので。

産業医がいても、聞けないこともたぶんあると思うんです。

事業主の人の相談窓口っていうのも保健所と同等な感じで、保健所にはなかなか話せないことでも、M病院だったら腹を割って話せるっていうようなことの窓口的なかたちで。

② 保健師と情報共有する

対象者が保健師には言いにくいこと、言ってほしくないことを勘案したうえで、 保健師に対象者の情報を提供する

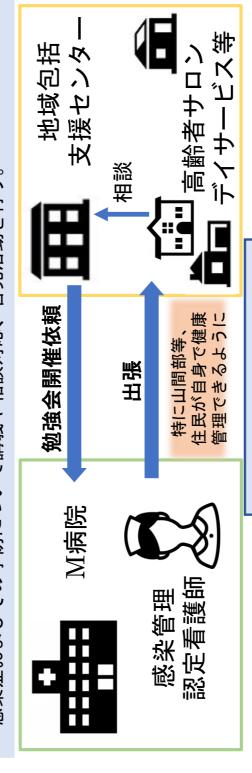
一応私も、保健師さんにはリークするんです。リークというか、情報共有するんですよ。で も、言いたくないこともやっぱり事業主としてはあるので、そこのところは聞いてあげて

うまい改善方法と保健所との橋渡しをする役も、病院の認定看護師の中ではあると思ってる ので

4. 事例概要図

管理認定看護師 お域に黒び出ヶ感深(

- 地域貢献、 M病院は地域包括ケアの構築に主体的に取り組んでおり、 四 名 漏と
- HU 宣伝広報活動の一環として医療職員による「出張講座」を実施。 **活動内容**:平時はM病院の感染管理認定看護師。病院から地域のサロン等に出向 啓発活動を行う。 染症およびその予防について講義や相談対応、 活動内容



院内での活動

- 感染な策しひソド コンサラドーション サーズイルンス
- ₩ K アフン 退院カンフ

地域での活動

感染予防について講義 啓発活動

10 10

▶病院を離れられる環境をつ ♦行動や他の地域住民に波及

活動の定着と発展の要件

4

相談外

6

このア

ニーズー

◆対象を把握し、 ◆保健所と住民を

▶地域住民に敬意を払う

%

・しな。

用を

【ID9】社会課題から事業を生み出す新時代看護師

1. 事例の概要

1) 概要

·活動拠点:株式会社

· 立場: 社長

2. 活動内容

- 1 訪問看護ステーション運営
- 2 予防医療事業
- 3 インフォーマルな自費移動支援のためのプラットフォーム運営

3. 活動の定着、発展の要件

1) **カテゴリ・サブカテゴリ一覧** この事例で抽出されたカテゴリ、サブカテゴリを以下に示す。

(1)社会課題と既存のサービスのギャップを見つける

- ① 社会課題に苦しむ人と出会いその課題を分析する
- ② 社会課題解決につながるビジネスチャンスはないか常にアンテナをはる

(2) 自分がやりたいと思う気持ちを大切にする

(3) 学習し、成長し続けられる組織を作る

- ① キャリアラダーを体系化する
- ② 結果だけでなくプロセスを大切にし、組織内で共有する
- ③ 社員一人一人のビジョンを大切にする

(4)活動を行う上での手応えを感じる

- ① 新たなマーケットが生み出されたと感じる
- ② ビジョンを共有する仲間が増える

2) 各カテゴリ・サブカテゴリの内容

各カテゴリ、サブカテゴリの内容を以下に示す。

(1) 社会課題と既存のサービスのギャップを見つける

① 社会課題に苦しむ人と出会いその課題を分析する

新しい事業を始める際には、社会課題に対して既存のサービスで対応できていない点を見つけている。

いずれもやはり看護職として、健康診断受けてない方であったり、孤独死になってしまう方であったり、公的保健サービスだと〓移動〓支援が満足いかない方であったり、そういった方との、まず出会いがありまして。で、ここに、今の既存のサービスで何が課題になってるんだろうっていうことを考える中で、社会的課題とビジネスチャンスとして大きな場はないかなっていうのを考えて、いつも事業を考えるようにしていて。・・・一番重要なんで。

② 社会課題解決につながるビジネスチャンスはないか常にアンテナをはる

社会の動向に常に注意を払いながら、見つけた既存のサービスの課題に対し、そ こに自分の関心、会社としてのビジョンとすり合わせて事業として展開している。

普段の現場の活動と、あと特徴的なのは、やっぱり今の新型コロナウイルス感染症もそうですけど、社会的な何か変動期に、特にそういう問題がクローズアップしてくる(中略)。 既存のサービスで何が課題になってるんだろうっていうことを考える中で、社会的課題とビジネスチャンスとして大きな場はないかなっていうのを考えて、いつも事業を考えるようにし

ていて。会社がやる理由みたいなもの、一番重要なので。

(2) 自分がやりたいと思う気持ちを大切にする

事業の構想を練る際には、自分がやりたいと思う気持ちにも素直に向き合っている。

好きなことは、もうかんなくても続けられると思うんですね。ただ、得意なことじゃないと 世の中から評価されないので、その2つの軸があれば自分の方向は定まりやすいかなと。 自分自身も「ほんとにそれやりたいの?」とか、自分自身も「経営したいの?」っていうの も大切にしてます。

(3) 学習し、成長し続けられる組織を作る

① キャリアラダーを体系化する

社員の成長をシステマチックに管理するシステムを導入している。

うちの会社だと半年に1回は必ず評価をするんですけど。そういう人事制度をしっかりと、 こういうところに非常に苦労がありましたね。

② 結果だけでなくプロセスを大切にし、組織内で共有する

体系的な人事システムをベースに、社員一人一人の個別性を尊重できる独自の仕組

みを取り入れている。

デジタルもそうだし、アナログも含めて、お互いの気持ちとか思いとかが、確認したりで。 しかも、フィードバックできるのをすごく大切にしています。

何でその人が、では表彰されたのかのナレッジをシェアするってのを一番目的にして(中略)

③ 社員一人一人のビジョンを大切にする

それぞれが自分のビジョンを育て、自己学習する組織を作り出す。

その人が本当にやりたいというふうなマインドを持てるかどうかも含めてですね。(中略) 共有したりとか、学習し続けられる組織づくりみたいなものだと思んですけど。そういう、仕 掛けですよね。つくるようにして、私がいなくなっても、属人的にならないように、○○らし い組織風土みたいなものをつくるように心掛けてます。

(4)活動を行う上での手応えを感じる

① 新たなマーケットが生み出されたと感じる

競合が出始めたり、新しいビジネスモデルが出たことで法律が変わることで、社会に新しいものを生み出したと感じられる時手応えを感じる。

法律ができてからは、競合他社がそういうワンコインをいっぱいやり始めたので、私たちは ワンコインやめちゃって、ノーコインでやってるんですね。

② ビジョンを共有する仲間が増える

うまく社会のニーズを捉えた事業は、多くの場合既得権益の人たちから嫌がれるという。彼らをうまく巻き込むことで、その事業はさらに社会的要求度の高いものになっていく。

そういう人のことを自分から歩み寄ってしまったほうがよくて・・・中略・・・せせこまや るんじゃなくて、その方とも仲良くやって大きなことを成し遂げようっていう思いは、やっぱ り伝えにいくっていうようにしています。

事例概要図

響到 事業を生み出す新時代看 社会課題力

◆ 背景と目的:社会課題と既存サービスの間を埋める新事業を展開する。◆ 活動の概要:訪問看護ステーション運営、予防医療事業、インフォーマルな自費移動支援のためのプラットフォーム◆ 取り組みの成果:新たなビジネスモデルを生み出す。ビジョンを共有する仲間が増える○看護機能のキーワード:社会課題の解決、革新的サービス提供システムの構築、組織作り

活動の定着、発展の要件

①社会課題と既存のサービスのギャップを見つける。

②自分がやりたいと思う気持ちを大切にする。

③学習し成長し続けられる組織を作る。

活動を行う上での手応え

①新たなマーケットが生み出されたと感じること。 ②ビジョンを共有する仲間が増えること。

②訪問看護ステーション

一貫した教育システム投入で 新卒看護師をいち早く雇用

> 入念なフィールド調査後に展開。 新たな社会ニーズを掘り起こし、

法律改正に至る。

検診をもっと手軽に。

①予防医療事業

スタッフ定着率高い。

③インフォーマルな自費移動支援の ためのプラットフォーム

オリンピックを控え、社会課題となる移動 難民にアクセス(「移動難民にもオリン ピックを観に行ってもらいたい!」) 大規模なビジネスデザイン。

代表取締役 株式会社

動支援のためのプラットフォーム開発に着手。 事業を展開。訪問看護ステーション、自費移 病院で看護師として勤務後、独立し予防医療

VII. 3か年プロジェクト(2017~2019年度)総括

本研究プロジェクトは、2014年に「Social Community Nursing 機能に関する研究委員会」 (財団法人オレンジクロス) が組成されたことに端を発し、現在の研究ワーキンググループメンバーで、2017年度から研究を続けてきた。2019年度までの3年間の研究により、地域が抱える健康課題の解決に向けて、Social Community Nursing 機能を有する看護職が、有用な存在になり得ることが示された。

ここでは、本研究プロジェクトがどのような認識で Social Community Nursing 機能を捉え、研究に取り組んだかについて、「1)「Social Community Nursing 機能」の研究の経緯」で説明した後、「2) 得られた主な知見」を紹介し、「3) まとめ」を述べていく。

1. 「Social Community Nursing 機能」の研究の経緯

一般財団法人オレンジクロス財団は、「Social Community Nursing 機能」の研究を行う趣旨で、「Social Community Nursing 機能に関する研究委員会」を立ち上げた。研究会が発足した 2014 年度以降、Social Community Nursing 機能の定義に焦点を当てた議論がなされていたが、明確な定義には至ら経ず、現ワーキングメンバーが引き継いだ。

機能とは、「ある物が本来備えている働き。全体を構成する個々の部分が果たしている固有の役割。また、そうした働きをなすこと。(広辞苑)」と説明されている。また、英語の Function では複数の意味があるが、「a special activity or purpose of a person or thing (人や物の特別な活動や目的) (OXFORD English-English Dictionary)」が、ここでいう「機能」の意味に最も近い説明だろう。これら「機能」の意味から考えると、対象となる事象 (活動や働き)を記述することで、機能を定義出来る可能性があると我々は考えた。

そこで、どのような活動を対象とすべきか検討を行った。我々の研究メンバーになる前(2014 年度~2016 年度)の議論で想定していた Social Community Nursing 機能は、医療的側面が色濃かった。そのため、2017 年度の調査では、地域で広く医療的側面にも手を伸ばし活動を展開しているのは、看護職が多いだろうという想定の元、調査の対象を看護職とした。その活動を記述することで、オレンジクロス財団が想定している Social Community Nursing 機能を取り出せる可能性が高いと考えた。そこで、2017 年度は、Social Community Nursing 機能を"既存の制度や枠組みにとらわれずに地域のニーズを拾い出し、ニーズに対応する形で発揮される多様な機能"ととらえ、先駆的な活動をしている看護職の中に Social Community Nursing 機能が存在するものであろうと仮説を持ち、研究対象者たちを Social Community Nurses (SCNs) として、研究に取り組んだ。

2. 得られた主な知見

初年度の2017年度は、SCNsの活動内容/効果の明確化と類型化に取り組んだ。対象となったSCNsは、フリーランスとして糖尿病患者の疾病管理を行う者や、教育機関に所属しホームホスピスを設立・運営する者等がいた。活動の基盤は、訪問看護ステーションや診療所、自治体など様々であったが、概ね共通する7つの活動技法を抽出した:1)オープンな環境を作る、2)対象(地域・個人・患者)の潜在・顕在ニーズを把握する、3)迅速に対応する、4)ニーズを元に新たな形態のケア(ケア領域)を開拓する、5)組織間のつなぎ役となる、6)地域のヒューマンリソースを育てる、7)地域に溶け込み馴染む。また、活動の類型化を試みた結果、3つの類型化を示した:「アプローチの焦点に関する類型化」「主たる活動範囲に関する類型化」「看護の仕事に対する境界による類型化」。これらのことから、SCNsは個々人が持つ強みを基に、自治体や地域組織と有機的に繋がり協働していることが明らかとなった。

2018 年度には、前年度の対象者が活動を展開している一地域に焦点を当て、SCNs による活動の基盤形成プロセスの明確化とSCNsの活動が地域住民へ与える影響を明らかすることを目的として研究を行なった。その結果、数年以上をかけて自治体や地域組織に溶け込むことで活動を展開できている様子が窺われた。また、特に個人を対象とした活動が、地域住民の「医療や介護に関する安心感」の高さと関連していることが明らかとなり、SCNsの活動が地域住民の安心感に寄与する可能性が示唆された。

2019 年度には SCNs の活動の定着要件について、2017 年度の調査対象者を中心にインタビュー調査を行った。その結果、SCNs は「自分たちが地域を良くしたいという思い」を持ち、「地域(活動)に溶け込み」、「持続可能な体制をつくる」ことで活動を徐々に軌道に乗せていた。そして、活動内容や仕組みなどを「変化するニーズに合わせて変えていく」ことで、「社会や地域の中で役割を果たす」存在として、SCNs の活動が地域に位置づいていった。それにより、「財源を確保する」ことが容易となり、活動が定着していっていた。

3. まとめ

1) Social Community Nursing 機能について

この3か年の研究プロジェクトにおいて、Social Community Nursing 機能を"既存の制度や枠組みにとらわれずに地域のニーズを拾い出し、ニーズに対応する形で発揮される多様な機能"と捉え、この機能を発揮している看護職を Social Community Nurses (SCNs)と操作的に定義して、研究を進めてきた。

SCNs の活動に共通するものとして、住民の視点から考えると「①日常的に近くにいて、②保健・医療・介護で困ったときに、気軽に話をすることが出来る。③また、住民自身が気づいていなくても、住民の異変に気づき、④より健やかに生活するための関わりをしてくれる。」ということであろう。ここでは、単に地域住民から話を受けるので

はなく、まだ問題にもなっていない状態の時から、気軽に話が出来るような関係を作る ことが含まれている。これらを、住民の視点ではなく、「機能」として捉えると、Social Community Nursing 機能とは、「①地域住民の日々に自然と存在し、②保健・医療・介 護に関する気軽に話す相手となり、③住民(個人・地域)の異変を感知し、④予防や維 持、回復のために努める」と言えるのではないか。

本研究の対象者らは様々な場所で様々な活動を行っていたが、上述の①~④が機能として共通していると考えられた。これらの機能をどのように活動に落とし込むかについては、各々の SCNs の強みや地域の状況によって異なるため、非常に多様な活動が観察された。時代や地域が変われば、求められる Social Community Nursing 機能は変化していく可能性は十分にあるものの、本研究が示した機能及び、活動技法のバリエーションは、地域での活動を展開したいと考える看護職に対して、参考となる基礎資料となり得るだろう。

2) 地域や既存機関とのつながり

多くの SCN s は単独での活動ではなく、既存の体制(例えば、職能団体、行政保健師、地域の様々な団体等)と繋がり、既存の体制やシステムの中に役割を見出していた。このように繋がり、役割を認知されると、自動的に様々な仕事が依頼され、活動資金にも大きな問題を抱えずに安定的に活動を継続出来ているようであった。

このような体制を築くには、数十年~数年の年月を要しており、新たに活動を行う者は、焦らずゆっくりと無理ない体制で実績を長期的に積み重ねていくことが必要であろう。積み重ねていく実績は、自組織で作成した広報誌、地域の広報誌、Social Networking Service など、様々なツールを用いて発信していくことが、地域や既存機関、また、地域住民に広く認知されることにつながるだろう。

3) Social Community Nursing 機能の展望

(1) Social Community Nursing 機能の範囲

2014 年~2016 年度の Social Community Nursing 機能に関する研究委員会では、Social Community Nursing 機能がどの範囲で機能するのが望ましいか、議論が行われていた。そこでは、中学校区に一つの規模ではカバーする人数が多すぎるため、Social Community Nursing 機能を持つ者を小学校区ごとに配置することが望ましいのではないか等の意見が出されていた。2017 年度以降の本研究プロジェクトの知見から考えると、どの範囲で SCN 機能を有する者を配置するか、一律に既定するのは難しいように思われる。2018 年度の Social Community Nursing 機能の効果検証については、SCNs が概ね小学校区を範囲に活動している地域を取り上げ、SCNs による活動の効果を示した。小学校区に Social Community Nursing 機能を有する者を配置することで、地域住民に一定の効果がある可能性は示唆されたが、あくまでも一地域での検証に過ぎない。今後、Social Community Nursing 機能の普及・拡大を検討する際には、どのような地域範囲に焦点を当てていくのか、さらなる議論が必要であろう。

(2) Social Community Nursing 機能を有する者の活動基盤

また、本研究の対象となった SCNs は、複数の活動を展開しているものの、基盤としている場を持っている者が多かった。Social Community Nursing 機能は、どのような活動基盤で、その機能を働かせることが望ましいのか、一つの主要な論点であろう。そのため、活動の基盤となる場が多様になるように、2017・2019 年度の調査対象者のリクルートを行った。例えば、病院、診療所、訪問看護ステーション、保健所、まちの保健室、大学などであり、SCNs による活動や地域の特徴によって、適切な活動基盤は異なっているようであった。しかし、共通して見えてきたのは、なるべく多くの地域住民と関われるようで、一つの固定された場所のみならず、地域住民と日常的に関われる複数の場を作り出していた。このことから、Social Community Nursing 機能においては、住民の日常に接せられるようなチャンネルを作り出し、それらを日々更新していくことが重要であろう。

(3) Social Community Nursing 機能が属するもの

Social Community Nursing 機能は必ずしも属人的である場合に限定されない。例えば、病院や組織そのものが機能を有しているとも捉えることが可能であり、今後、Social Community Nursing 機能を有した地域・病院・診療所と、称していくこともあるだろう。しかし、たとえ Social Community Nursing 機能を地域・組織に属するものとして捉える場合であっても、その地域・組織内で実際に動くのは人であり、どのように Social Community Nursing 機能を有する人材を充て、育成するのかは、今後の大きな課題であると考えられる。

(4) Social Community Nursing 機能を有する人材候補

2019 年度の研究で、SCNs の活動の継続要件の一つとして「自分たちが地域を良くしたいという信念」が挙げられた。この信念を持つ者は、誰もが Social Community Nursing 機能を果たす可能性があると考えられた。また、「活動とプライベートを重ねる」ことも活動継続の要件の一つとして挙げられた。例えば、子育て中の者は、子供のコミュニティでのつながりを生かし、趣味活動を持っているものは趣味のコミュニティを生かして、Social Community Nursing 機能を果たすことも可能であろう。

さらに、本調査対象者の語りから、Social Community Nursing 機能を有した人材として、引退後の保健師・看護師等も適している可能性があると考えられた。SCNs が行っていた活動は、保健・医療・介護を軸とした内容であっため、一定の保健・医療・介護の知識や経験が必要であると考えられる。また、このような活動をするためには、地域住民が「この SCNs に話をしたい」と思うことが必要であり、そのために SCNs は地域に溶け込み受け入れられるステップを踏む必要があった。また、受けた相談を、他の組織や機関につなぐ必要が出てきた場合、既存の地域資源の知識やつながりを持ち合わせていると、より機能しやすいと考えられた。そのため、ある地域に根差して

活動してきた実績が中長期的にある引退後の保健師・看護師等が相談機能を持つことが、Social Community Nursing 機能が働きすいと考えられた。

(5) Social Community Nursing 機能を有する人材の育成と普及について

今後の教育研修体制について考えるにあたり、島根県雲南市を中心に発展を遂げているコミュニティナースの取り組みが参考となりそうである。コミュニティナースとは、「日常的に街のなかや暮らしのなかに存在して、人々が楽しいと感じたり元気になったりすることを応援する、医療や看護の知識・技術を持った人」とされている。コミュニティナースの取り組みの代表者らは、NPO法人設立を皮切りにコミュニティナース育成プログラムを確立し、株式会社を設立してコミュニティナースの育成、並びに、育成プログラム修了生らの活動の場の開発も積極的に行ってきている。既に育成プログラムの修了生は100名を超えている。これらを参考に、Social Community Nursing機能を獲得することを目指した研修プログラムを検討することは、今後の発展を考える上では必要なステップの一つであろう。

しかし、コミュニティナースとして活動を積極的に展開している者も存在する一方で、必ずしも研修終了後すぐにコミュニティナースとしての活動が、軌道に乗る者ばかりではないことも報告されている。本研究の知見から考えると、「自分たちが地域を良くしたいという信念」を持っていたとしても、地域に溶け込む準備にある程度の時間がかかるため、すぐに活動を展開することが、必ずしも正解とは言えない場合もあるだろう。地域に溶け込む準備期間を持ちながら、5年後・10年後の地域社会で役割を持てるよう、まずは小さく活動を始めて根気強く継続していくことが重要であろう。

現任教育においては、保健師・看護師のキャリアデザイン研修などを積極的に行うことで、保健師・看護師の活躍の多様性を認識し、SCNs として活躍する者の裾野が広がる可能性がある。また、潜在看護師もその Social Community Nursing 機能を有する人材として、活躍できる可能性があろう。

看護基礎教育に目を転じると、Social Community Nursing 機能を持つ人材を教育するために、看護の対象・活動の場の多様さを、さらに強調して伝えていく必要があろう。従来の看護基礎教育では、疾患・障害を持つ患者を、看護の主たる対象と捉えて教育してきたことは否めない。近年、地域包括ケアシステム・地域共生社会の考え方の浸透と共に、多くの看護職が未病の段階での予防や、健康を維持するために地域で看護することに目を向け始めている。この好機を逃さず時流に乗り、新たな看護の在り方をどのように基礎教育に盛り込んでいくか、前向きに検討することが期待される。

(6) 最後に

私たちが調査対象とした SCNs 以外にも、地域の人々の健康ニーズを捉え、枠にとらわれずに活動を展開している看護職を、私たちはあらゆる場所で見聞きしてきた。

この全国的なムーブメントとも思える活況からすると、今まさに Social Community Nursing 機能の萌芽期にあると考えられる。これは、地域のニーズの変化と共に、人生 100 年時代の中で、看護職の仕事のあり様が変わりつつあることを意味しているのだろう。看護職であっても、一組織での仕事を行うにとどまらず、複数の活動を持ち、生涯を通して再創造を繰り返すように活動の場を広げていくことが、より健康で豊かな地域社会につながると期待したい。

VⅢ. 資料

令和元年度 Social community Nursing (SCN) 機能の 定着要件の探求

計画

Social Community Nursing (SCN)機能に関する 研究委員会

2019年7月

SCN研究委員会

これまでのSCN研究委員会の流れ 2

9月SCN研究委員会発足

「SCNの必要条件」は対象者や地域をアセスメントできることと、仮説を立てる。

H29年度以降の研究計画を策定

「SCN機能を有する看護職の活動内容/効果の明確化と類型化」

「SCN機能を発揮する 基盤形成プロセスの明確化と SCN機能が地域住民へ与える影響の関連」

SCN機能の定着要件の探求

SCN機能の拡大・普及・社会実装

SCN研究委員会

背景

3

- 平成29年度の研究では、全国の**SCN機能を有する看護職の実態**を把握するために、活動内容と効果の明確化と類型化を行なった。
- ・ 平成30年度は、SCNsが地域組織と協働してSCN機能を 発揮するプロセスの記述と、SCNsによる地域活動が地域に住む高齢者へ与える影響を検討した。

SCN機能の拡大・普及・社会実装に向けて SCN機能が**定着する要件**を明らかにする必要がある

SCN研究委員会

目的

• SCN機能が定着するための要件を探求する。

意義

• SCN機能が定着する要件を明らかにすることで、SCNs や、これからSCNsを目指す看護職が活動をする上で参考となる重要な指針となる。

SCN研究委員会

方法①

5

6

4

- デザイン:
 - インタビュー・参与観察を用いた質的研究
- 対象者:
 - 平成29年度に調査対象となったSCNs 9名
 - 新たにリクルートするSCNs 数名

SCN研究委員会

方法② 対象者

____ 勤務先の種類 活動内容 フリーランス フリーランス看護師として糖尿病患者の疾病管理を行う みんなの保健室 診療所が行うプロジェクト「みんなの保健室」 診療所 診療所で活躍するスーパーナース 医療機関の経営を通して地域の「つなぎ役」となる地域 社会医療・福祉法人 看護師 下町から社会を見つめるかかりつけナース 訪問看護ステーション ここでずっと暮らせるように地域を紡ぎ合う看護実践 大学 看護系大学教員によって設立されたホームホスピスK 地域包括支援センター 地域のニーズを形にする保健師 保健センター 復興段階に応じた健康づくりアプローチを展開 看護職職能団体 地域で活躍する訪問看護師を支援する職能団体

SCN研究委員会

方法(3)

• データ収集方法

- 参与観察

SCNs1人に対し、1~2名の研究メンバーが参与観察を実施する。 SCNsの活動に終日同行し、その活動の詳細を記録用紙と フィールドノートに記録する。

- インタビュー

インタビューガイドに沿った半構造化面接を実施する。 インタビューは、参与観察の後に実施し、参与観察中の疑問点 も質問をする。

SCN研究委員会

方法(4)

8

9

- 分析対象データ
 - 平成29年度 参与観察・インタビューデータ令和元年度 参与観察・インタビューデータ
- 分析方法
 - 平成29年度 データ
 - SCN機能を定着させるための要件に着目して、再度分析を行う。
 - 令和元年度
 - インタビューデータ:

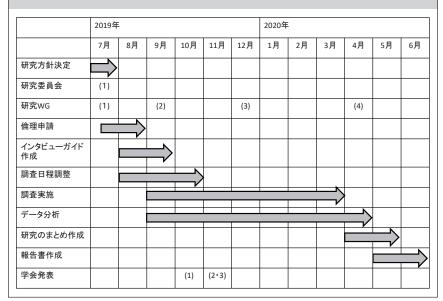
逐語録を作成し、2年間の活動の経時的な変化を整理する。次に、SCN機能を定着させるための要件に着目して、コードを付ける。コードの類似性・相違性に従い、カテゴリー化する。

・ フィールドノートに記述されたデータ

- SCN機能を定着させるための要件に着目して、コードを付ける。 コードの類似性・相違性に従い、カテゴリー化する。
- 逐語録とフィールドノートの結果を踏まえて、SCN機能を定着 させる要件を記述する。

SCN研究委員会

スケジュール



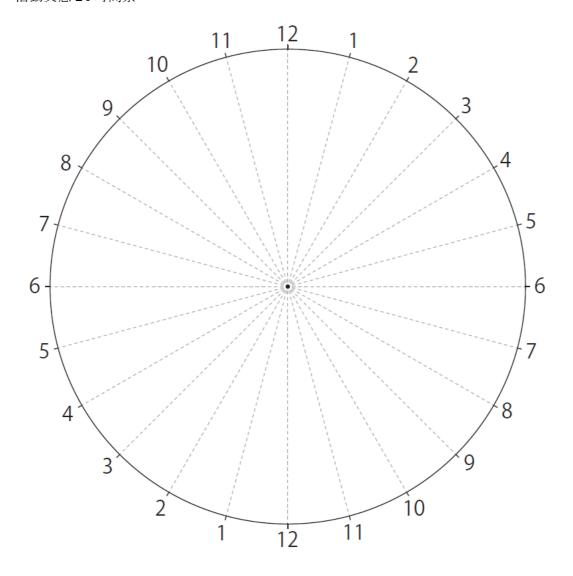
新規 調査協力者様用 インタビューガイド

インタビューガイド

- 普段はどのように仕事でお過ごしでしょうか。
 →24 時間表に平均的な一日の過ごし方を書いてもらう。
- 2. 具体的に、地域(住民)のニーズを拾いだし、そのニーズの解決を実施した 1 事例について、詳しく教えていただけますか。
 - 1) どのようにその方(地域住民)のニーズに気付いたのですか?
 - 2) どのようにその方(地域住民)のニーズに対応していったのですか?
 - 3) その方(地域住民)は、最終的にどのような状況になりましたか?
 - 4) その方(地域住民)の周囲の方々はどのような状況になりましたか?
- 3. あなたが活動(を継続)される上で大切にされていることは何ですか?
 - 1) この活動をされていてよかったと思うことはありますか? それはどんな時ですか?
 - 2) 活動の手ごたえを感じることはありますか?
- 4. お話しいただいたような活動が拡大していくためには、どのようなことが課題だとお考えでしょうか。

ID:			

活動実態 24 時間票

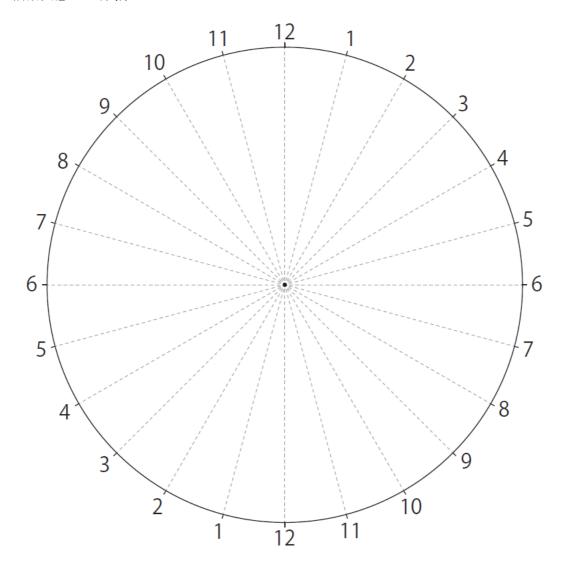


継続 調査協力者様用 インタビューガイド

- 現在はどのように仕事(活動)をされていますでしょうか。
 →24時間表に平均的な一日の過ごし方を書いてもらう。
- 2. 前回お話しを伺ってからの約2年間のご様子を教えてください。※平成29年度報告書 「事例紹介 1)活動内容」の内容に沿ってそれぞれの活動に 内容のご様子を伺う。
 - (ア) 今の状態になっているのは、どうしてだと思いますか。
 - (イ) 今の状態になっているのには、地域の特徴による影響はいかがでしたでしょうか。
- 3. 今までの活動の中で、特に行なってよかったと思う活動はどちらでしょうか?
- 4. 活動することで、地域の人はどのように変わりましたか?
- 5. 活動を続けていく上で、大切にされていること、工夫されていることはなんですか。
- 6. 活動の定着にはどのようなことが大切だと思いますか?
- 7. これからも活動を継続していくためには、どのようなことが課題だとお考えでしょうか。
- ※インタビューの中で話題に挙がらなかったら、以下の質問も伺う。
- 8. 活動を継続するために財源はどのようにされていますか?

ID:			

活動実態 24 時間票



Social Community Nursing (SCN)機能の 定着要件の探求

2020年6月

編集・発行 一般財団法人オレンジクロス

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-12-11 杉山ビル 6F

TEL: 03-6228-7216

無断転載禁止